

第 52 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議

日時：令和 3 年 6 月 16 日（水）12 時 00 分～

場所：大阪府新別館南館 8 階 大研修室

次 第

議 題

- (1) 現在の感染状況・療養状況等
 - ・現在の感染状況について【資料 1 - 1】
 - ・現在の療養状況について【資料 1 - 2】
 - ・療養者数のシミュレーションについて【資料 1 - 3】
 - ・感染状況と医療提供体制の状況について【資料 1 - 4】
 - ・(参考) 新型コロナウイルスの懸念される変異株について【資料 1 - 5】
 - ・宿泊療養施設について【資料 1 - 6】
 - ・滞在人口の推移【資料 1 - 7】

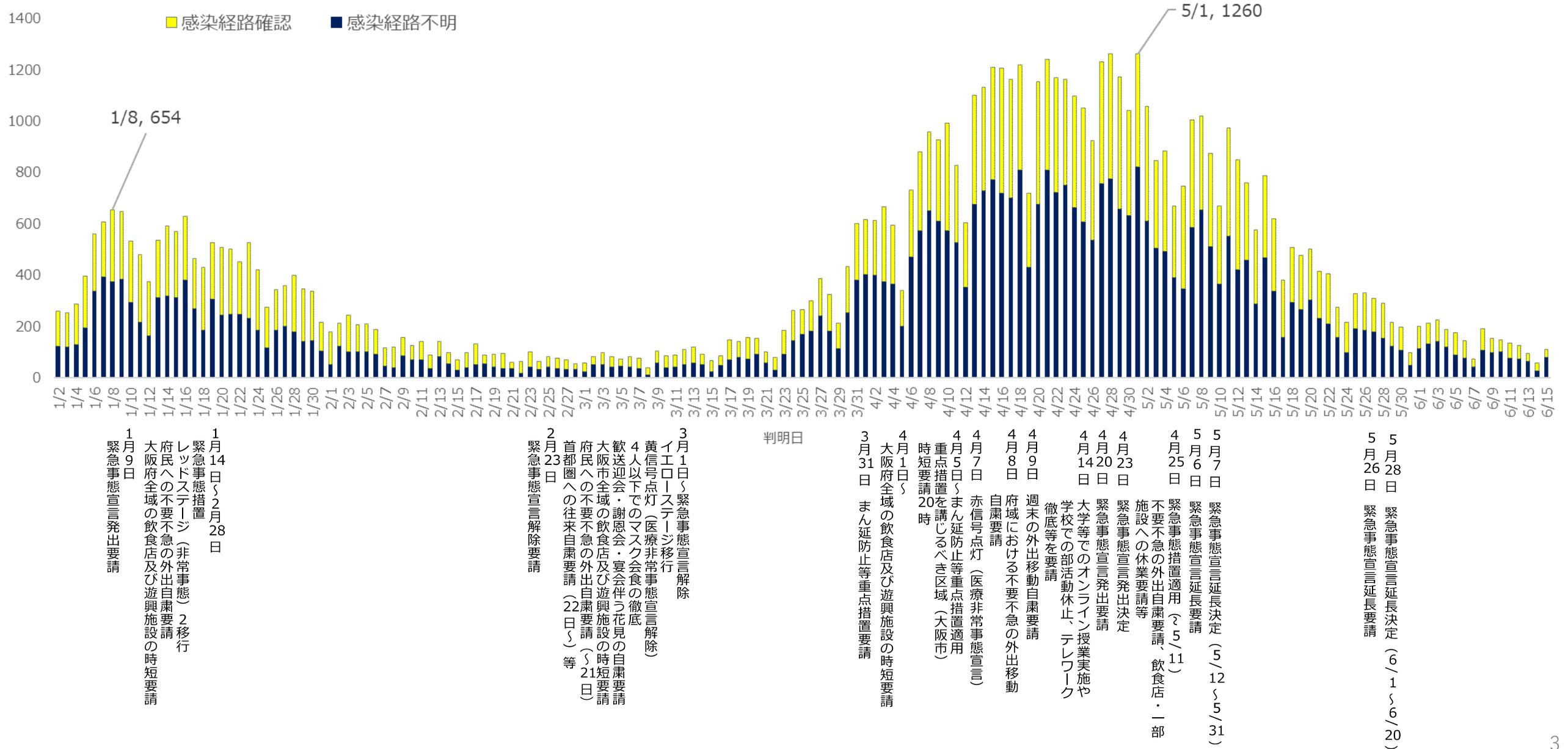
- (2) 感染防止対策の強化に向けた取組み
 - ・営業時間短縮要請の実効性確保に向けた取組み【資料 2 - 1】
 - ・感染防止認証ゴールドステッカー制度について【資料 2 - 2】
 - ・飲食店「スマホ検査センター」の活用【資料 2 - 3】

- (3) まん延防止等重点措置を実施すべき区域における要請等
 - ・まん延防止等重点措置を実施すべき区域における要請【資料 3 - 1】
 - ・専門家のご意見【資料 3 - 2】

- | | | |
|---|------------|--------|
| 1 | 陽性者数等の推移 | P2~17 |
| 2 | 市内・市外の比較 | P18~22 |
| 3 | 年代・居住地別の比較 | P23~27 |
| 4 | 感染経路 | P28~31 |
| 5 | 感染エピソード | P32~40 |

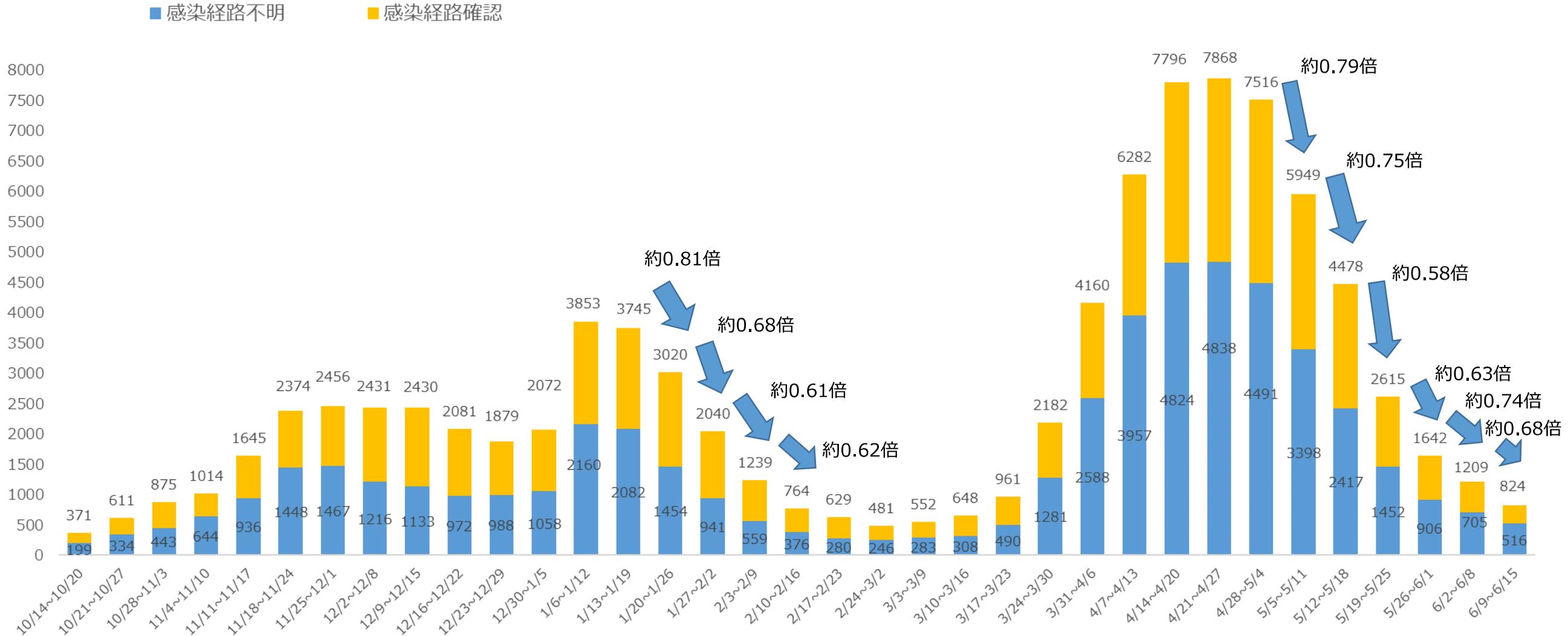
1 陽性者数等の推移

陽性者数の推移



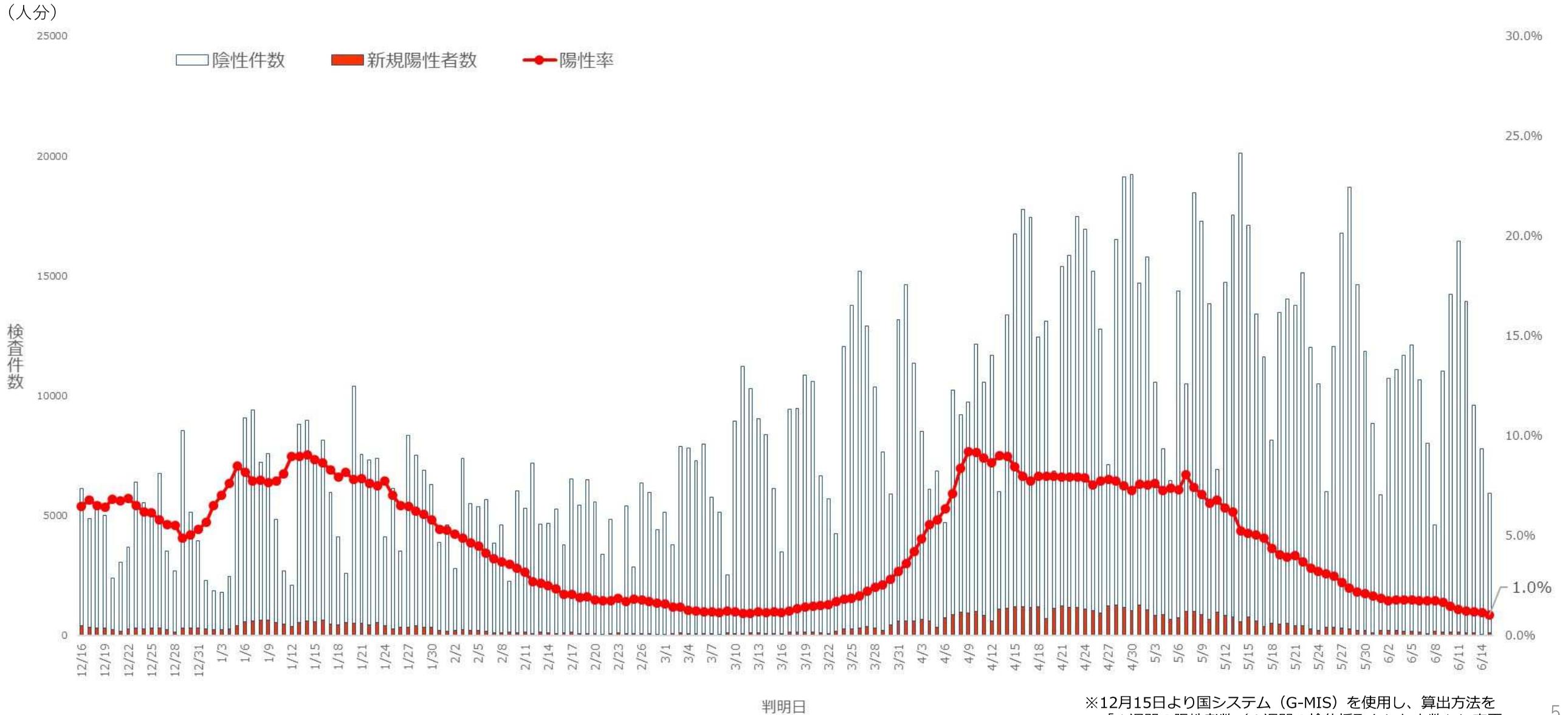
7日間毎の新規陽性者数

直近3週間は、減少幅がやや鈍化の傾向。一日平均約117名の新規陽性者が発生。



検査件数と陽性率

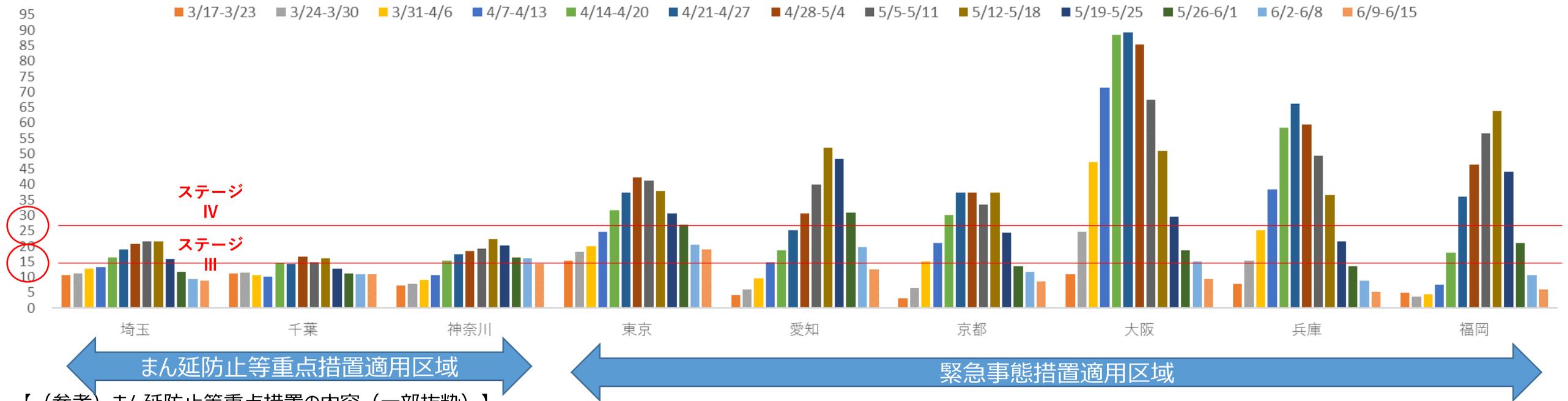
4月9日・10日をピークに陽性率は低下。



※12月15日より国システム（G-MIS）を使用し、算出方法を「1週間の陽性者数／1週間の検体採取をした人数」に変更

第四波緊急事態宣言発令区域（一部都道府県） 週・人口10万人あたり新規陽性者数

◆ 緊急事態措置適用区域の東京都、愛知県、関西2府1県、福岡県は、措置適用後、新規陽性者数が比較的大きく減少。

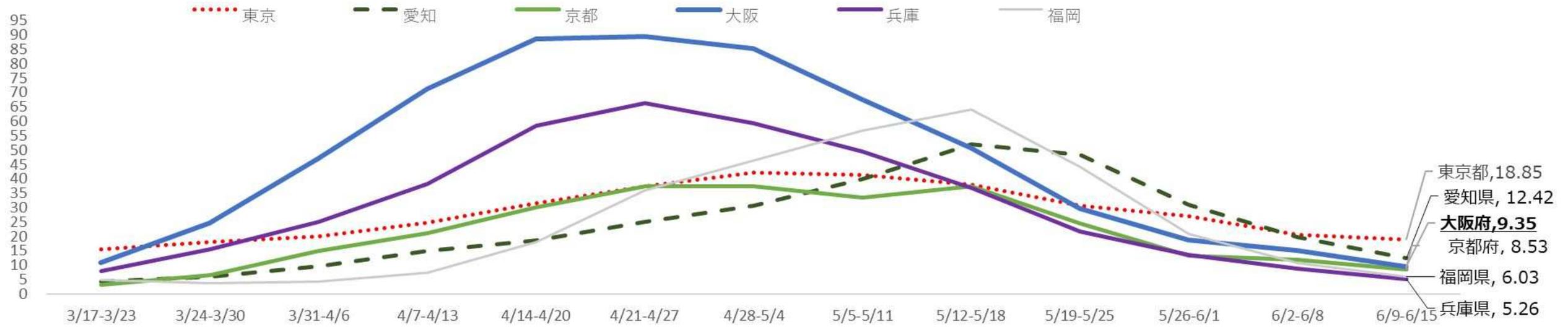


【（参考）まん延防止等重点措置の内容（一部抜粋）】

		まん延防止等重点措置適用区域		
		埼玉県	千葉県	神奈川県
飲食店	措置区域	時短20時（酒類終日自粛）	時短20時（酒類終日自粛）	時短20時（酒類終日自粛）
	措置区域外	時短21時（酒類終日自粛） ※一人または同居家族との場合は20時まで可	時短21時まで （酒類11時～20時）	時短21時まで（酒類11時～20時）
施設	措置区域	時短要請等（20時）・酒類終日自粛	時短要請等（20時）・酒類終日自粛	時短要請等（21時）
	措置区域外	時短協力依頼要請等（21時）・酒類終日自粛	時短協力依頼要請等（21時）・酒類11時～20時	時短協力要請等（21時）
外出自粛		生活に必要な場合を除く、日中を含めた外出の自粛		

第四波緊急事態宣言発令区域（一部都道府県） 週・人口10万人あたり新規陽性者数

- ◆ 3月以降、関西2府1県は感染が急拡大したが、東京都は関西圏と比較すると感染拡大が抑えられた。愛知県、福岡県は、4月末以降感染が急拡大。
- ◆ 他府県と比べ、関西2府1県は、3月上旬より変異株が本格的に置き変わり始めた。



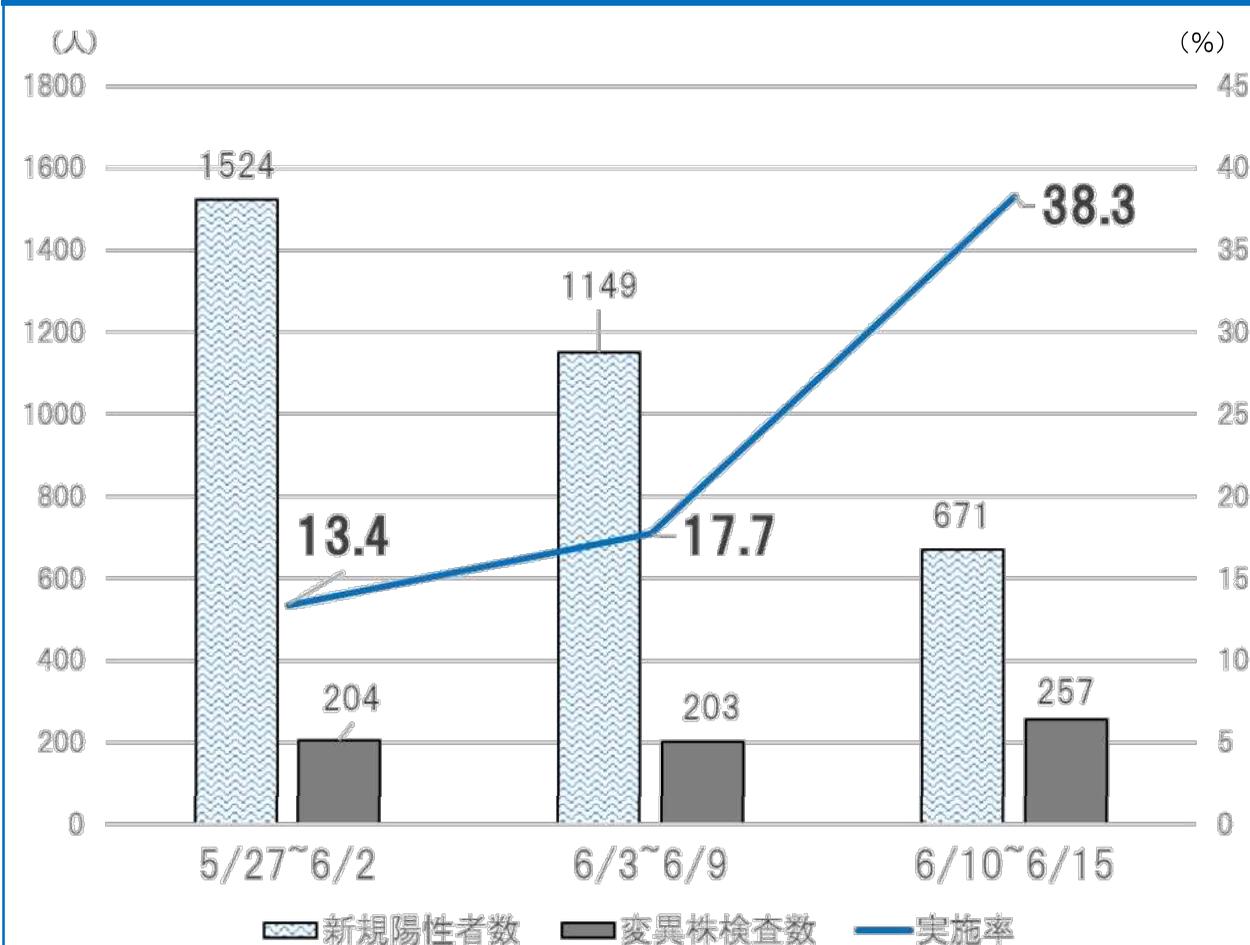
変異株置き換わりの割合	都府県	3月上旬	4月上旬	5月上旬	6月上旬
	東京都	—	約0.25	約0.75	約1.00
	大阪府	約0.25	約0.75	約1.00	約1.00
	京都府	約0.25	約0.75	約1.00	約1.00
	兵庫県	約0.25	約0.75	約1.00	約1.00
	愛知県	約0.20	約0.50	約0.85	約1.00
	福岡県	—	約0.25	約1.00	約1.00

(※) 501Y変異検出数／501Y-PCRスクリーニング件数（第38回アドバイザリーボード資料3-2を元に記載）。割合は大阪府が資料より推定したものであり、正確を期すものではない。

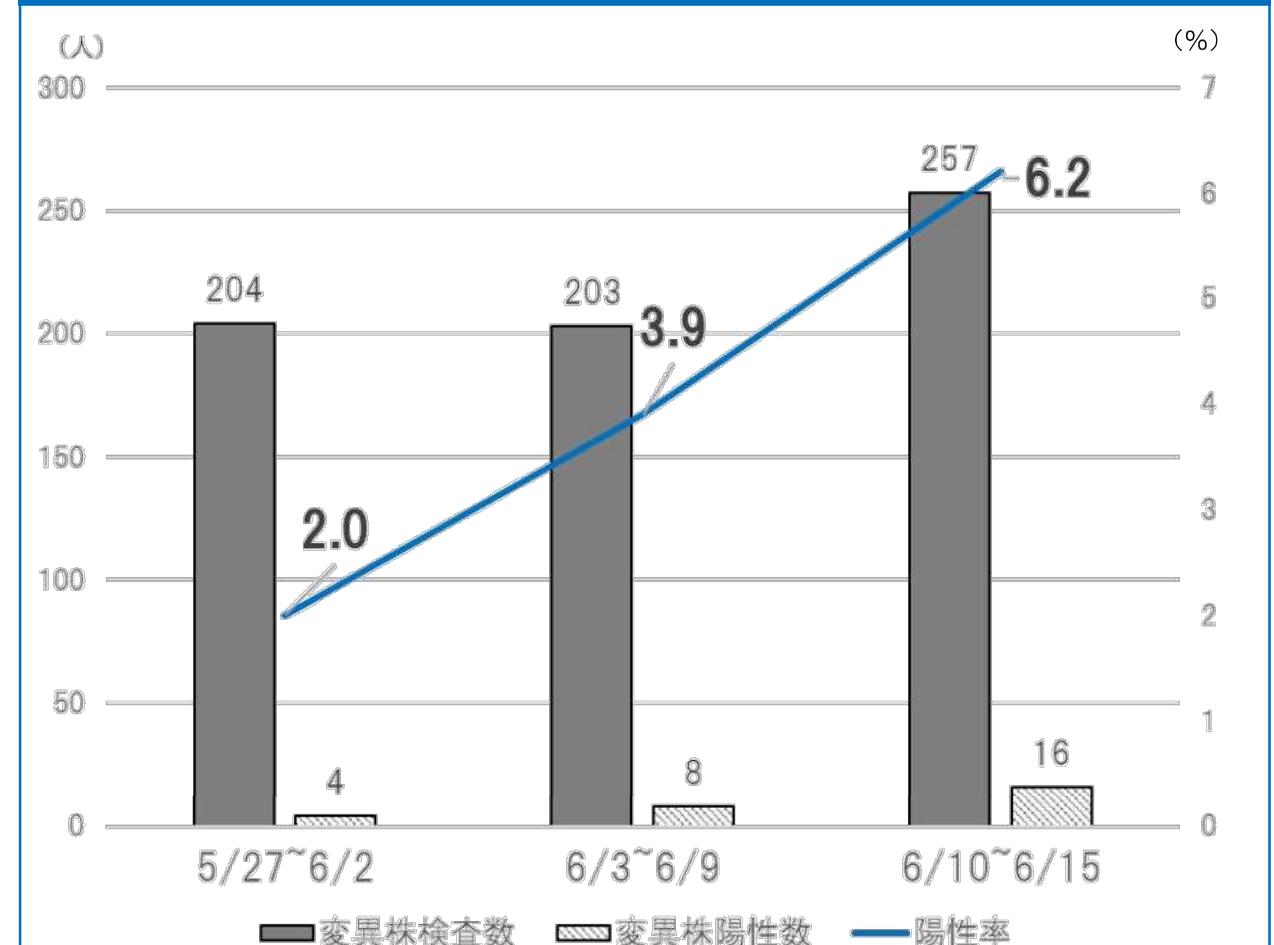
L452R変異株スクリーニングの実施率及び陽性率

○一般財団法人阪大微生物病研究会でのスクリーニングが始まった5月下旬から1週間毎に集計。（国が委託する大手民間検査機関分も含む）
 新規陽性者及びスクリーニング陽性数は当該週の公表数、スクリーニング検査数は当該週に結果判明した件数として、実施率及び陽性率を算出。

新規陽性者数及びスクリーニング検査数（実施率）



スクリーニング検査数と陽性数（陽性率）



※6/10~6/15の週は、6日間の集計値。

※スクリーニング検査数には、インド等への渡航歴がある者やデルタ株等陽性患者との接触歴がある者の検査数を含む。

大阪府 週・人口10万人あたり新規陽性者数の推移と措置

- ◆ 大阪府では、まん延防止等重点措置適用要請時点でステージⅣ（25人）を上回り、措置適用時は40人を超過。措置の効果が見られる2週間後に新規陽性者数が横ばいとなったことから、まん延防止等重点措置は増加を抑制する効果はあったものの、減少には至らず。
- ◆ 緊急事態措置適用後、新規陽性者数は急減。



【主な要請内容】

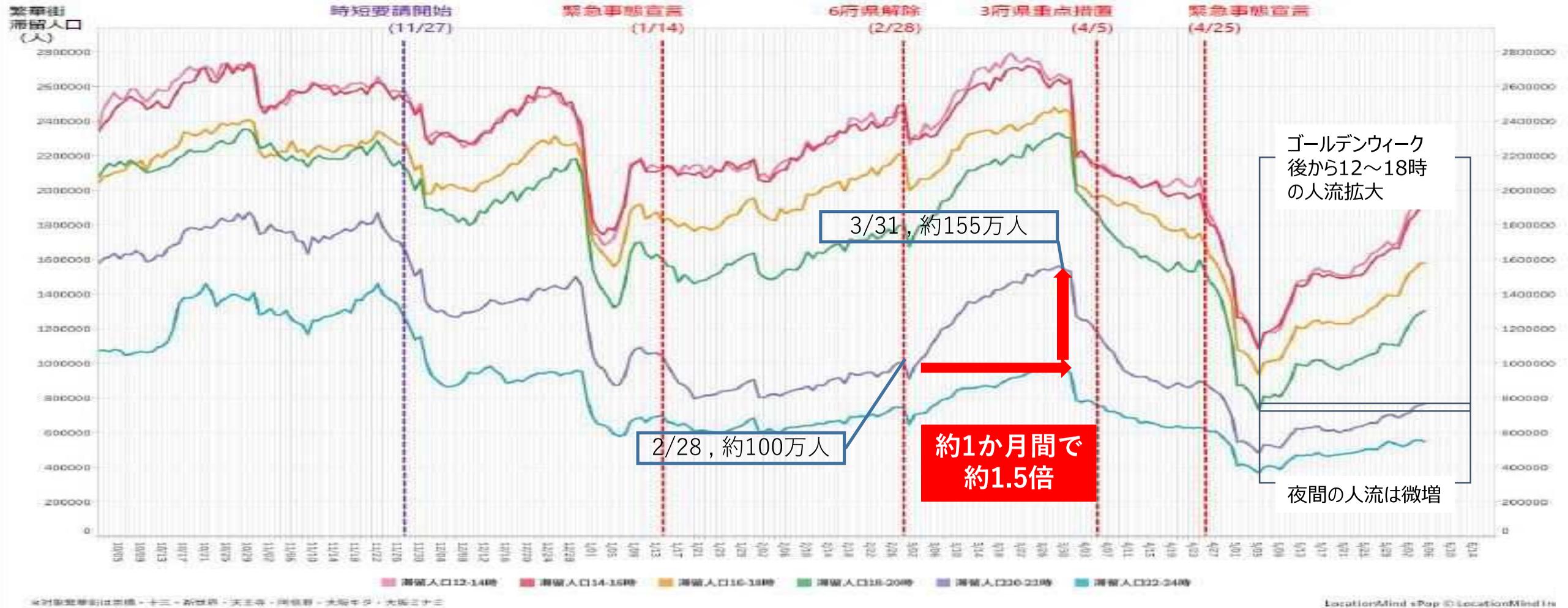
	まん延防止（4/5～）【市内】	緊急事態措置（4/25～5/31）【府域 以下同】	緊急事態措置（6/1～6/20）
飲食店	○時短要請等（20時）	○酒類・カクテル提供：休業要請 ○酒類・カクテル提供無：時短要請等（20時）	○左記に同じ
飲食店以外の施設	○時短協力依頼等（20時）	○1000㎡超：休業要請 ○1000㎡以下：時短協力依頼等（20時）	○1000㎡超：平日 時短要請等（20時） 土日 休業要請 ○1000㎡以下：時短協力依頼等（20時）
イベント	○上限5000人かつ収容率50%（大声あり）等	○無観客開催要請	○平日 上限5000人かつ収容率50% 時短(21時) ○土日 無観客開催要請

第三波以降の大阪府の人流の変化

- ◆ 大阪府は緊急事態宣言終了後、約1か月間かけて約1.5倍に拡大し、この間、人流が活発に交流。
- ◆ ゴールデンウィーク以降、昼間から18時までの人流が急増。

時間帯別主要繁華街滞留人口の日別推移：大阪（2020年10月1日～2021年6月6日）

緊急事態4/25



第38回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料3-4より抜粋。繁華街滞留人口は、NTTドコモが提供する「ドコモ地図ナビ」のオートGPS機能利用者より、承諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報をNTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータを使用。主要繁華街にレジャー目的で移動・滞留したデータを抽出。数値は大阪府が資料より推定したものであり、正確を期すものではない。

【参考】東京都の人流の変化

◆ 東京都は、3月21日緊急事態宣言終了後、10日間で約1.5倍に人流が拡大。

時間帯別主要繁華街滞留人口の日別推移：東京（2020年10月1日～2021年6月6日）

緊急事態4/25



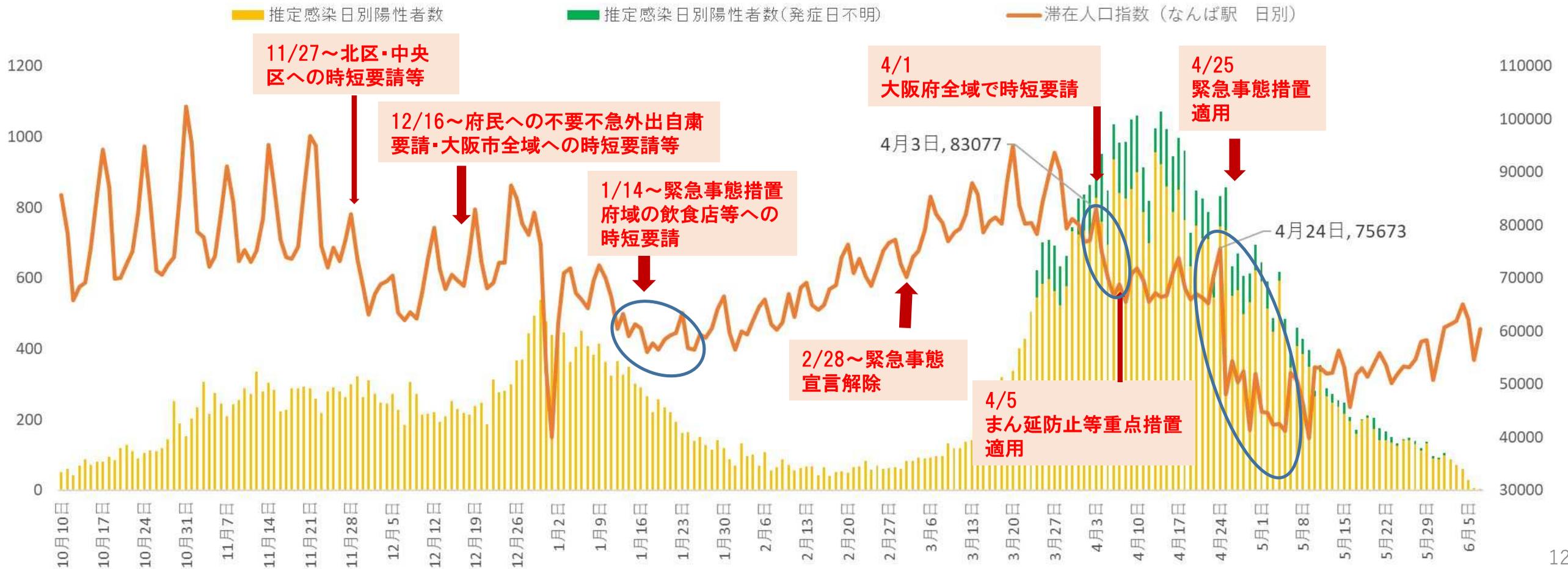
第38回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料3-4より抜粋。繁華街滞留人口は、NTTドコモが提供する「ドコモ地図ナビ」のオートGPS機能利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報をNTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータを使用。主要繁華街にレジャー目的で移動・滞留したデータを抽出。
数値は大阪府が資料より推定したものであり、正確を期すものではない。

推定感染日別陽性者数と人流について【日別 6月14日時点】

- ◆ 第三波の緊急事態宣言発令直後と比べ、人流抑制による感染収束を目的として措置を強化している第四波は、措置適用4月25日以降、人流が大きく減少し、減少している期間が比較的長い。
なお、4月5日のまん延防止等重点措置適用直前に人流は減少したが、すぐに横ばいに転じた。
- ◆ ゴールデンウィーク後、人流は増加傾向（2月下旬の緊急事態宣言解除前と同様の傾向）。

感染から発症まで6日、発症から陽性判明まで7日と仮定すると、概ね6/2～6/14の間は、今後、新規陽性者の発生に伴い、増加。

人流は、駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウントしており、前述のアドバイザーボードの人流データとは異なる。【出典：株式会社Agoop】

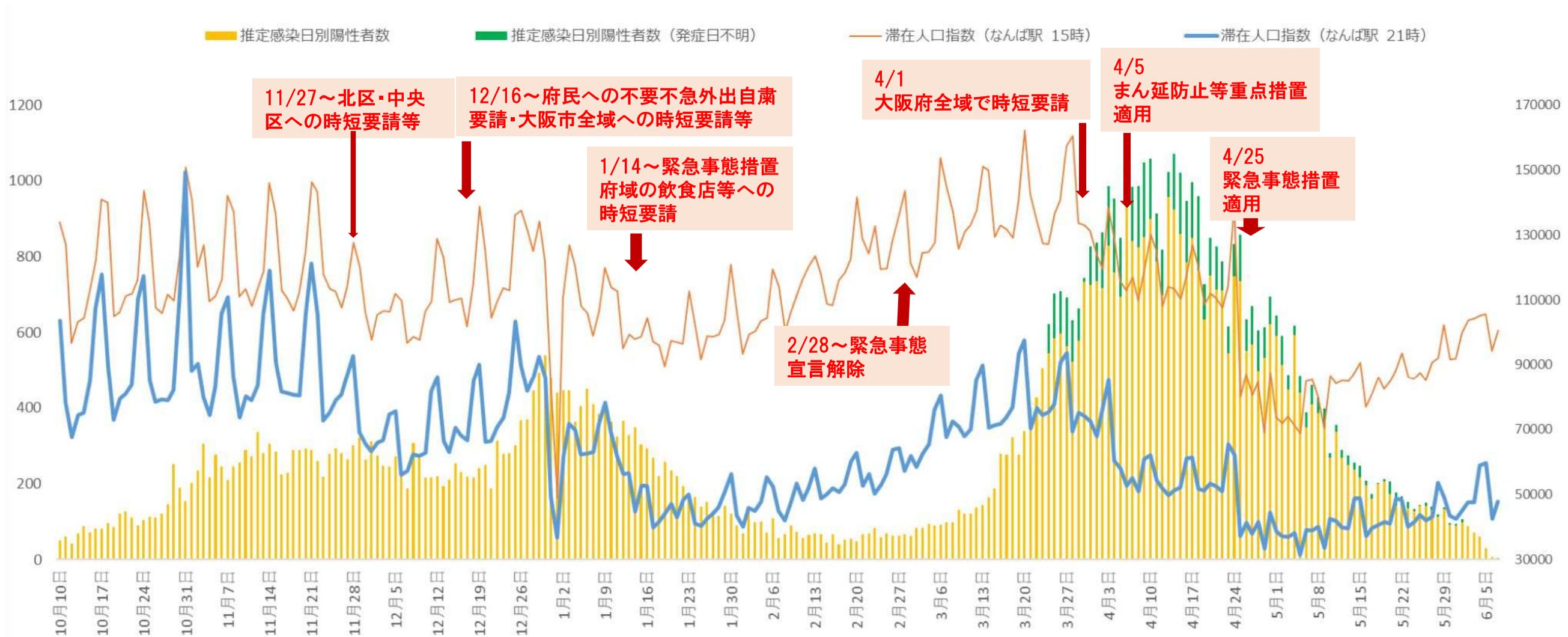


推定感染日別陽性者数と人流について【昼間・夜間 6月14日時点】

◆ 人流は昼間・夜間ともに同傾向で推移。

感染から発症まで6日、発症から陽性判明まで7日と仮定すると、概ね6/2～6/14の期間は、今後、新規陽性者の発生に伴い、増加。

人流は、駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウントしており、前述のアドバイザーボードの人流データとは異なる。【出典：株式会社Agoop】

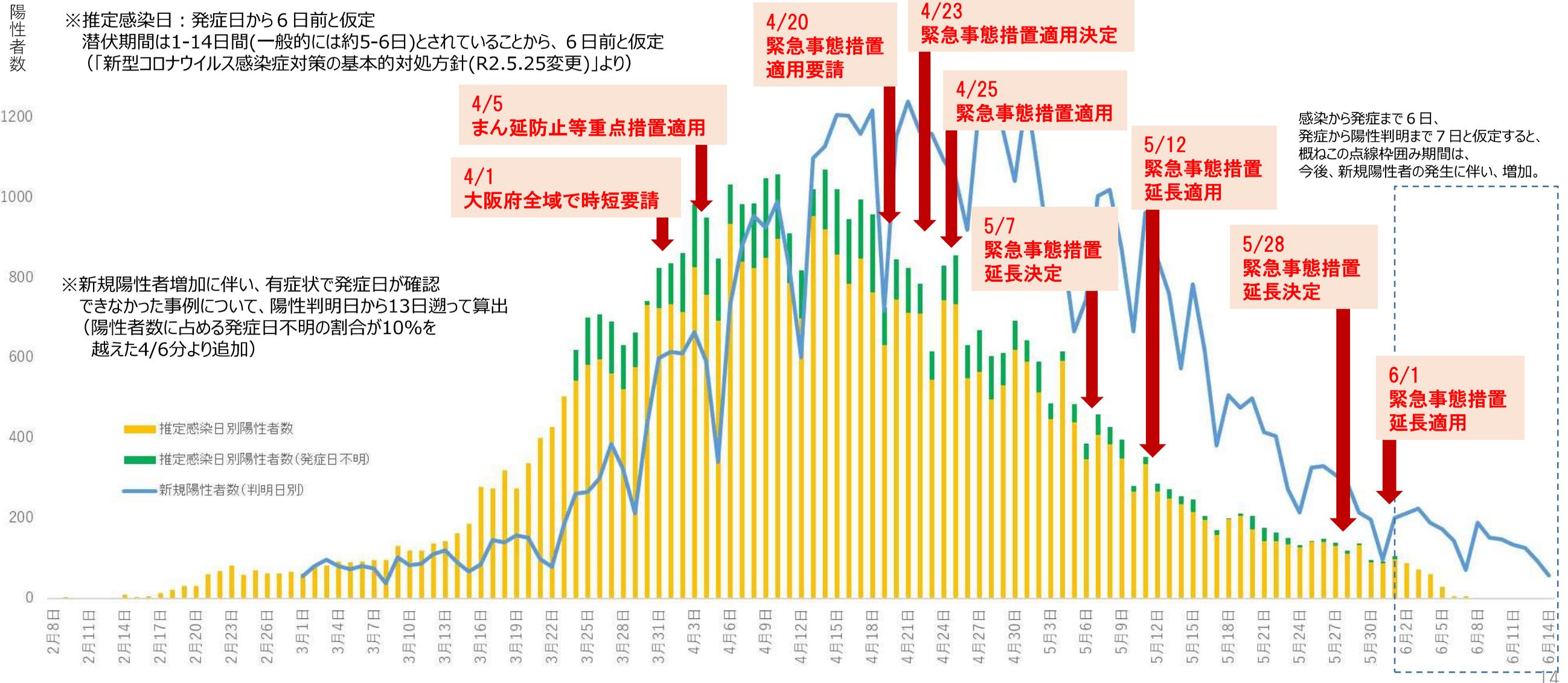


【第四波】推定感染日別陽性者数

推定感染日別陽性者は4月中旬以降、減少。

(ただし、4月6日以降、発症日不明の割合が10%を超過したことから、発症日不明の新規陽性者については、仮定に基づく推定のもと、計上。)

(3月1日以降6月14日までの判明日分) (N = 45,904名 (調査中、無症状8,805名を除く))



「大阪モデル」モニタリング指標の状況

病床のひっ迫状況は改善傾向。重症病床使用率（224床で算出）は、59.4%まで減少。

分析事項	モニタリング指標	府民に対する警戒の基準	府民に対する非常事態の基準	府民に対する非常事態解除の基準	府民に対する警戒解除の基準	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	現在の状況
(1) 市中での感染拡大状況	①新規陽性者における感染経路不明者7日間移動平均前週増加比	①2以上かつ ②10人以上	—	—	—	0.79	0.77	0.75	0.77	0.78	0.77	0.73	5/4以降1を下回り、減少傾向
	②新規陽性者における感染経路不明者数7日間移動平均		—	—	10人未満	96.00	90.14	84.14	81.86	80.00	77.86	73.71	5/3以降、減少傾向
	【参考①】新規陽性者における感染経路不明者の割合	—	—	—	—	64.7%	68.2%	57.5%	57.9%	64.6%	45.6%	70.9%	概ね40～60%台で推移
(2) 新規陽性患者の拡大状況	③7日間合計新規陽性者数	120人以上かつ 後半3日間で 半数以上	—	—	—	1149	1071	1016	968	919	904	824	5/3以降、減少傾向
	うち後半3日間		415	491	435	408	356	279	263				
	④直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	—	—	—	0.5人未満	13.03	12.15	11.53	10.98	10.43	10.26	9.35	5/3以降、減少傾向
	【参考②】陽性率（7日間）	—	—	—	—	1.7%	1.5%	1.3%	1.2%	1.2%	1.2%	1.0%	5/8以降、減少傾向
(3) 病床等のひっ迫状況	⑤患者受入重症病床使用率 ※使用率の分母は224床（運用率）	—	70%以上 （「警戒（黄色）」信号が点灯した日から起算して25日以内）	7日間連続 60%未満	60%未満	79.9% (50.0%)	69.2% (43.3%)	66.5% (41.5%)	63.8% (39.8%)	63.4% (39.6%)	60.7% (38.7%)	59.4% (37.8%)	6/15に60%を下回った
	【参考③】患者受入軽症中等症病床使用率	—	—	—	—	34.7%	34.1%	33.0%	31.8%	32.2%	33.1%	28.8%	5/6以降、減少傾向
	【参考④】患者受入宿泊療養施設部屋数使用率	—	—	—	—	7.4%	7.6%	7.8%	7.1%	7.2%	7.2%	6.6%	5/3以降、減少傾向

- ・大阪モデルの重症病床使用率は、緊急事態措置期間中は224床で算出（5/28 第51回本部会議決定事項）。重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を除く。
- ・括弧内は、病床確保計画の確保病床数を分母として算出。

4/20 緊急事態宣言発令要請を決定（第46回対策本部会議）
 4/23 緊急事態宣言発令決定、府としての措置を決定（第47回対策本部会議）
 5/6 緊急事態措置延長要請を決定（第48回対策本部会議）
 5/7 緊急事態措置延長決定、府としての措置を決定（第49回対策本部会議）
 5/25 緊急事態措置延長要請を決定（第50回対策本部会議）
 5/28 緊急事態措置延長決定、府としての措置を決定（第51回対策本部会議）

新型コロナウイルス感染症対策分科会におけるモニタリング指標の状況

感染の状況を示す指標は、感染経路不明の割合以外、ステージⅢを下回っている。

また、医療のひっ迫具合を示す指標は、確保病床占有率及び重症病床確保病床占有率がステージⅣの基準を下回っている。

※国定義により、HCU等病床数及び患者数を含む

指標		ステージⅣ 目安	ステージⅢ 目安	3/1 緊急事態措置解除	4/25 緊急事態措置適用	5/12 緊急事態措置延長	6/1 緊急事態措置延長	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/15時点の ステージⅣの目安に 対する状況	6/15時点の ステージⅢの目安に 対する状況	
医療提供体制等の負荷	医療のひっ迫具合	①確保病床占有率	50%以上	20%以上	30.4% (601/1,978)	88.7% (1,882/2,122)	80.2% (2,087/2,603)	52.6% (1,410/2,680)	36.8% (990/2,693)	35.3% (955/2,703)	34.1% (923/2,704)	32.9% (889/2,704)	33.2% (898/2,704)	33.8% (912/2,696)	29.9% (808/2,698)	○	●
		②入院率	25%以下	40%以下	56.1% (601/1,072)	11.3% (1,882/16,692)	9.6% (2,087/21,812)	16.8% (1,410/8,411)	15.4% (990/6,436)	15.6% (955/6,124)	15.8% (923/5,854)	15.8% (889/5,641)	16.2% (898/5,539)	17.2% (912/5,313)	19.9% (808/4,066)	●	●
		③重症病床確保病床占有率	50%以上	20%以上	35.0% (143/408)	73.1% (386/528)	67.5% (500/741)	42.8% (339/792)	30.3% (244/804)	27.4% (220/804)	26.6% (214/805)	25.8% (208/805)	25.7% (207/805)	25.2% (201/797)	24.8% (198/798)	○	●
		④人口10万人あたり療養者数	30人以上	20人以上	12.16	189.36	247.44	95.42	73.01	69.47	66.41	63.99	62.84	60.27	46.13	●	●
感染の状況	⑤陽性率 1週間平均	10%以上	5%以上	1.6%	7.5%	6.4%	1.9%	1.7%	1.5%	1.3%	1.2%	1.2%	1.2%	1.0%	○	○	
	⑥直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	25人以上	15人以上	5.67	86.08	69.61	18.63	13.03	12.15	11.53	10.98	10.43	10.26	9.35	○	○	
	⑦感染経路不明割合 1週間平均	50%以上	50%以上	47.4%	61.3%	56.1%	56.0%	58.5%	58.9%	58.0%	59.2%	60.9%	60.3%	62.6%	●	●	

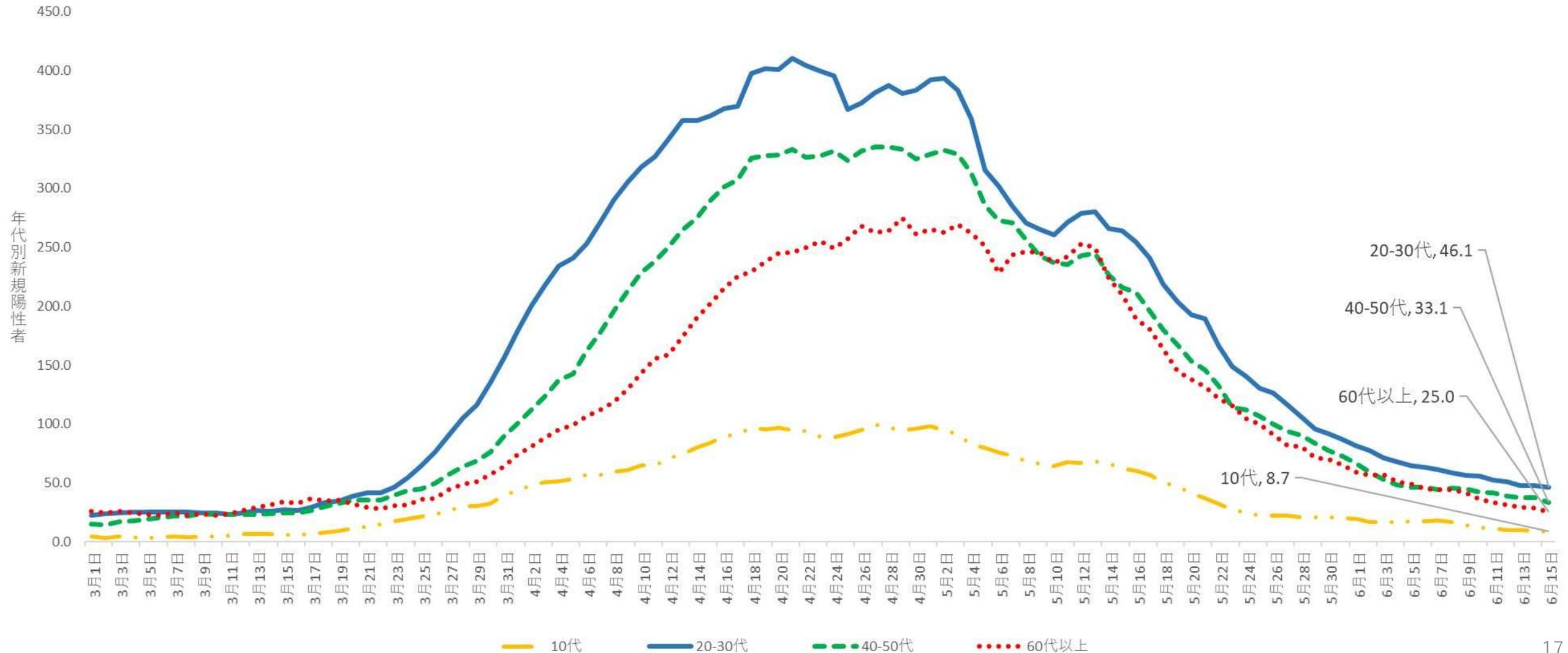
入院率は、人口10万人あたり療養者数が10人以上の場合に適用する。ただし、新規陽性者が発生届が届け出られた翌日までに療養場所の種別が決定され、かつ入院が必要な者が同日までに入院している場合には適用しない。
重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を除く。

3/1 緊急事態措置解除
4/25 緊急事態措置適用
5/12 緊急事態措置延長
6/1 緊急事態措置延長

●：基準外 ○：基準内

年代別新規陽性者数（7日間移動平均）の推移（日別）

各年代で新規陽性者数（7日間移動平均）が減少。

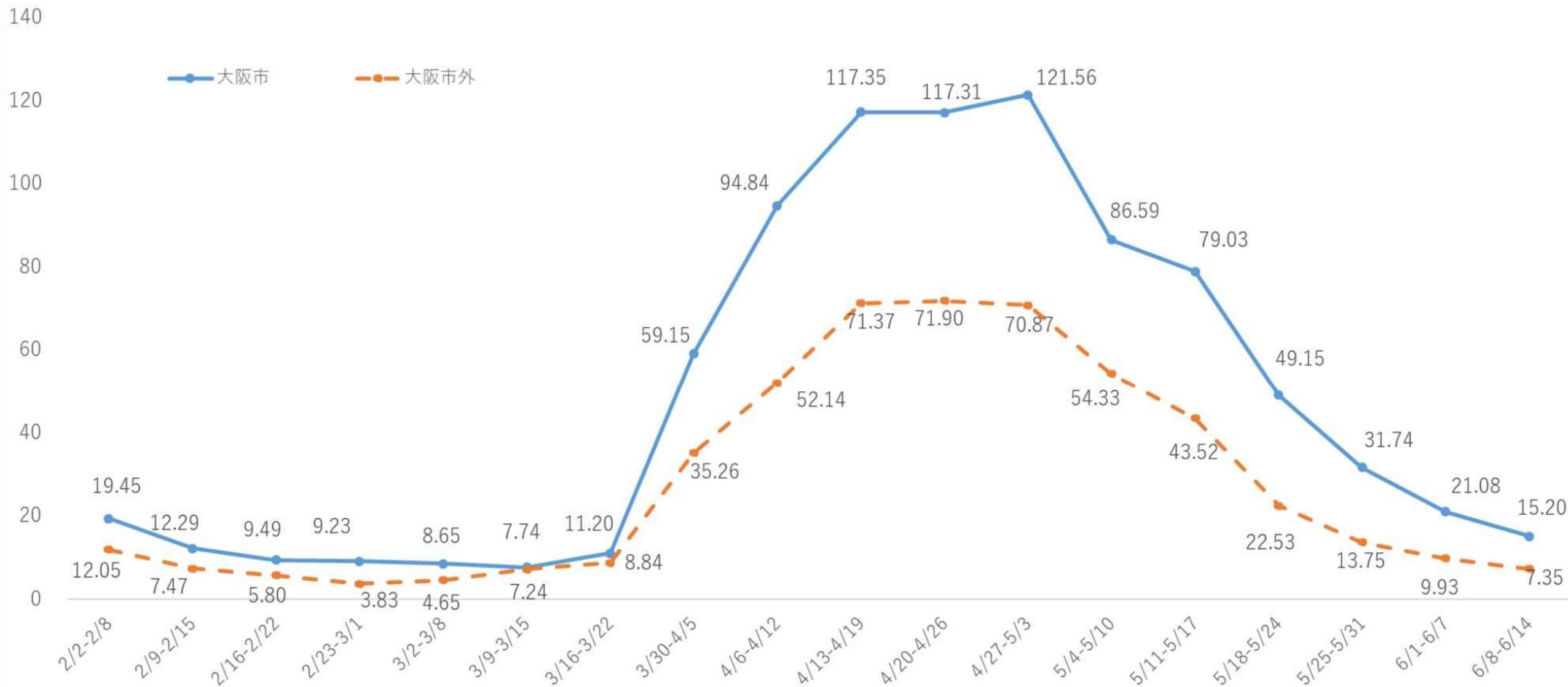


2 市内・市外の比較

大阪市・市外の陽性者比較（人口10万人あたり 1週間単位）

※市内外は居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

市内・市外居住者ともに減少。5月下旬以降、市外居住者はステージⅢ（15人）の基準を下回っている。
 市内居住者については、6月以降、ステージⅣ（25人）の基準を下回り、ステージⅢ基準に近づいている。

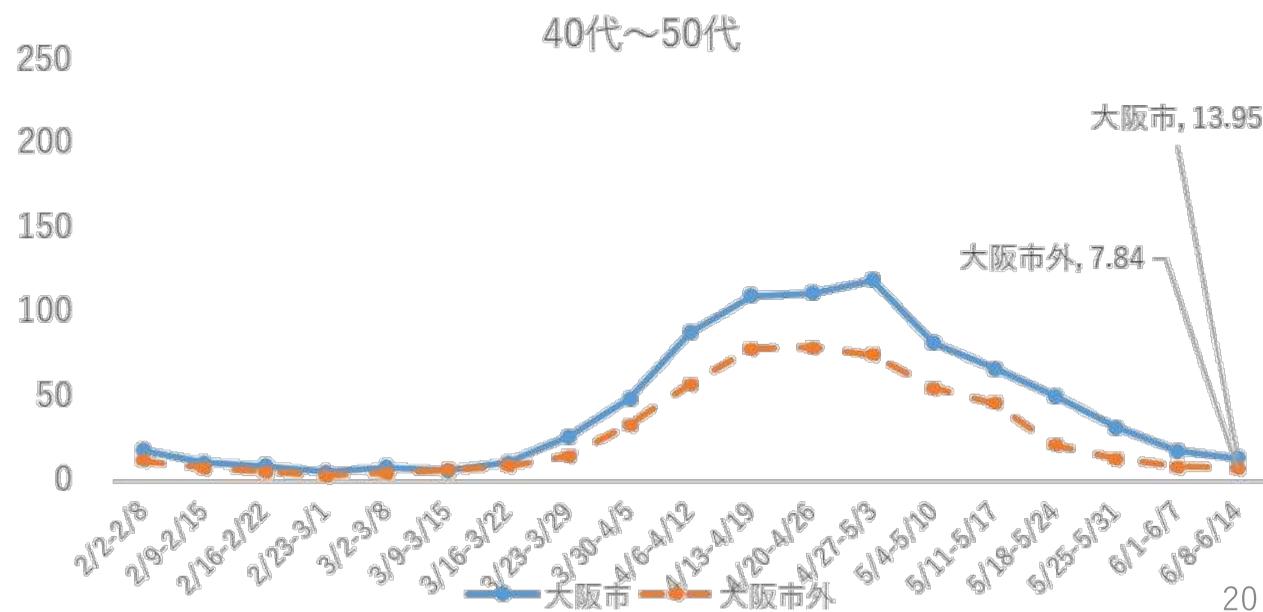
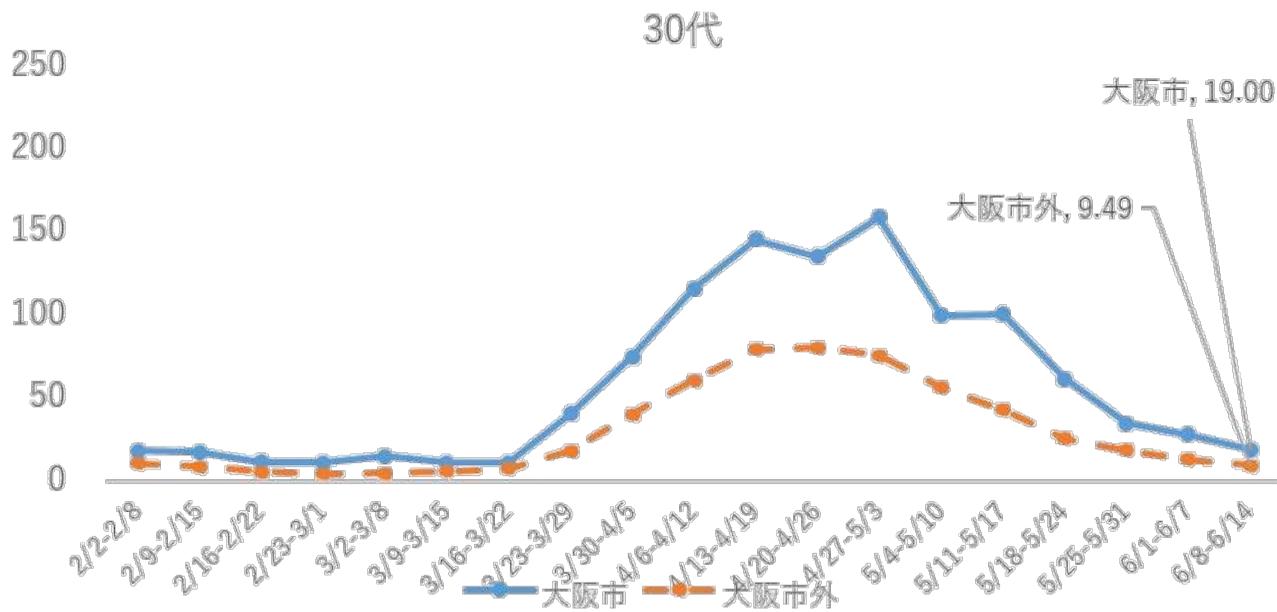
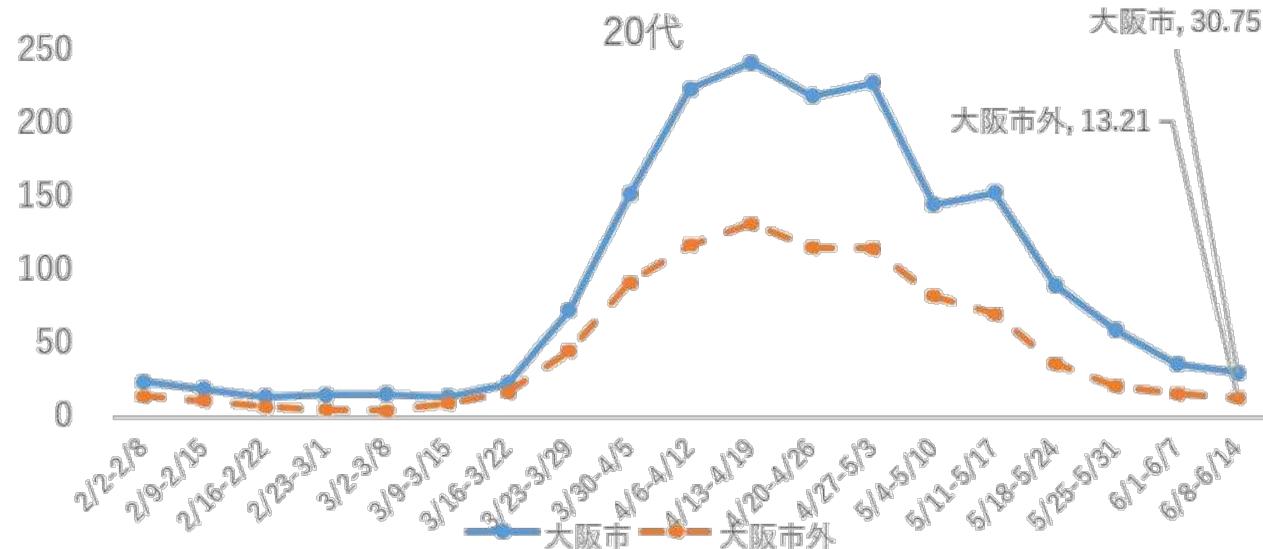
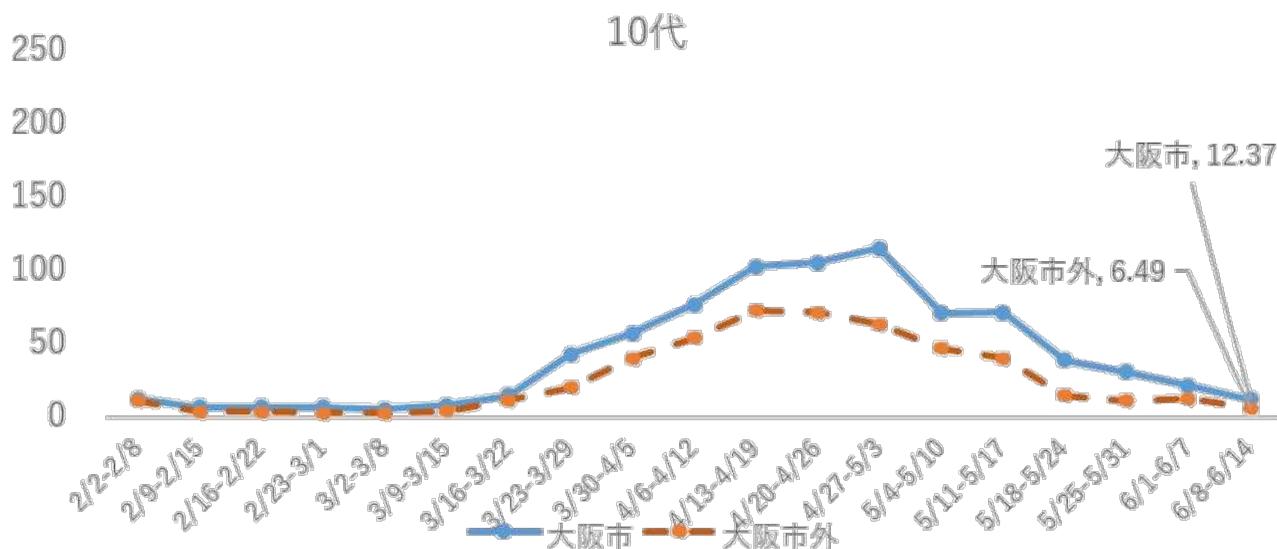


大阪市・市外 年代別陽性者比較（人口10万人あたり）

※市内外は居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数は、全年代で減少。

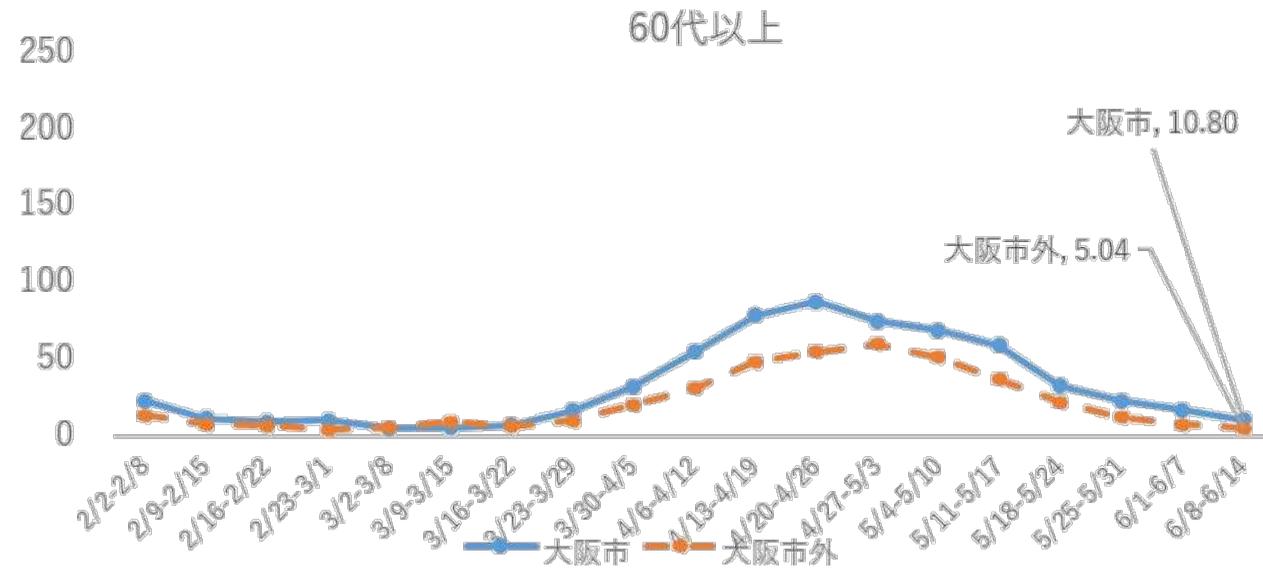
市内の20代（ステージIV超過）、30代（ステージIII超過）以外は、いずれも、ステージIIIの基準を下回っている。



大阪市・市外 年代別陽性者比較（人口10万人あたり）

※市内外は居住地による
※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

60代以上の直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数は、ステージⅢの基準を下回っている。

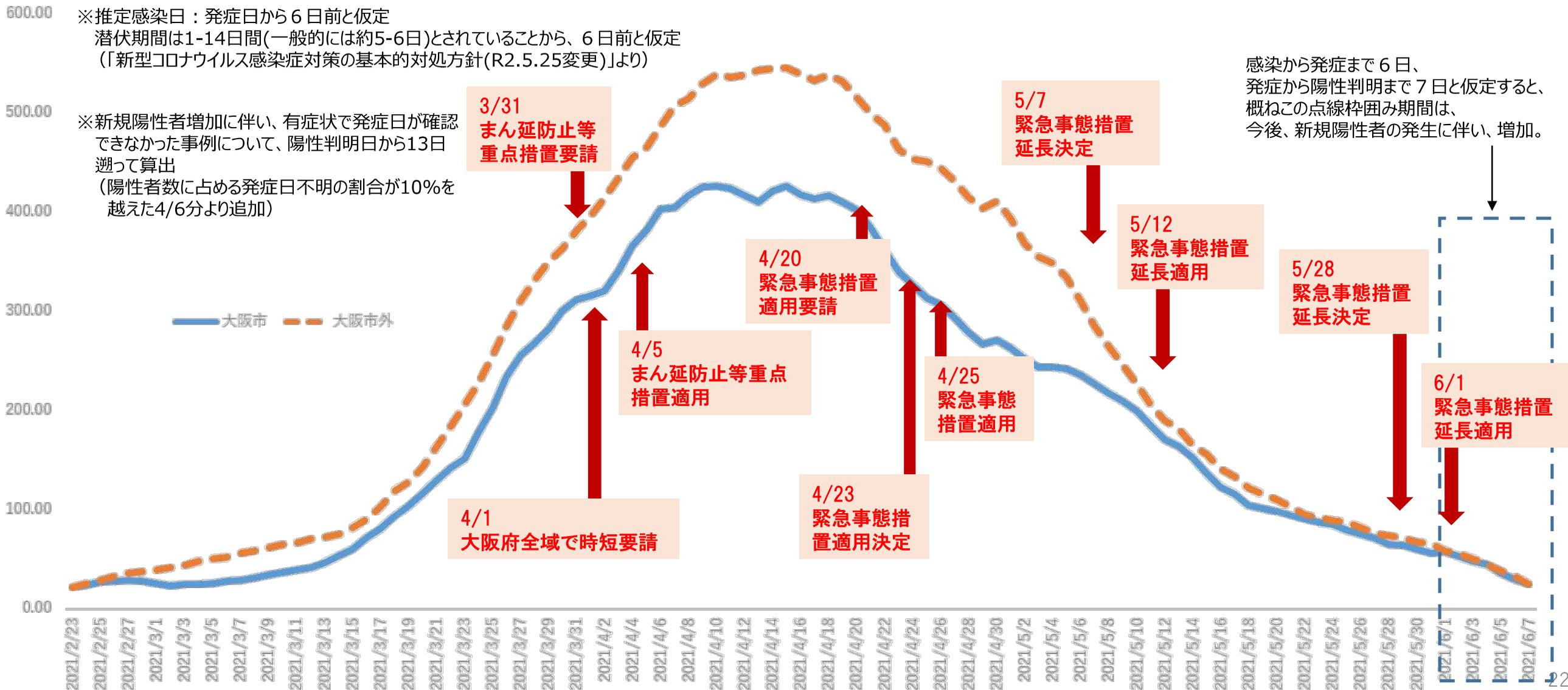


推定感染日別新規陽性者数（大阪市・市外 7日間移動平均）

※市内外は居住地による
 ※発症日が調査中、無症状等を除く

4/20の緊急事態措置適用要請前後から減少。

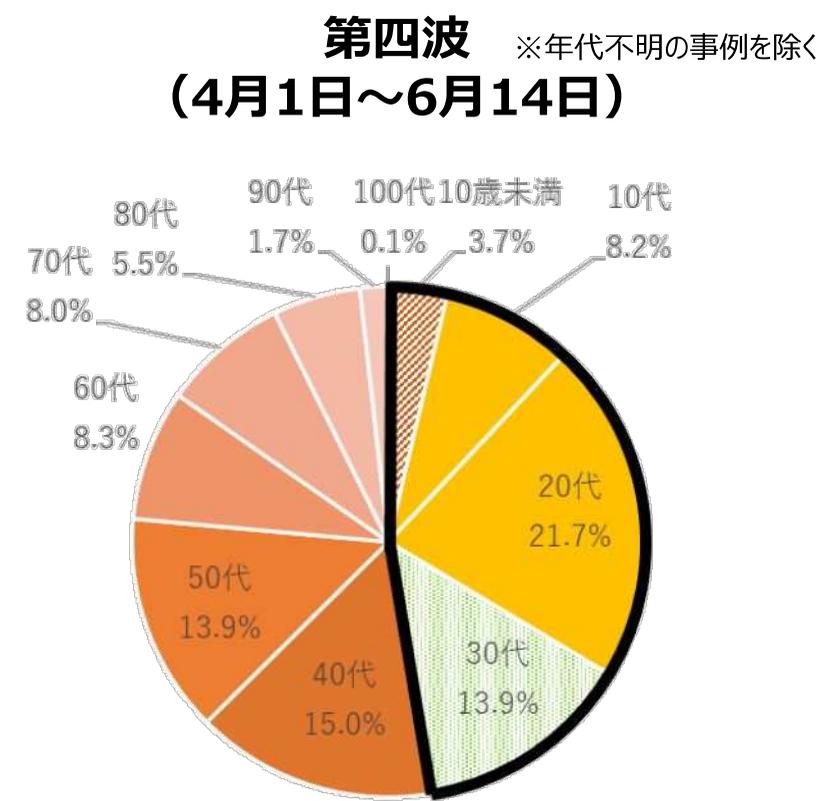
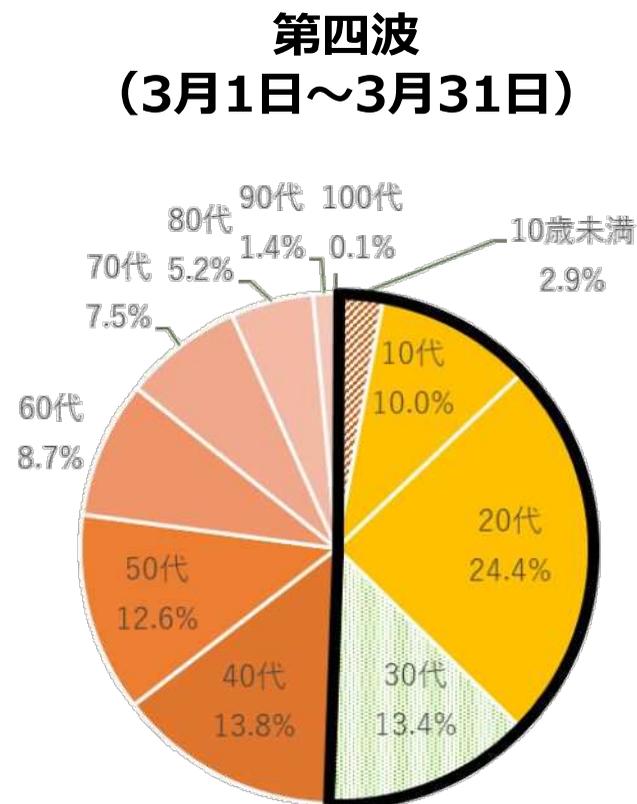
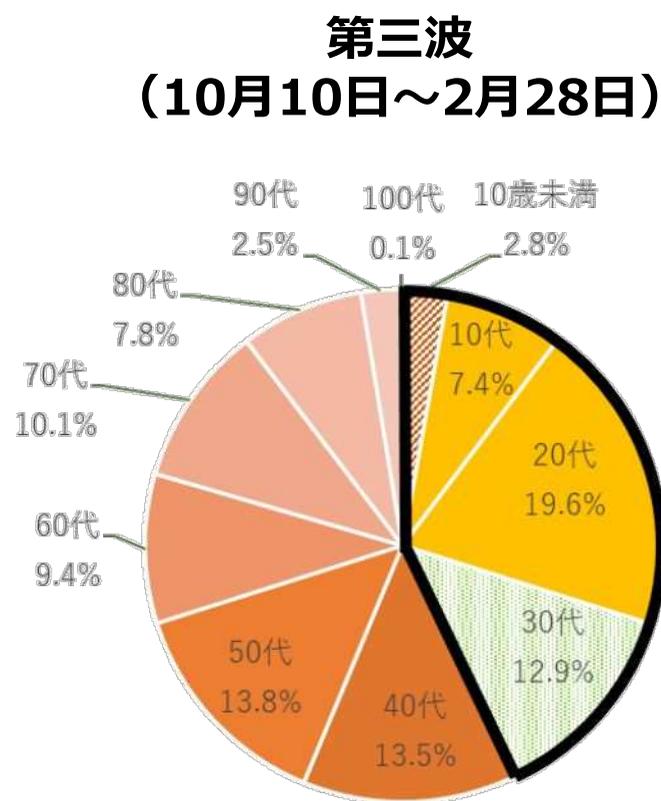
（ただし、4月6日以降、発症日不明の割合が10%を超過したことから、発症日不明の新規陽性者については、仮定に基づく推定のもと、計上。）



3 年代・居住地別の比較

年代別新規陽性者の割合

第三波に比べ、第四波は、30代以下の割合がやや増加。

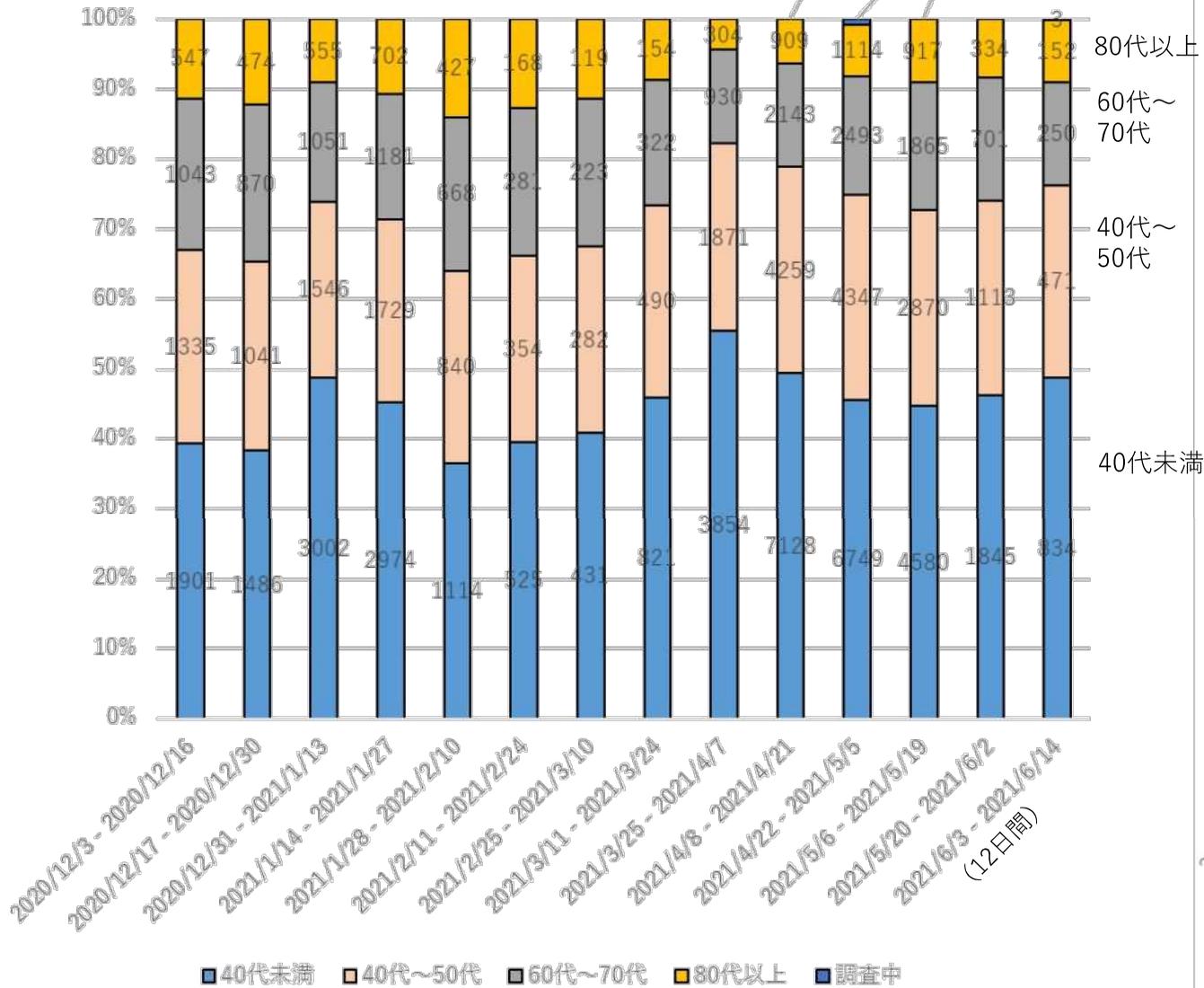


	第三波	第四波 (3月1日～3月31日)	第四波 (4月1日～6月14日)
30代以下割合 (うち、20代以下)	42.7% (29.8%)	50.7% (37.3%)	47.5% (33.6%)

陽性者の年齢区分

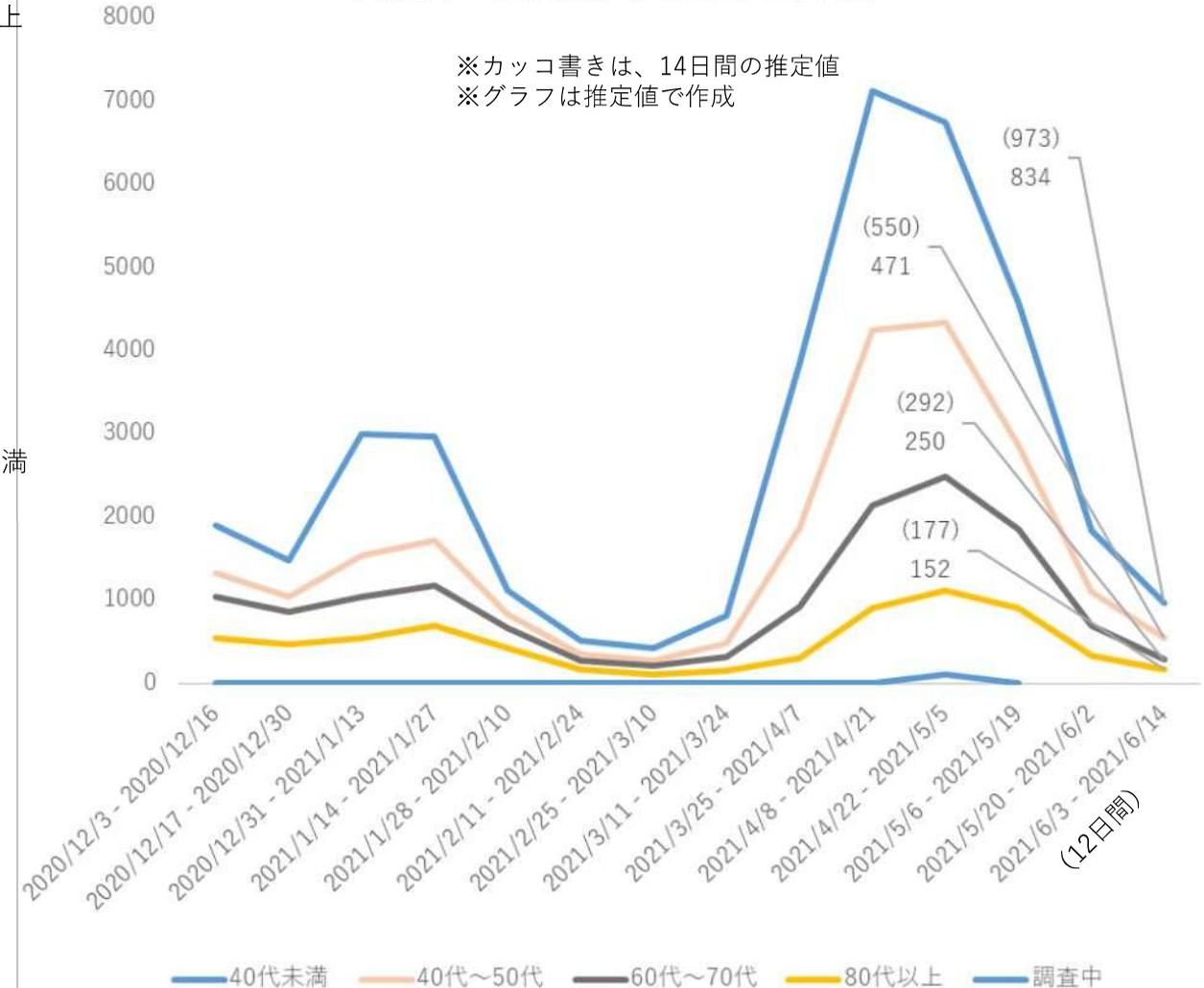
新規陽性者に占める40代未満の割合がやや増加し、5割弱。

陽性者の年齢区分（割合, 2週間単位）



（12月3日以降6月14日までに判明した80,805事例の状況）

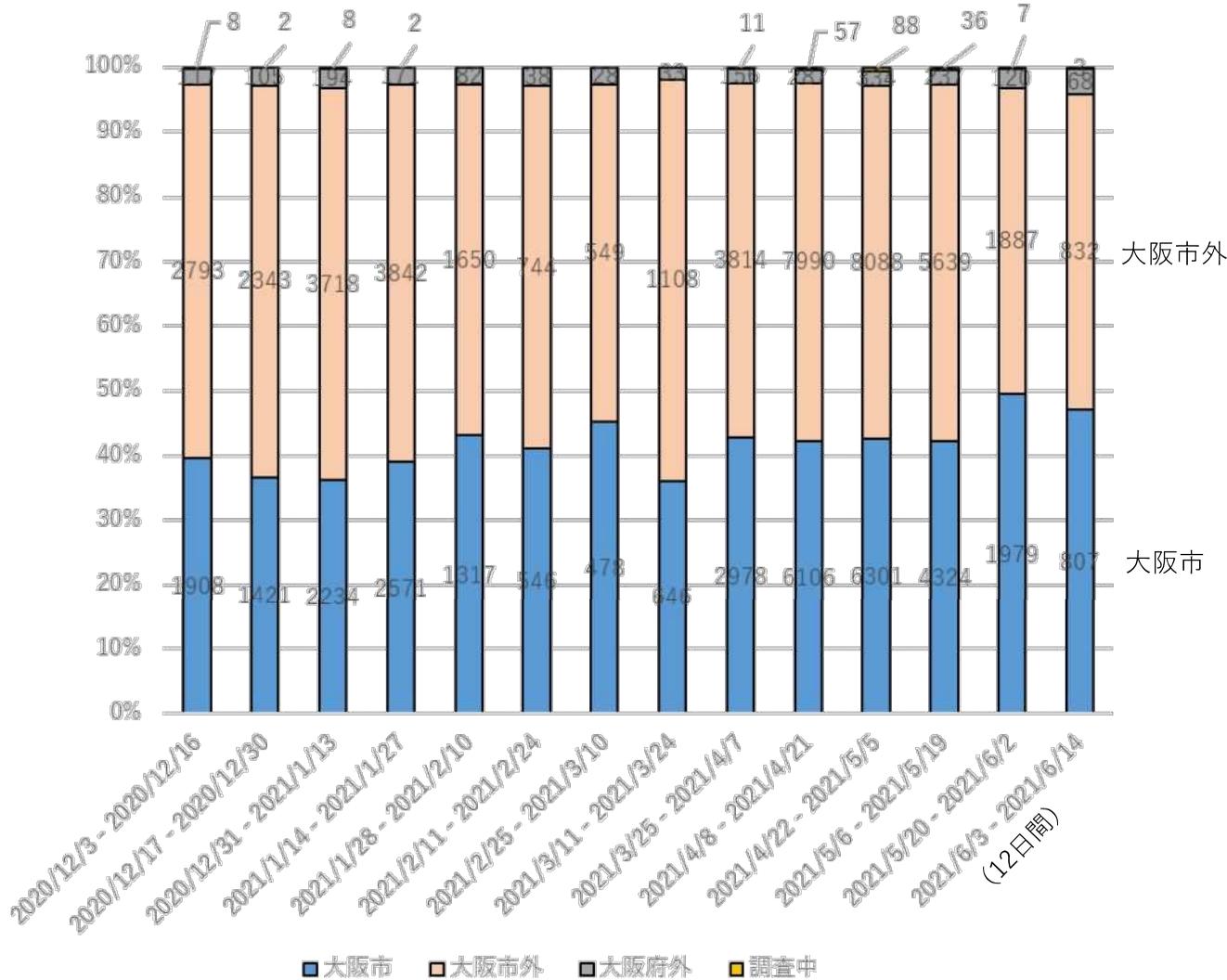
陽性者の年齢区分（実数, 2週間単位）



陽性者の居住地

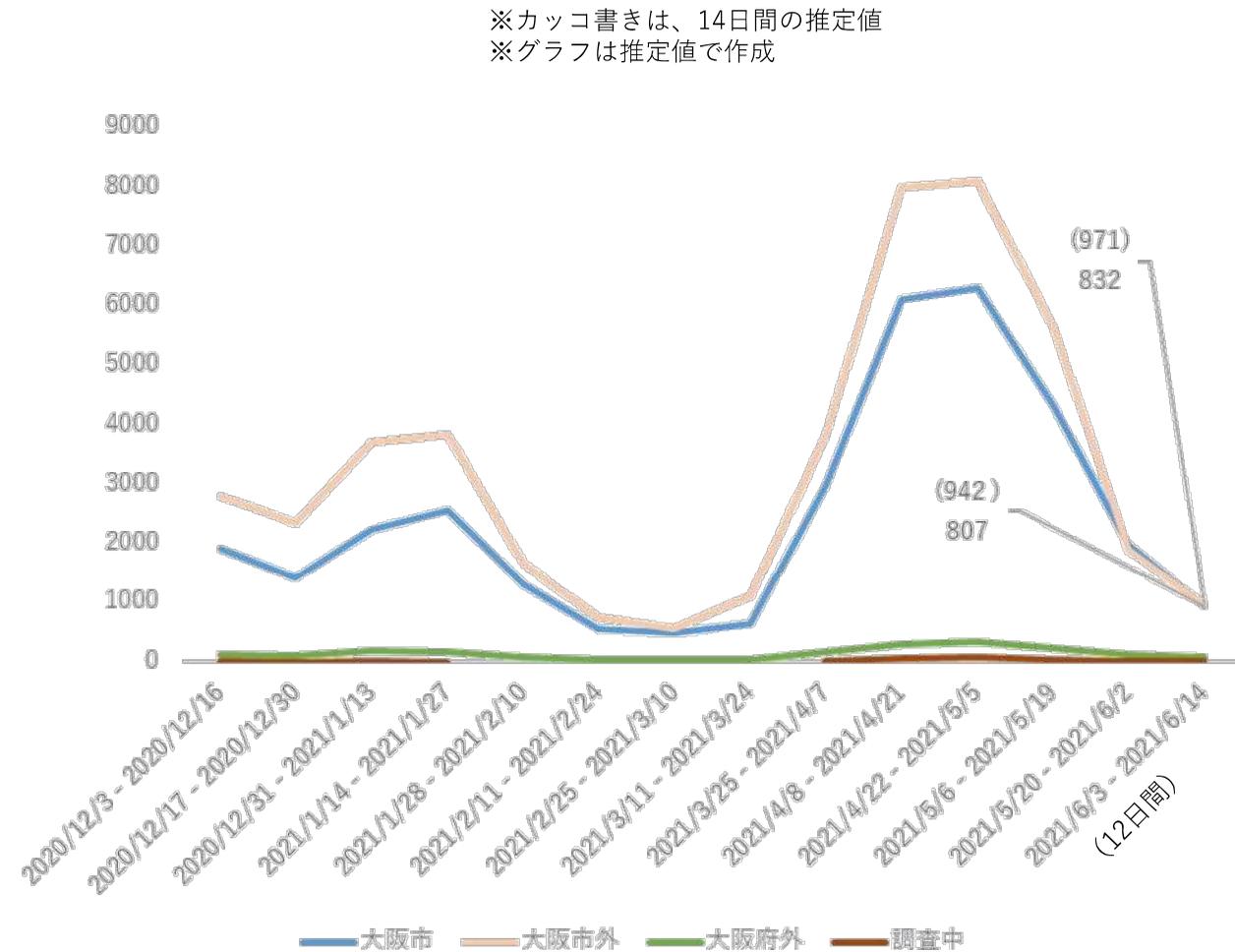
直近は、市外居住者の割合が5割を超過。

陽性者の居住地区分（割合, 2週間単位）



(12月3日以降6月14日までに判明した80,805事例の状況)

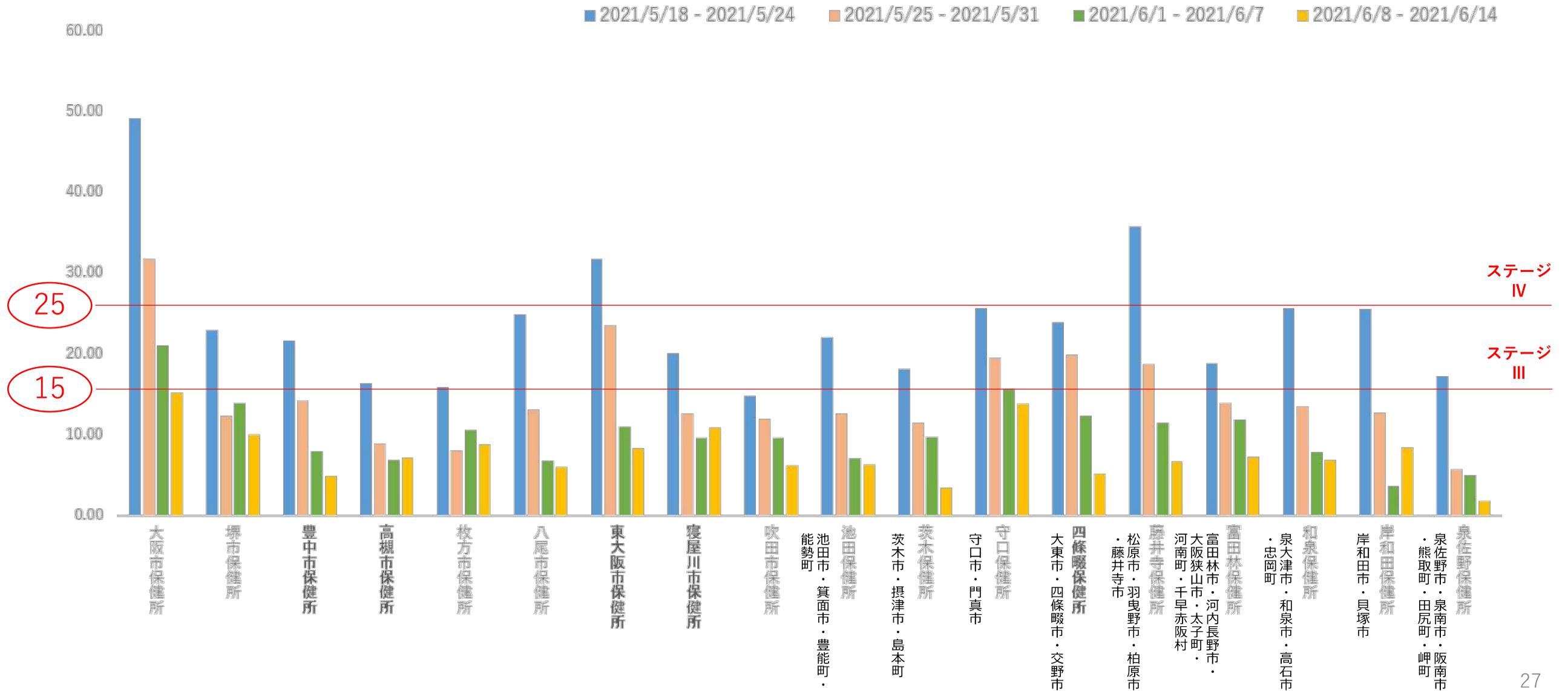
陽性者の居住地区分（実数, 2週間単位）



保健所管内別陽性者比較（人口10万人あたり 6月14日時点）

※居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

ほぼ全ての保健所管内で新規陽性者数は減少傾向。
 直近1週間でステージⅢ（15人）を上回った（15.20）のは大阪市保健所管内のみ。

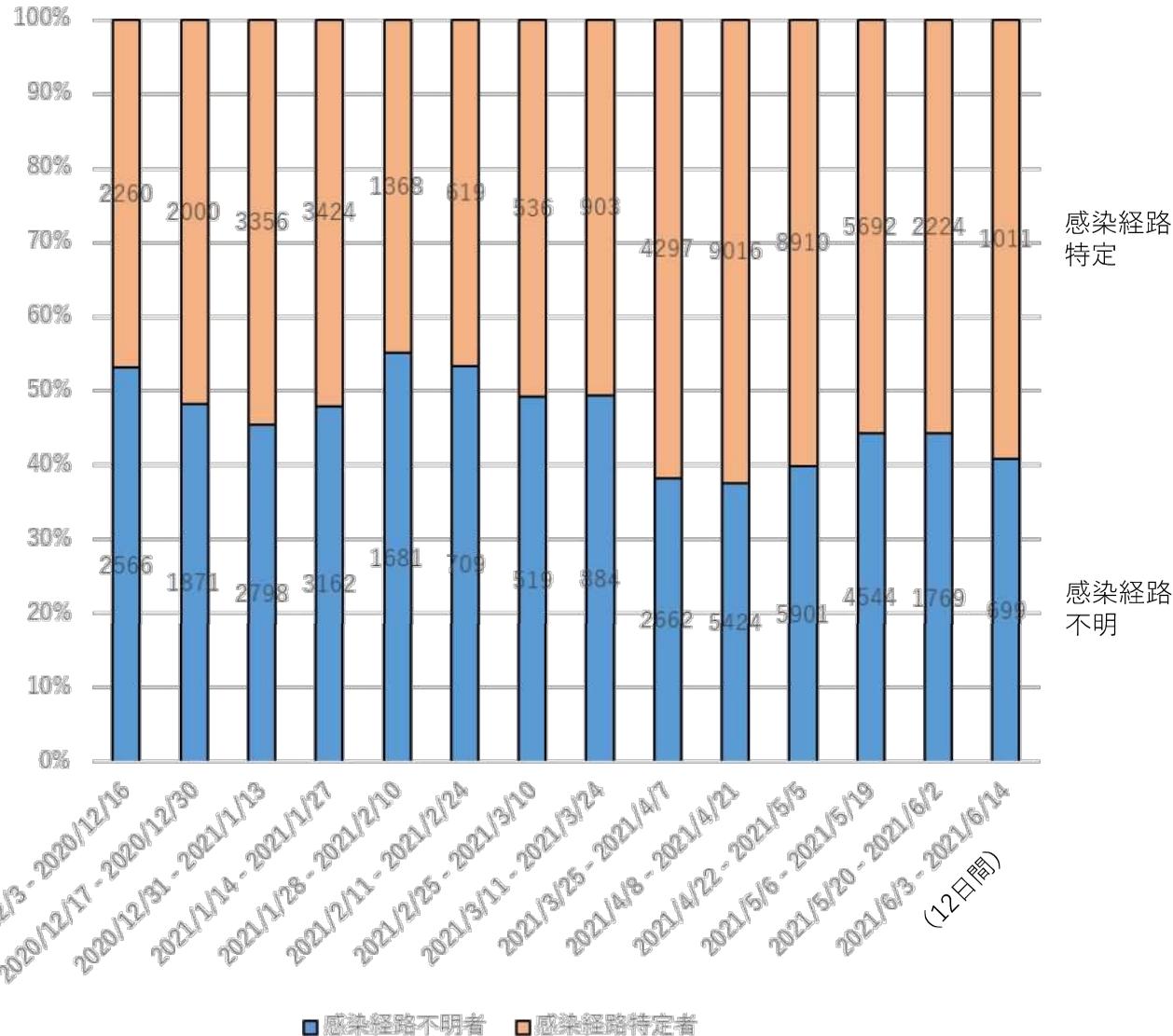


4 感染経路

陽性者の感染経路の状況

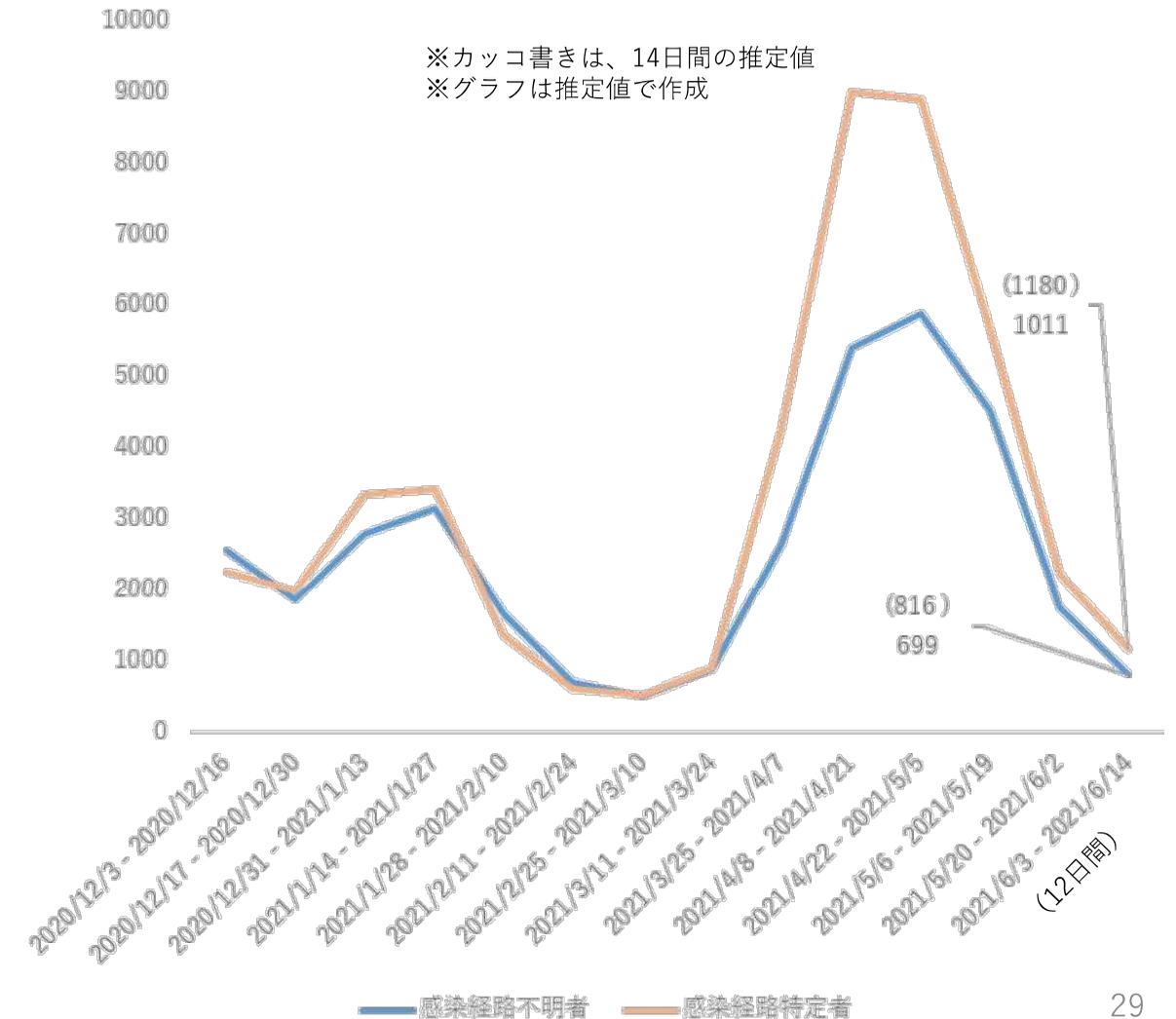
感染経路不明の割合は4割強。

感染経路の状況 (割合)



(12月3日以降6月14日までに判明した80,805事例の状況)

感染経路の状況 (実数)



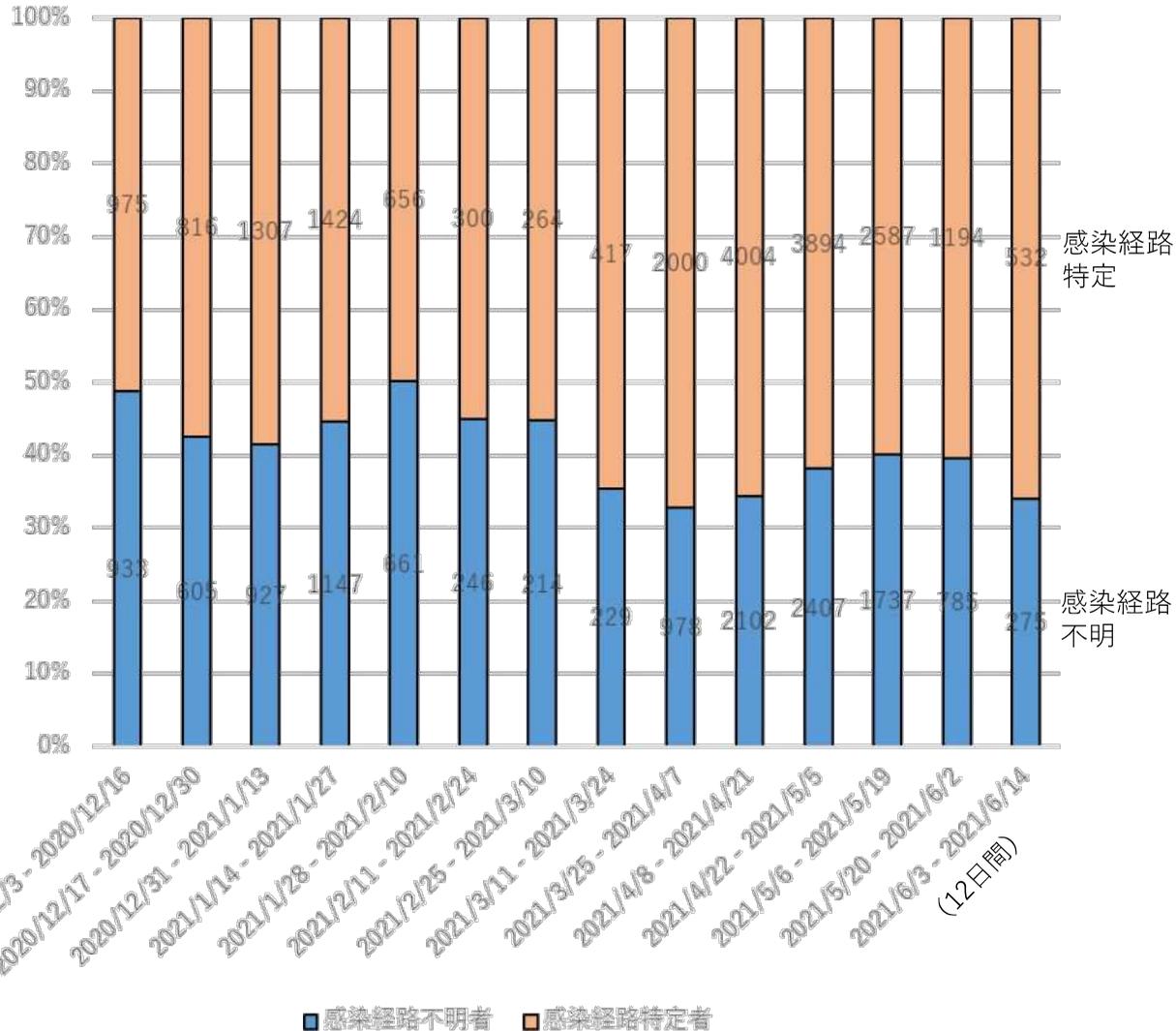
陽性者の感染経路の状況（大阪市内外）

※市内外は居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

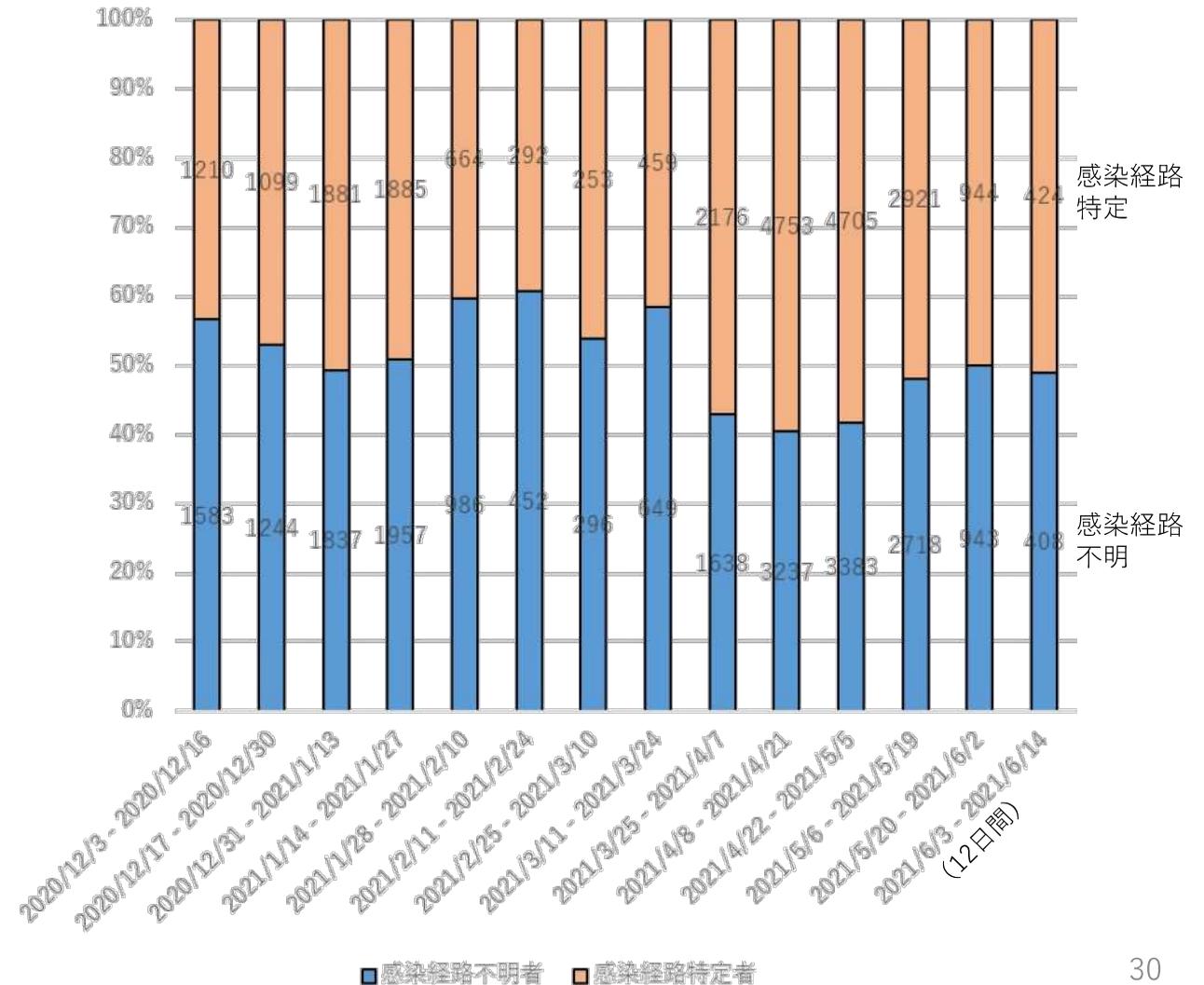
市内居住者の感染経路不明割合は、3割強。市外居住者は、約5割程度で推移。

（12月3日以降6月14日までに判明した80,805事例の状況）

感染経路の状況（大阪市内）

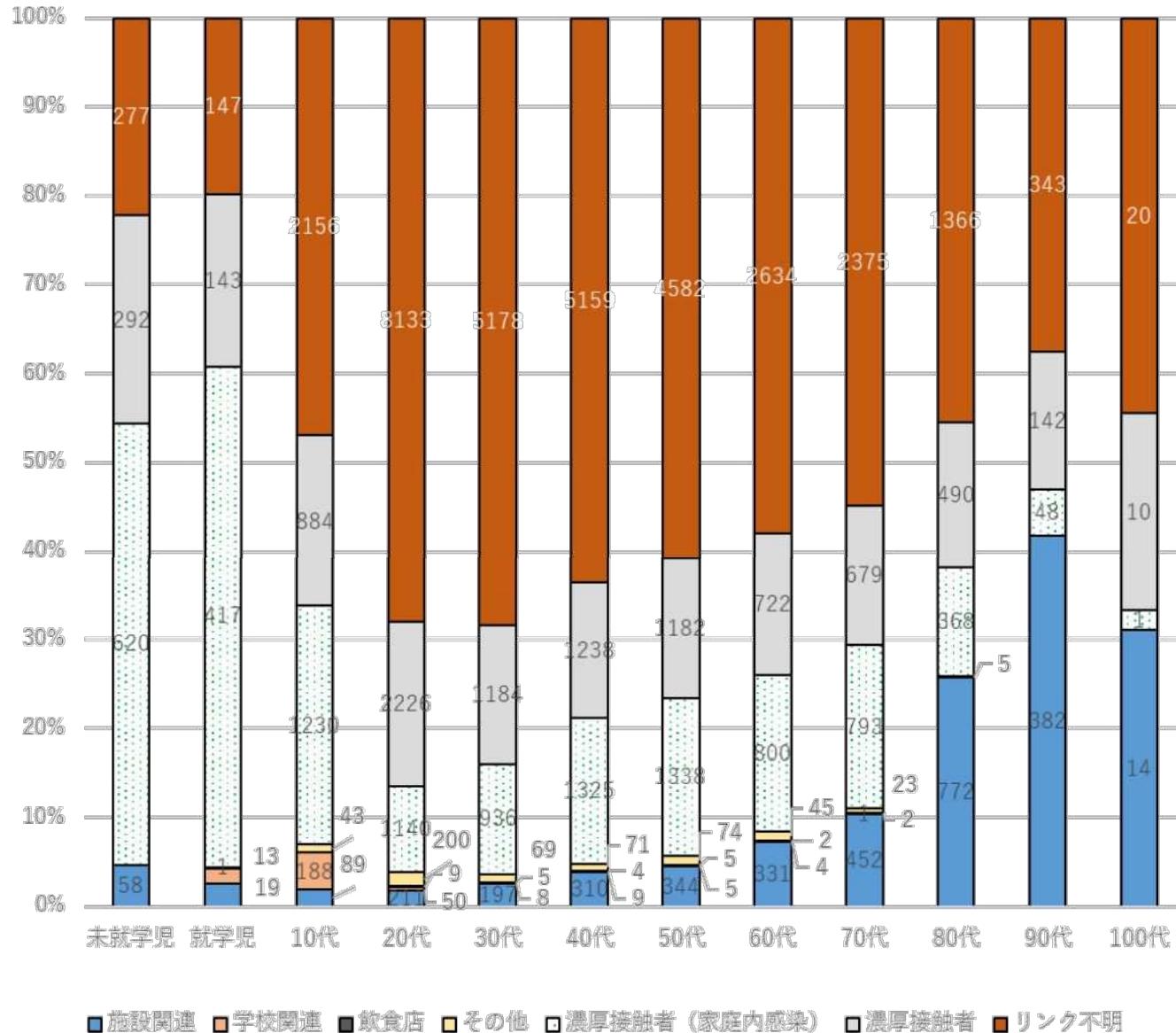


感染経路の状況（大阪市外）

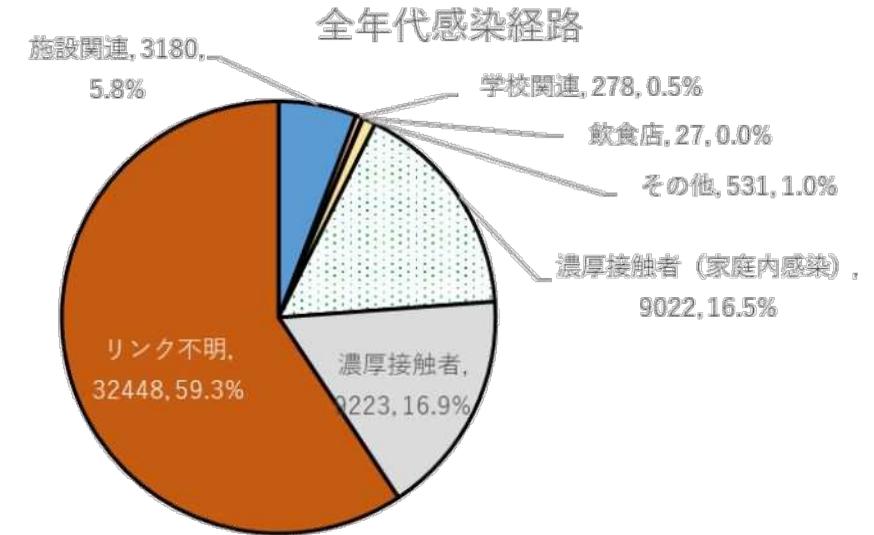


感染経路（第四波）

年代別感染経路



（3月1日以降6月14日までに判明した54,709事例の状況）



<全年代感染経路>

時点	施設関連	学校関連	飲食店	その他	濃厚接触者(家庭内感染)	濃厚接触者	リンク不明
第二波	7.7%	0.5%	0.5%	0.4%	12.3%	18.6%	60.0%
第三波	13.0%	1.2%	0.2%	1.4%	16.7%	14.8%	52.7%
(参考) 第四波 (3/1~3/31)	9.2%	0.8%	0.4%	1.9%	18.3%	12.8%	56.5%
第四波 (3/1~6/14)	5.8%	0.5%	0.0%	1.0%	16.5%	16.9%	59.3%

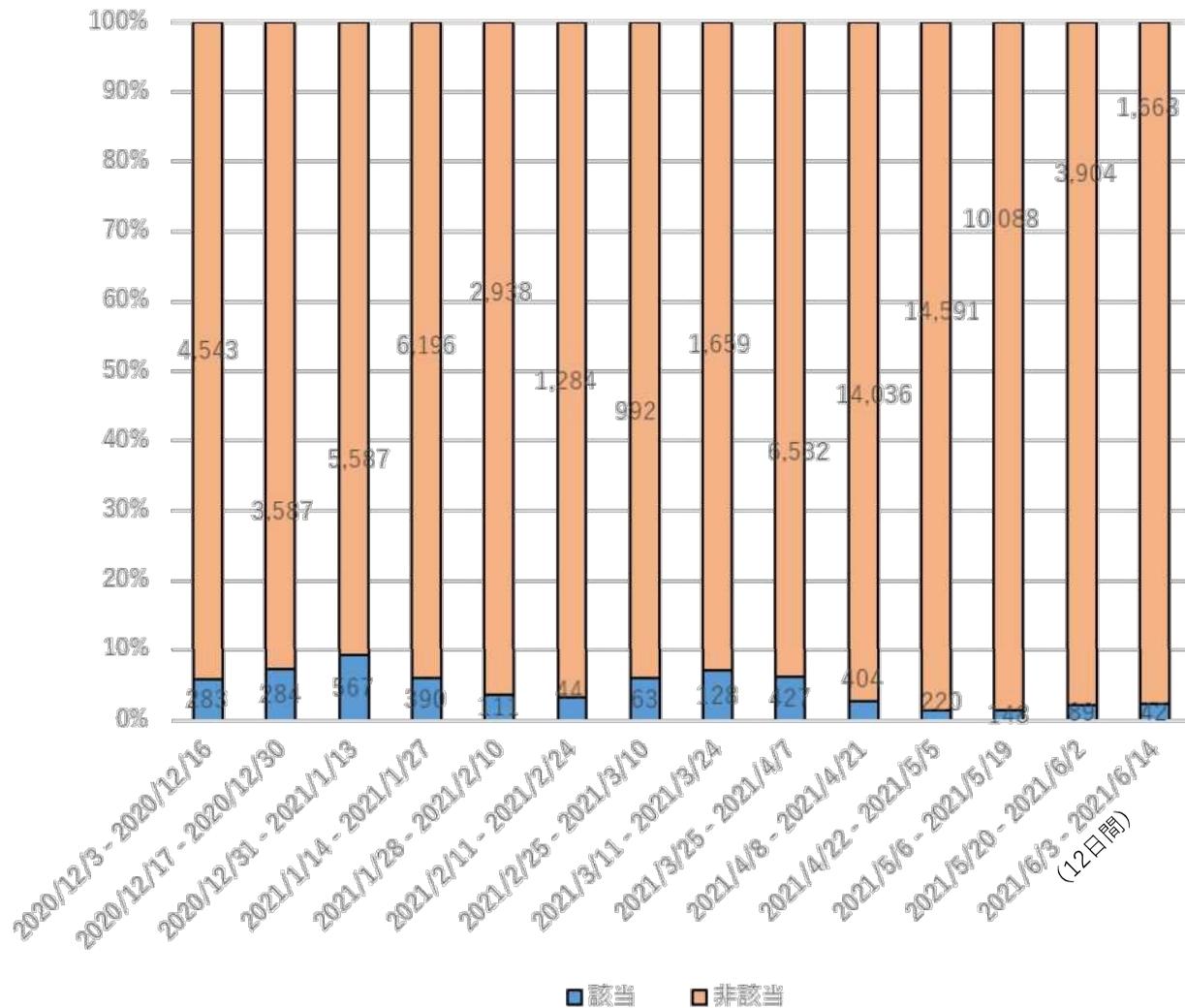
5 感染エピソード

夜の街の関係者及び滞在者の状況（陽性者全体における該当者）

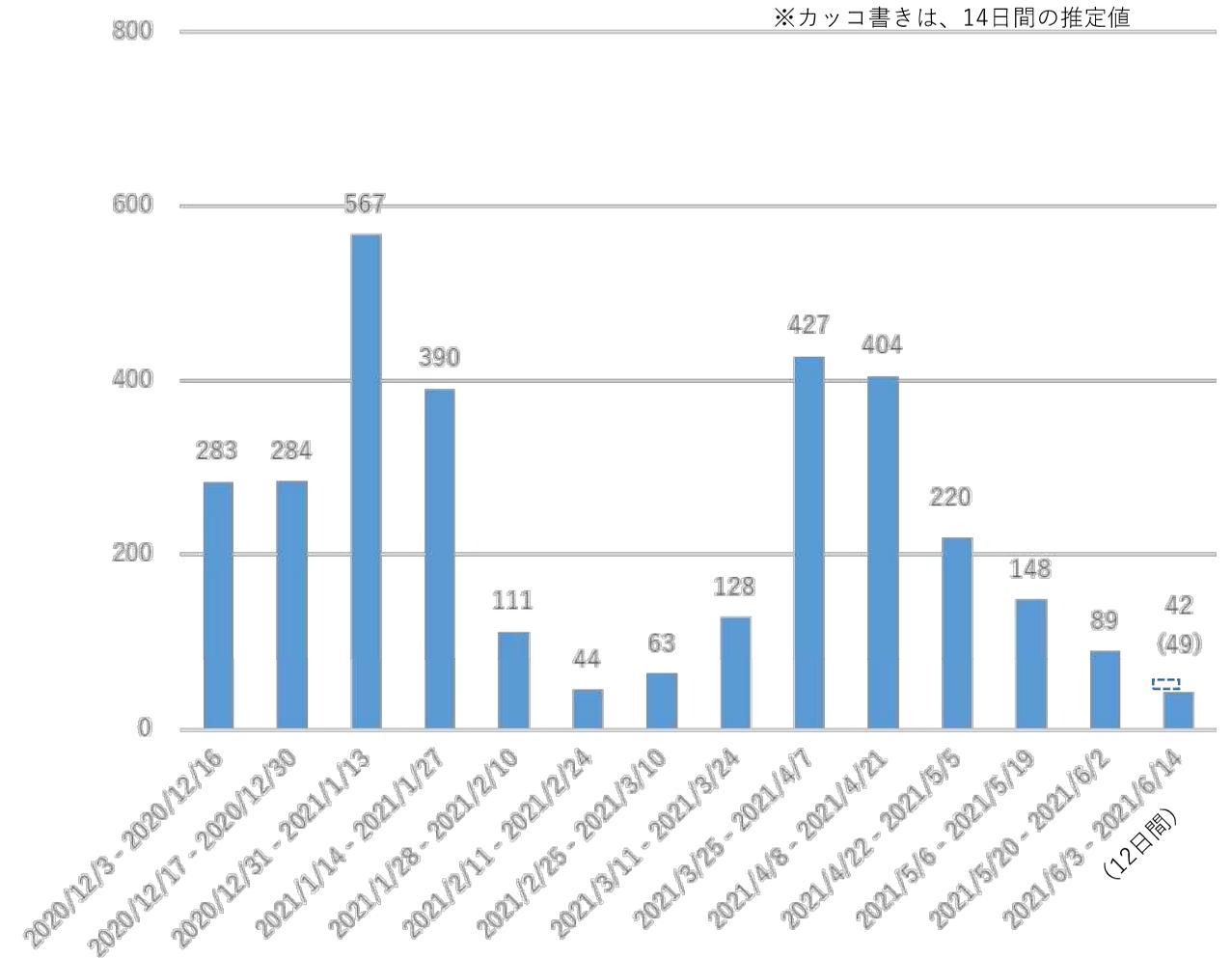
夜の街の関係者及び滞在者の人数は減少が続いており、第三波緊急事態措置期間中の水準にまで低下。

（12月3日以降6月14日までに判明した80,805事例の状況）

夜の街の関係者及び滞在者の状況（全件：割合）



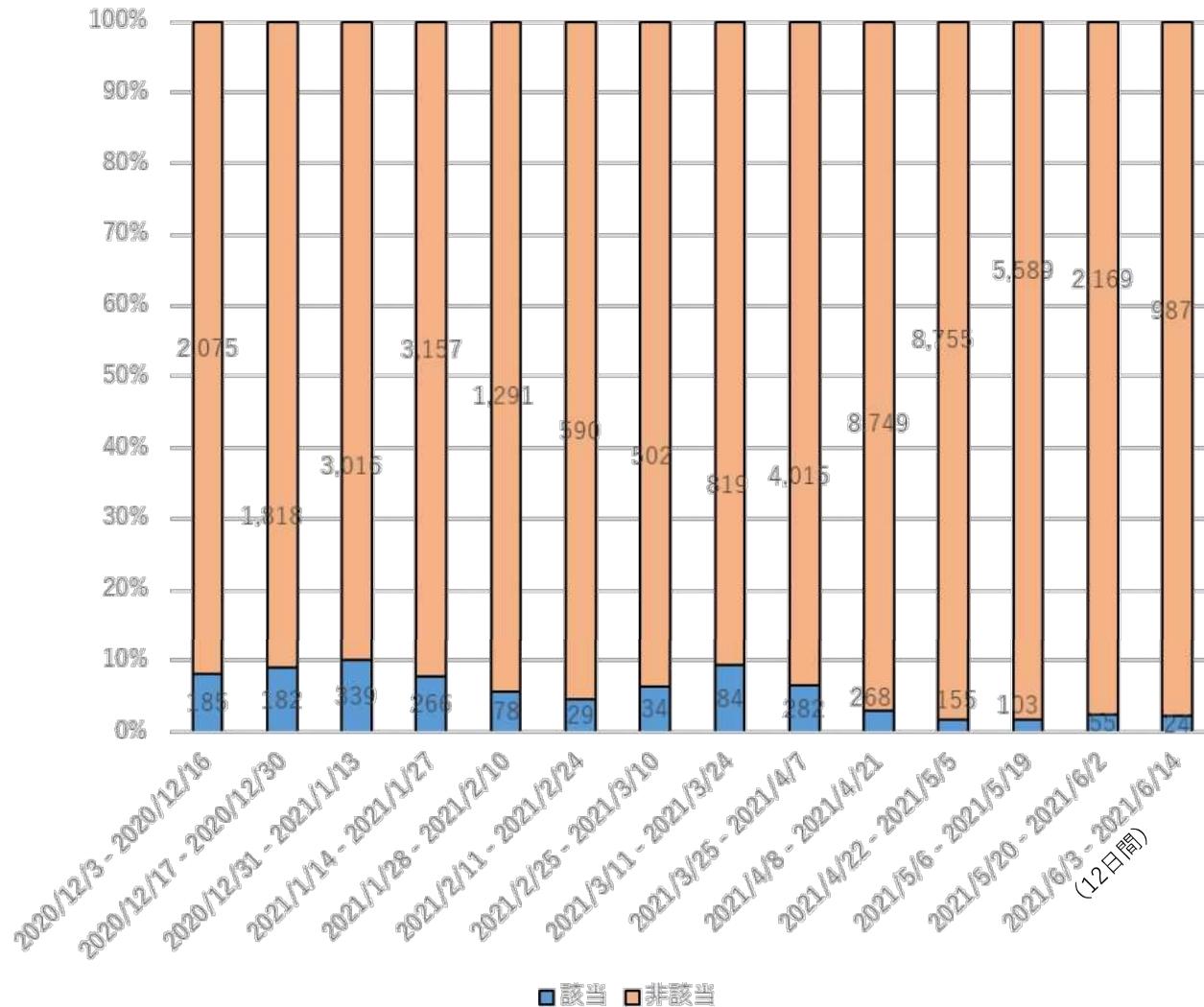
夜の街の関係者及び滞在者の状況（全件：実数）



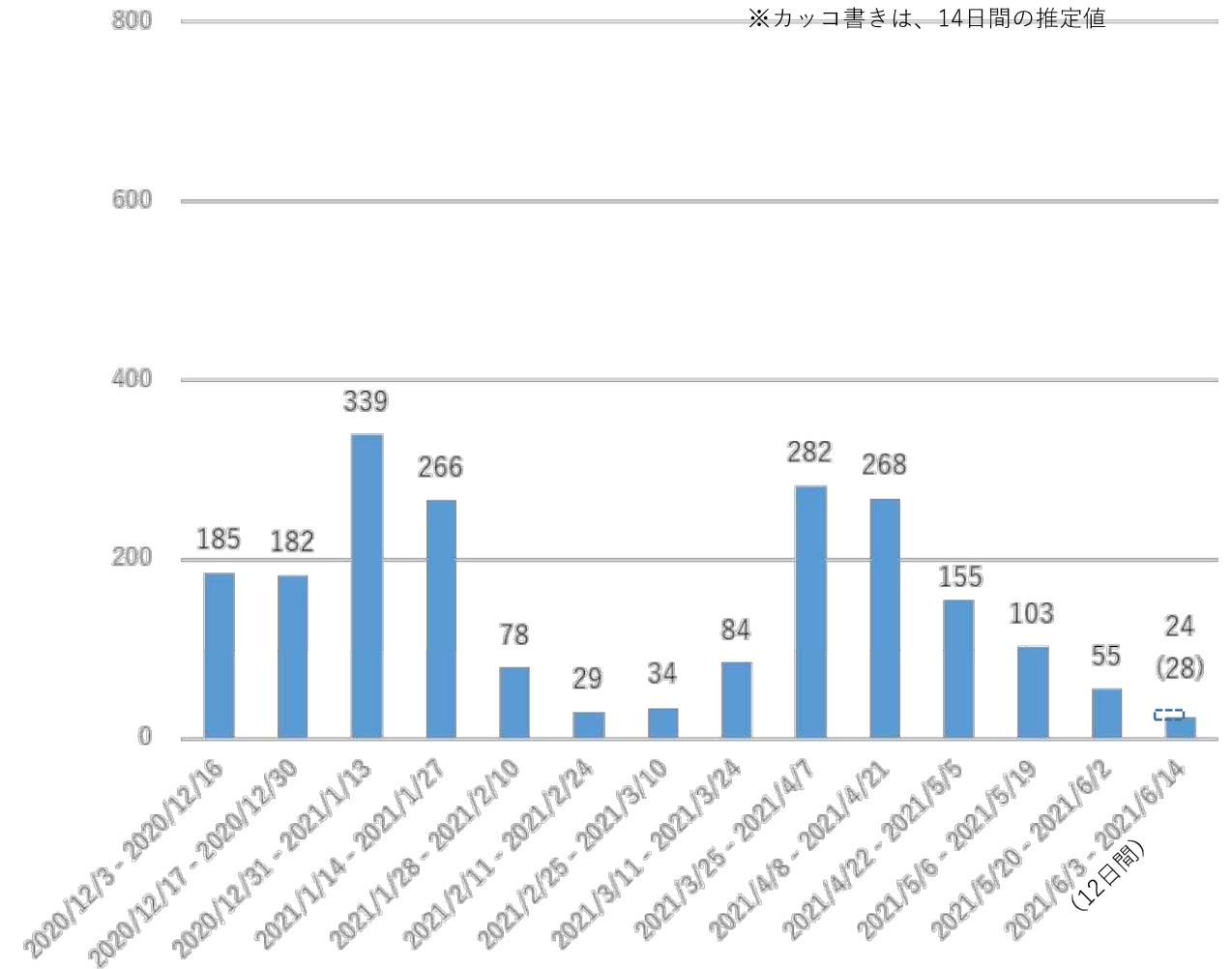
夜の街の関係者及び滞在者の状況（感染経路不明者における該当者）

（12月3日以降6月14日までに判明した感染経路不明者45,420事例の状況）

夜の街の関係者及び滞在者の状況（感染経路不明：割合）



夜の街の関係者及び滞在者の状況（感染経路不明：実数）



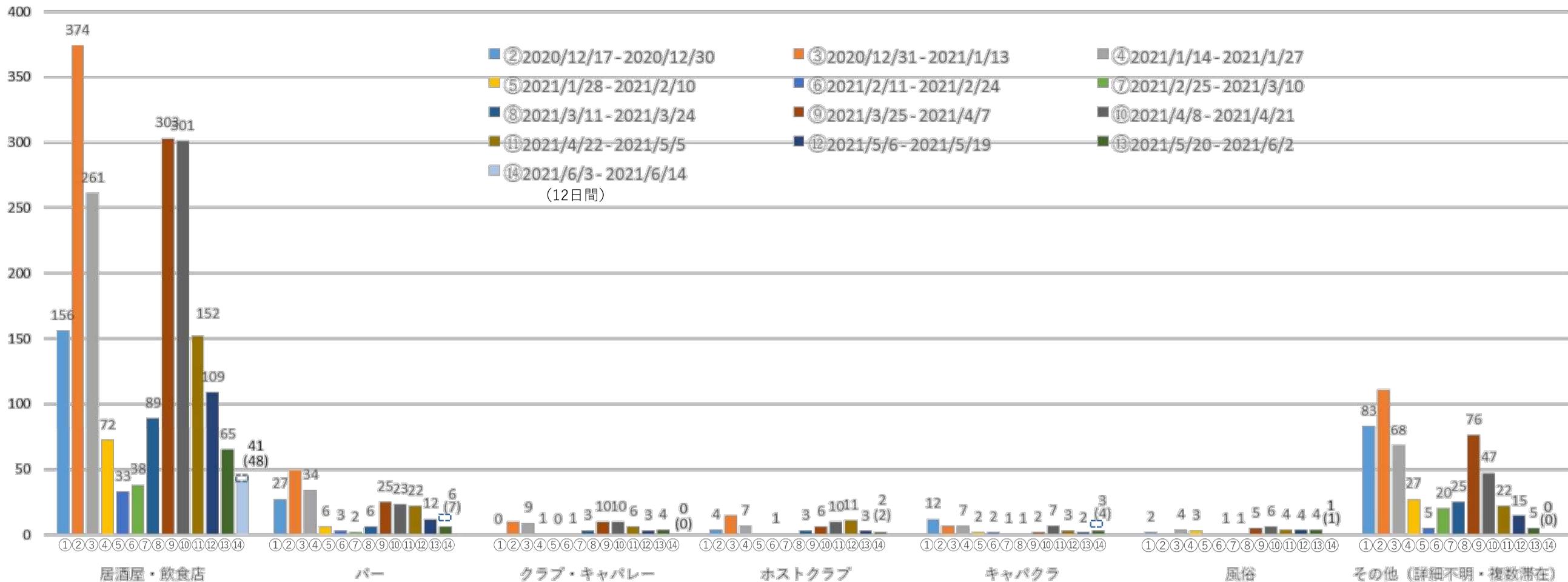
※該当・非該当は本人からの聞き取り情報による

夜の街の滞在分類別の状況

居酒屋・飲食店は、減少が続いており、第三波緊急事態措置期間中の水準にまで低下。

(12月3日以降6月14日までに判明した3,200事例の状況)

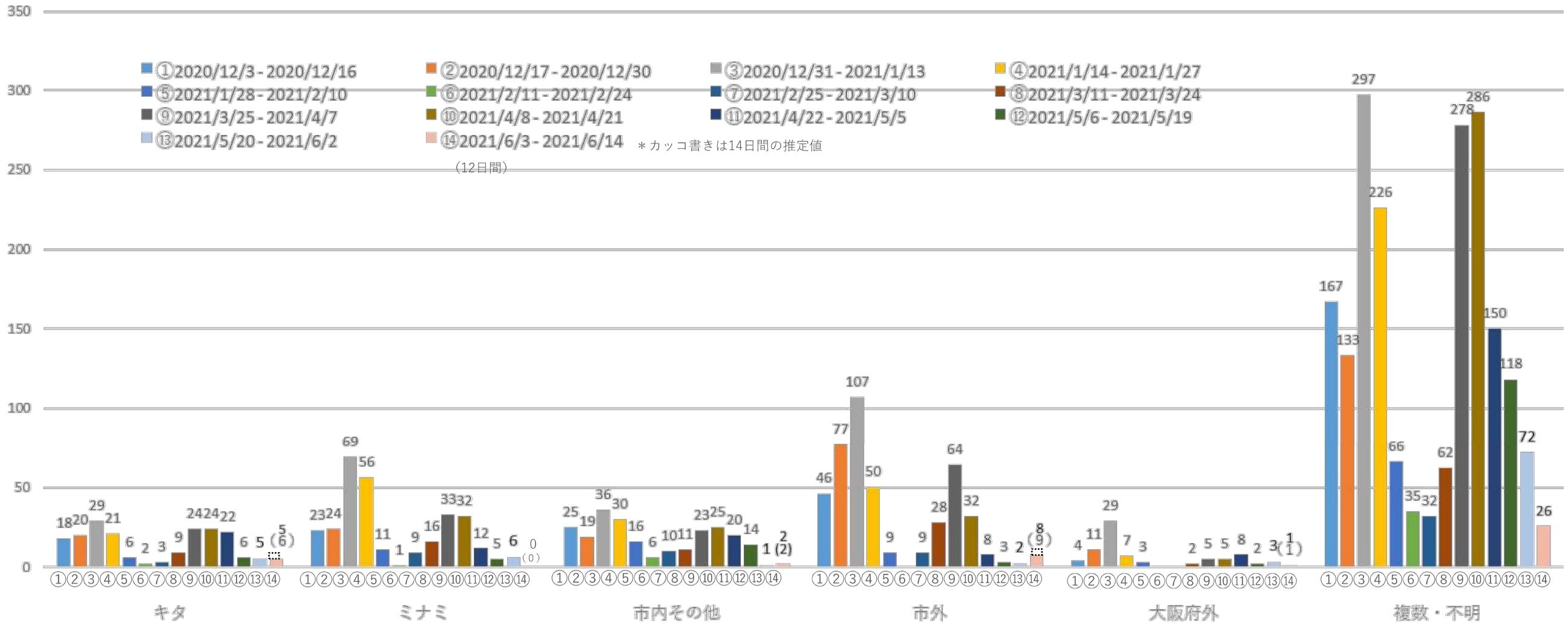
※カッコ書きは、14日間の推定値



※滞在先の分類は本人からの聞き取り情報による

夜の街の滞在エリア別の状況

(12月3日以降6月14日までに判明した3,200事例の状況)

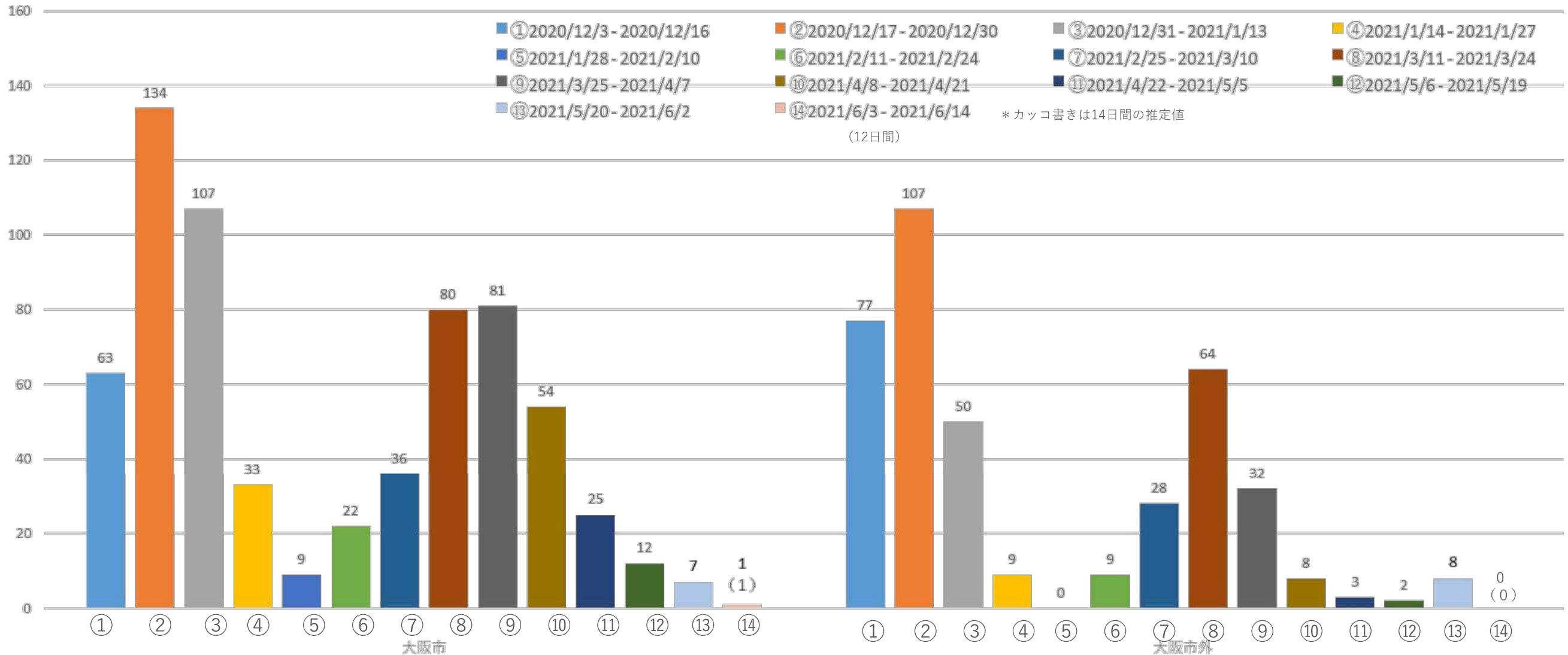


※滞在エリアの分類は本人からの聞き取り情報による

夜の街の滞在エリア別の状況

夜の街の滞在エリアとして市内、市外ともに減少。

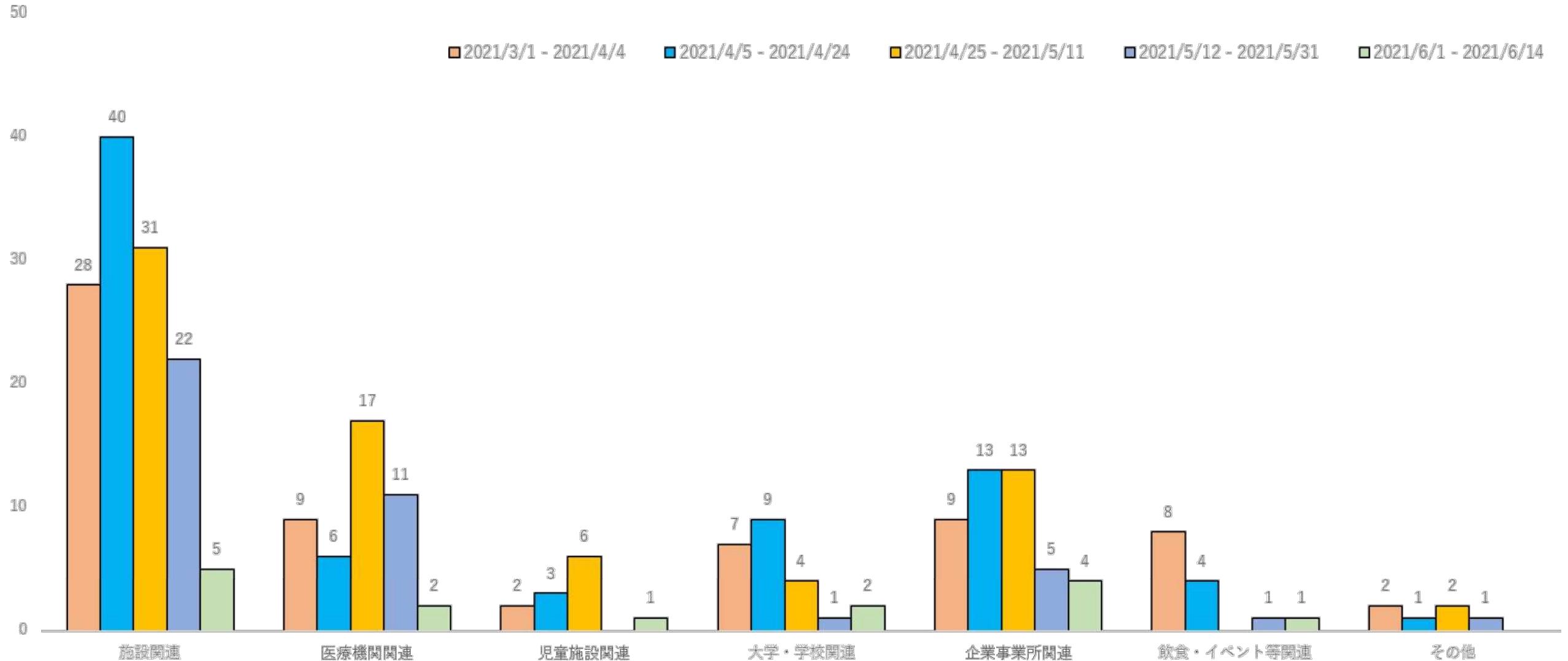
(12月3日以降6月14日までに判明した3,200事例の状況)



※滞在エリアの分類は本人からの聞き取り情報による

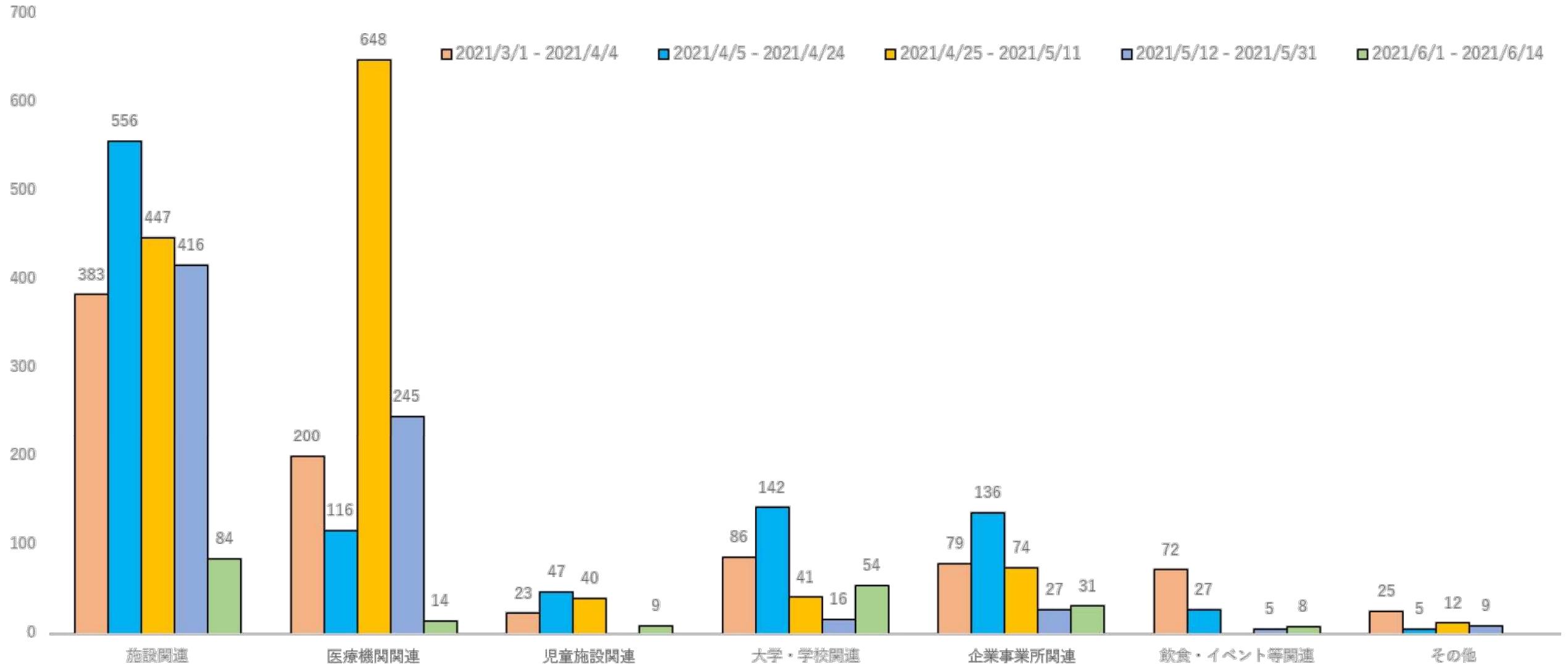
第三波から第四波にかけてのクラスター状況（施設数）【実数】（6月14日時点）

緊急事態措置が適用された4月25日以降、施設関連、大学・学校関連、企業事業所関連、飲食・イベント等関連は減少。



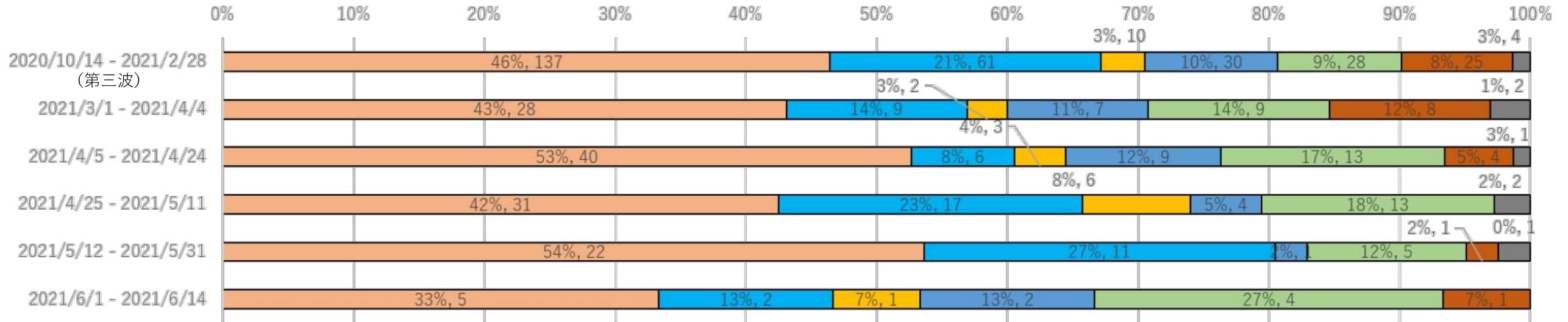
第三波から第四波にかけてのクラスター状況（陽性者数）【実数】（6月14日時点）

緊急事態措置が適用された4月25日以降、施設関連大学・学校関連、企業事業所関連、飲食・イベント等関連は減少。一方、大学・学校関連、企業事業所関連、飲食・イベント等関連は、6月以降、再び増加。

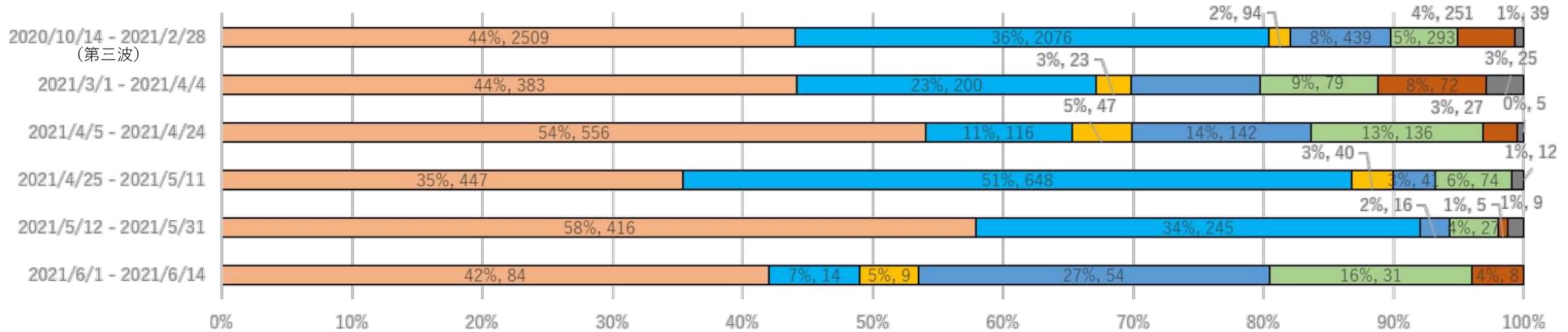


第三波から第四波にかけてのクラスター状況【割合】（6月14日時点）

施設数（割合）



陽性者数（割合）



■ 施設関連
 ■ 医療機関関連
 ■ 児童施設関連
 ■ 大学・学校関連
 ■ 企業事業所関連
 ■ 飲食・イベント等関連
 ■ その他

本人からの聞き取り情報による ⁴⁰

- | | | |
|---|---------------|--------|
| 1 | 入院・療養状況 | P2～6 |
| 2 | 重症者数の推移と年代別内訳 | P7～11 |
| 3 | 重症・死亡例のまとめ | P12～18 |

1 入院・療養状況

新規陽性者数と入院・療養者数（6月15日時点）



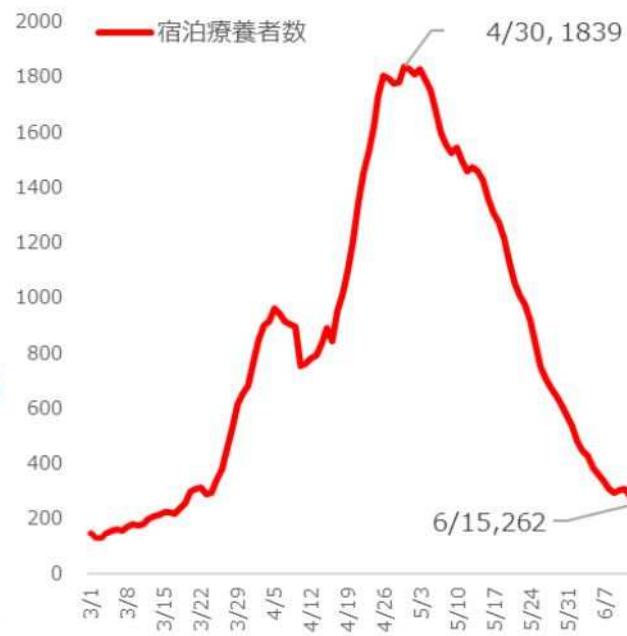
入院患者（重症）



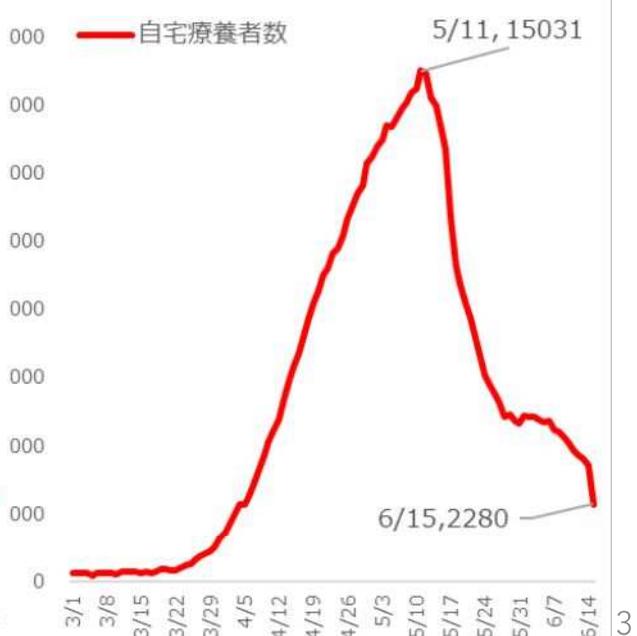
入院患者（軽症中等症）



宿泊療養者



自宅療養者



入院・療養状況（6月15日時点）

		重症病床	軽症中等症病床	宿泊療養施設
確保計画	フェーズ1	90床	1,000床	800室
	フェーズ2	160床	1,700床	1,600室
	フェーズ3	250床	2,000床	2,400室
	フェーズ4	350床	2,350床	4,000室
	災害級非常事態（目標）	500床	3,000床	—
確保数等 重症病床： 6月21日からフェーズ3へ移行 軽症中等症病床： 6月21日からフェーズ2へ移行 宿泊療養施設： 6月17日からフェーズ2へ移行		確保数 352床	確保数 2,346床	3,986室
入院・療養者数 （別途、自宅療養 2,280人）		133人※ ※上記の他、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において、治療継続をしている者 1人 （計 重症者数 134人）	675人※ ※左記1人を含む	262人
使用率		37.8% ※1 （入院者数 133 / 確保数等 352） 大阪モデルに基づく使用率は、59.4% （入院者数 133 / 確保病床数 224）	28.8% （675 / 2,346）	6.6% （262 / 3,986）
運用率		39.7% ※1 （入院者数 133 / 運用数 335） うち、大阪コロナ重症センター（15 / 29） （参考）40.0% 運用病床に占める重症者数割合 （重症者数 134 / 運用数 335）	28.8% （675 / 2,340）	7.0% （262 / 3,752）

※1 運用率における入院者数には、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を除く。

※2 大阪モデルの重症病床使用率は、緊急事態措置中は224床で算出（5/28 第51回対策本部会議決定事項）。

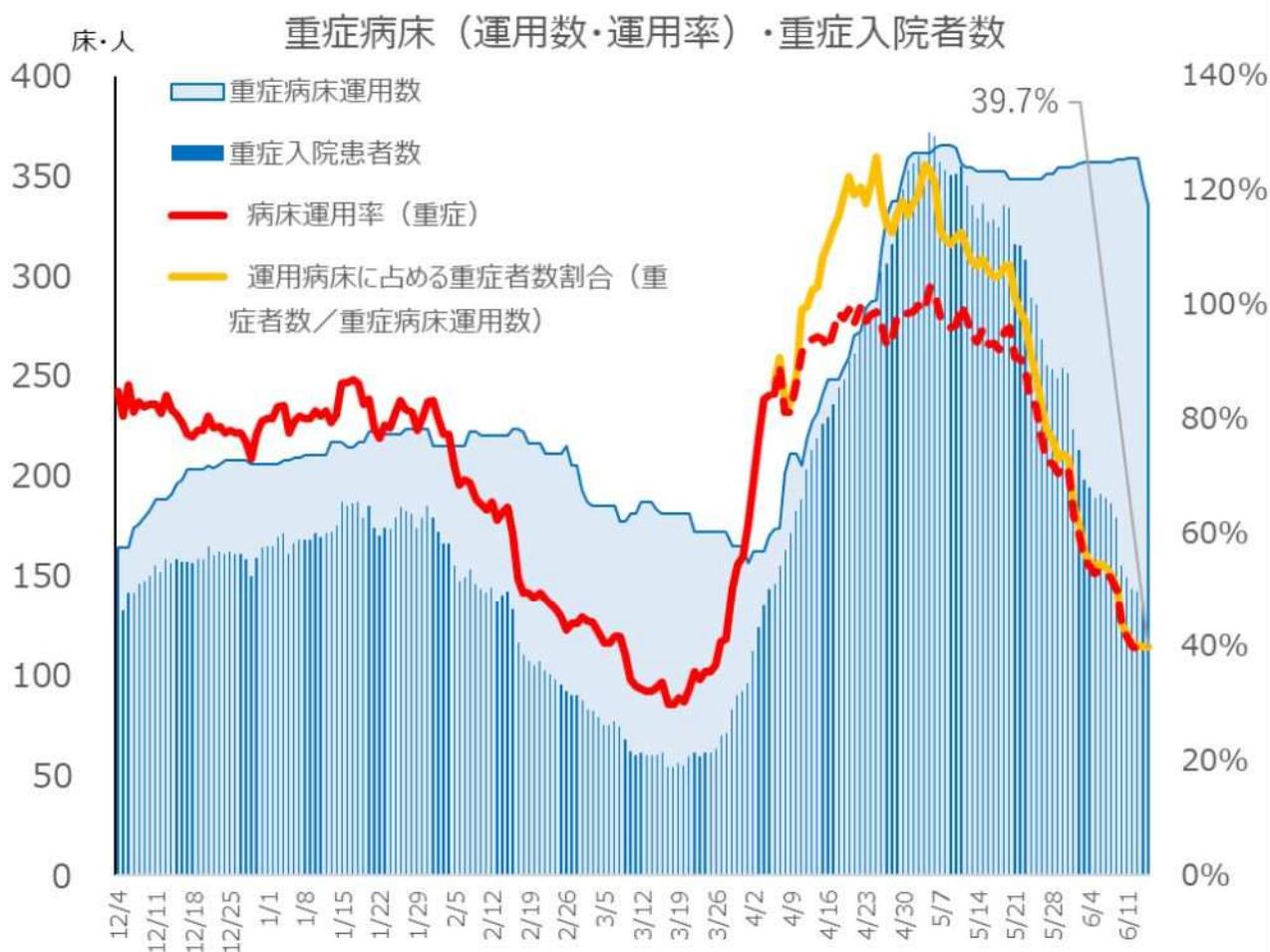
新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保・運用状況

● 重症病床運用状況(令和2年12月4日以降)

6月15日現在 **病床運用率39.7%**

運用病床数 **335床**※1 入院患者数 **133人**※2

※ 上記の他、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において、治療継続をしている重症者数1人(計 重症者数134人)



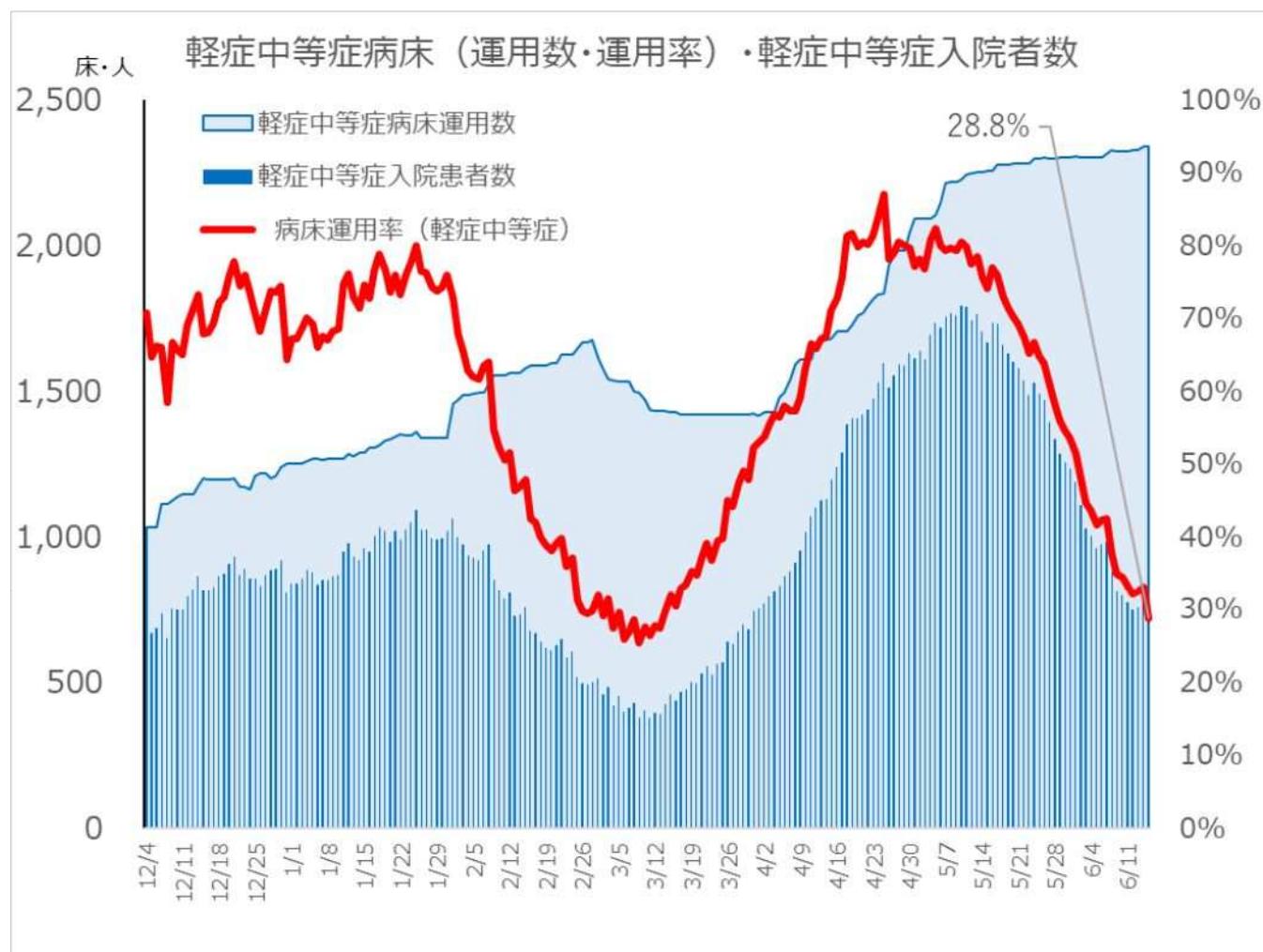
● 軽症中等症病床運用状況(令和2年12月4日以降)

6月15日現在 **病床運用率28.8%**

運用病床数 **2,340床** 入院患者数 **675人**※

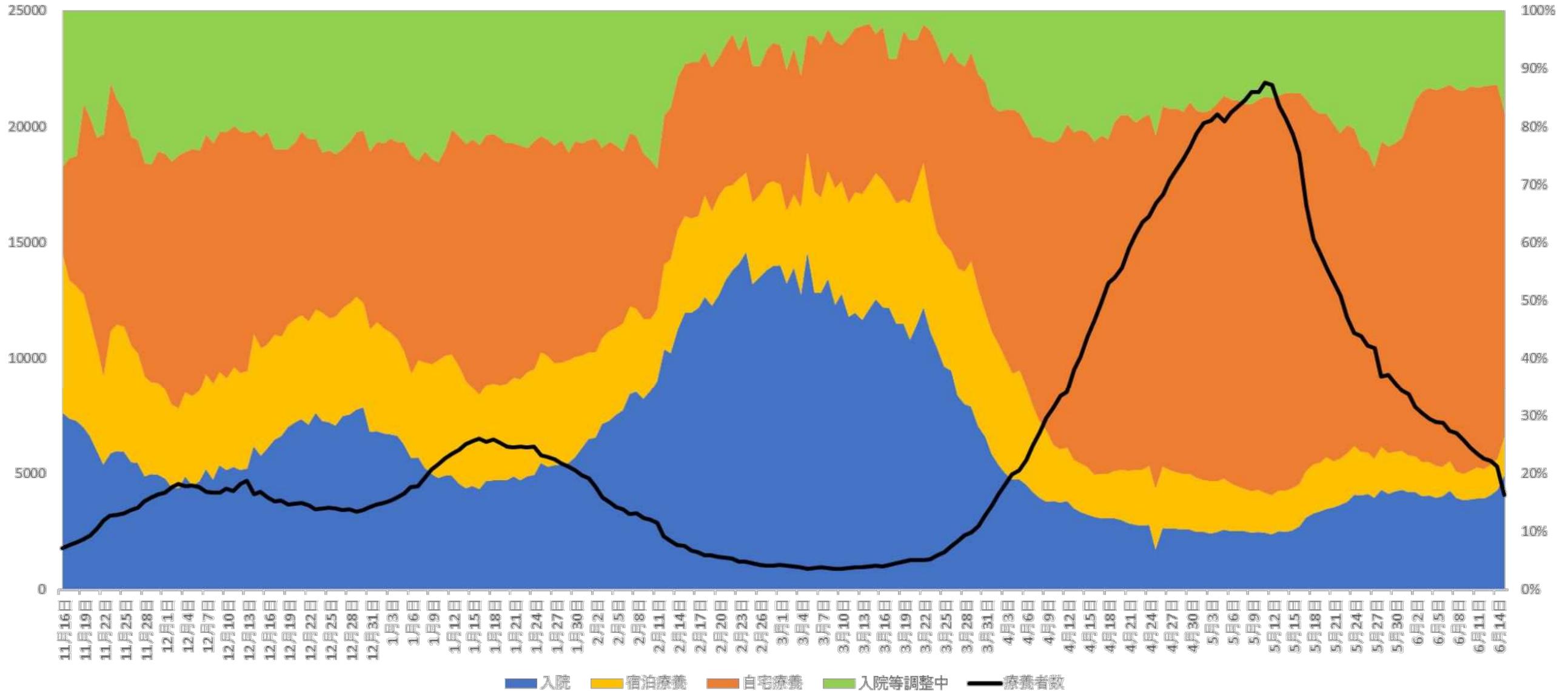
(※左記1人を含む)

・**小児・精神患者用病床等約80床を除いた運用率 約30%**



入院・療養状況(6月15日時点)

入院率は、5月12日以降増加傾向(6月15日時点 19.9%)。



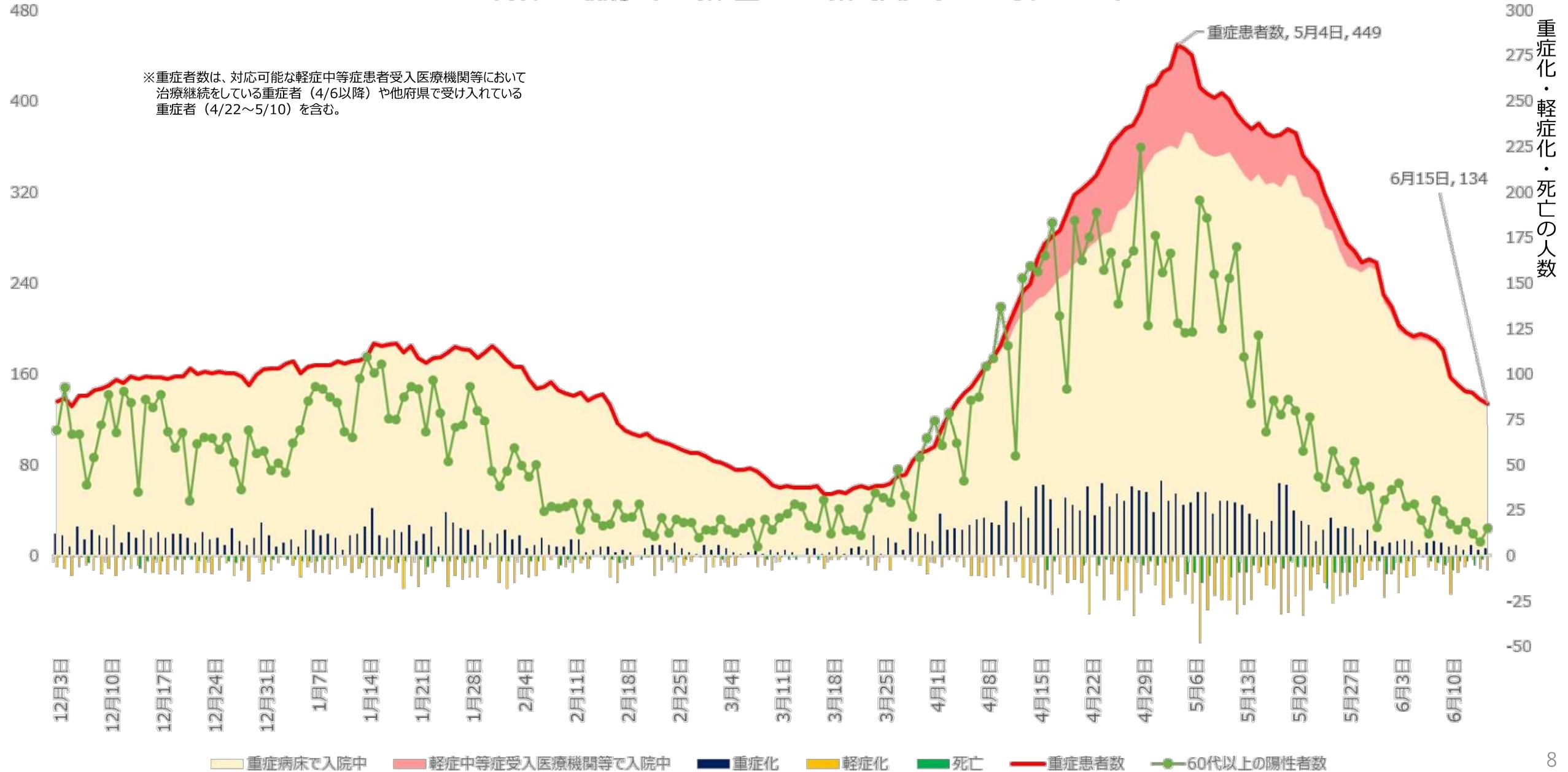
2 重症者数の推移と年代別内訳

60代以上の新規陽性者数と重症者数の推移（6月15日時点）

60代以上の新規陽性者数と重症患者数の推移（報道提供日ベース）

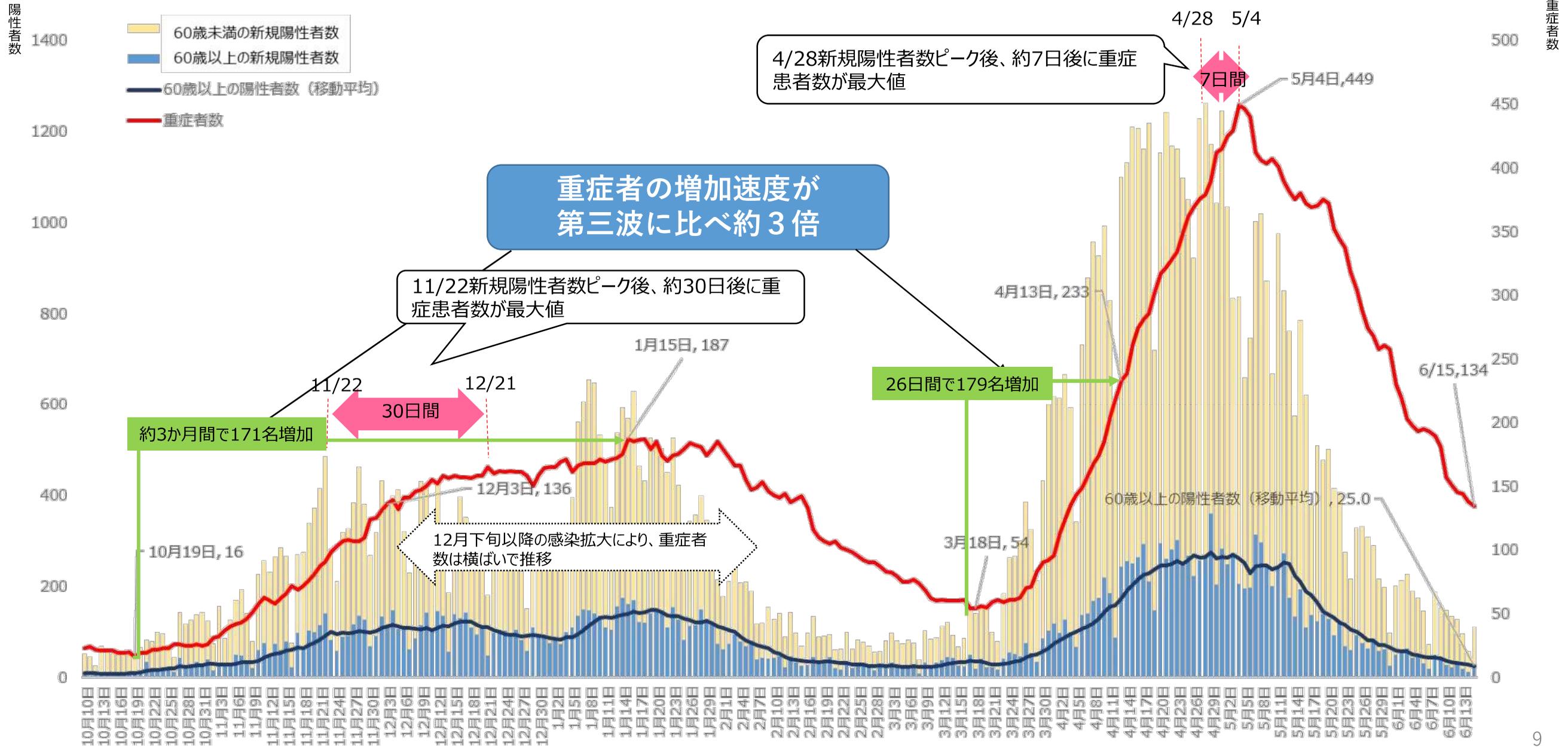
60代以上の新規陽性者数と重症患者数

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6以降）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。



【第三波・第四波】重症者数と60歳以上の陽性者数の推移

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6以降）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。

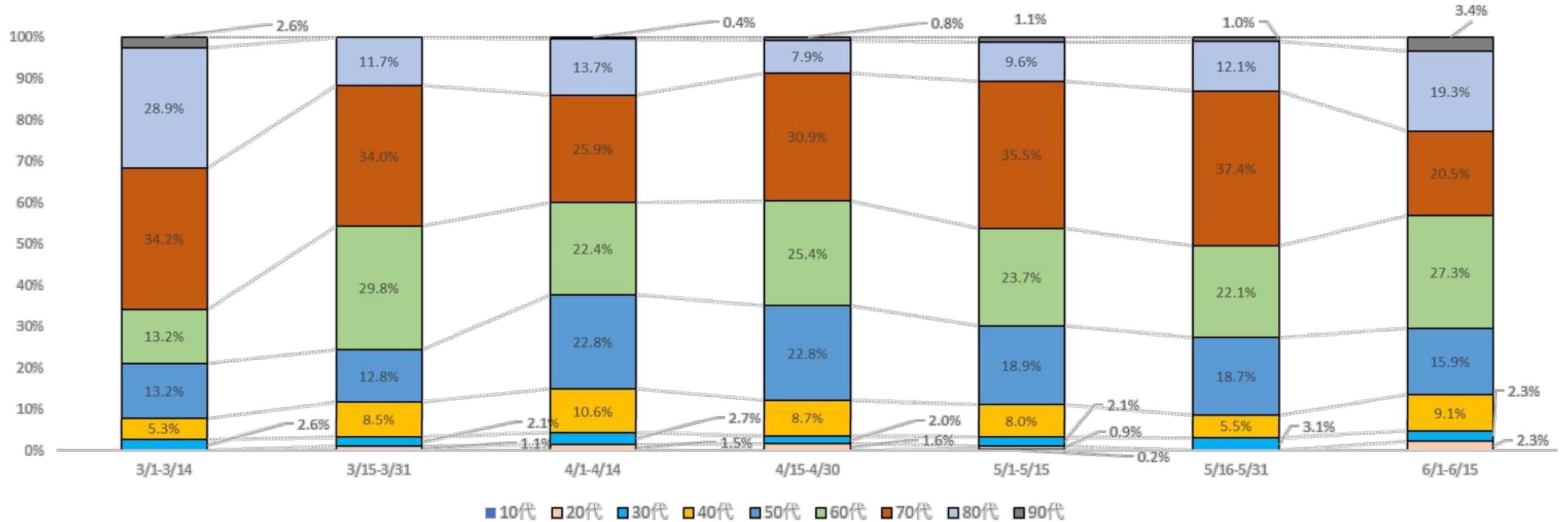


年代別新規重症者の内訳（公表日別）

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を含む。

第四波では、4月以降、新規重症者数に占める50代以下の割合が増加。

※100代の新規重症者は0名



(累計38人)

(累計94人)

(累計263人)

(累計508人)

(累計439人)

(累計289人)

(累計88人)

50代以下割合 21.1%
(うち、30代以下 2.6%)

24.5%
(3.2%)

37.6%
(4.2%)

35.0%
(3.5%)

30.1%
(3.2%)

27.3%
(3.1%)

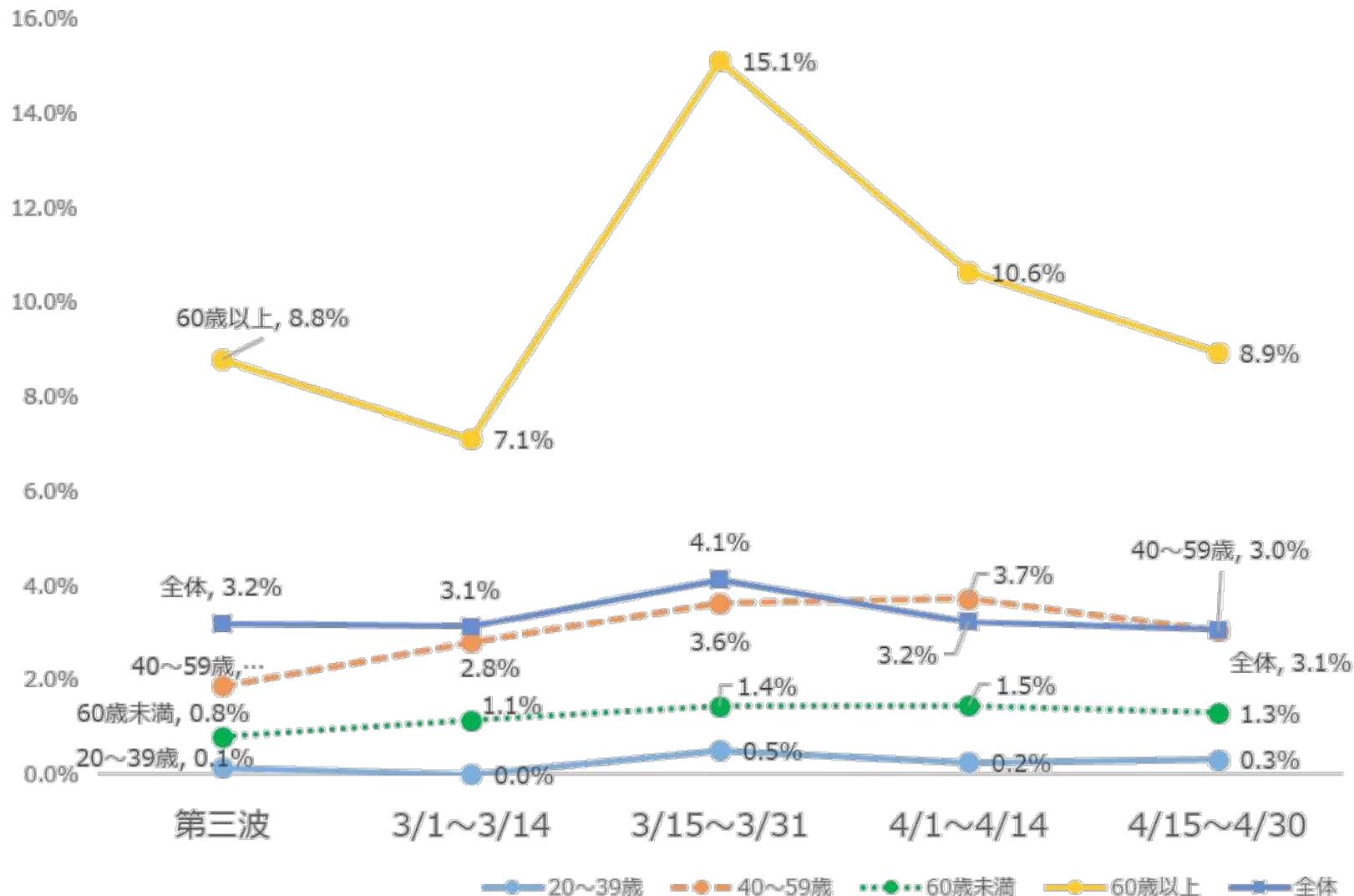
29.5%
(4.5%)

年代別重症率の推移（令和3年6月7日時点）

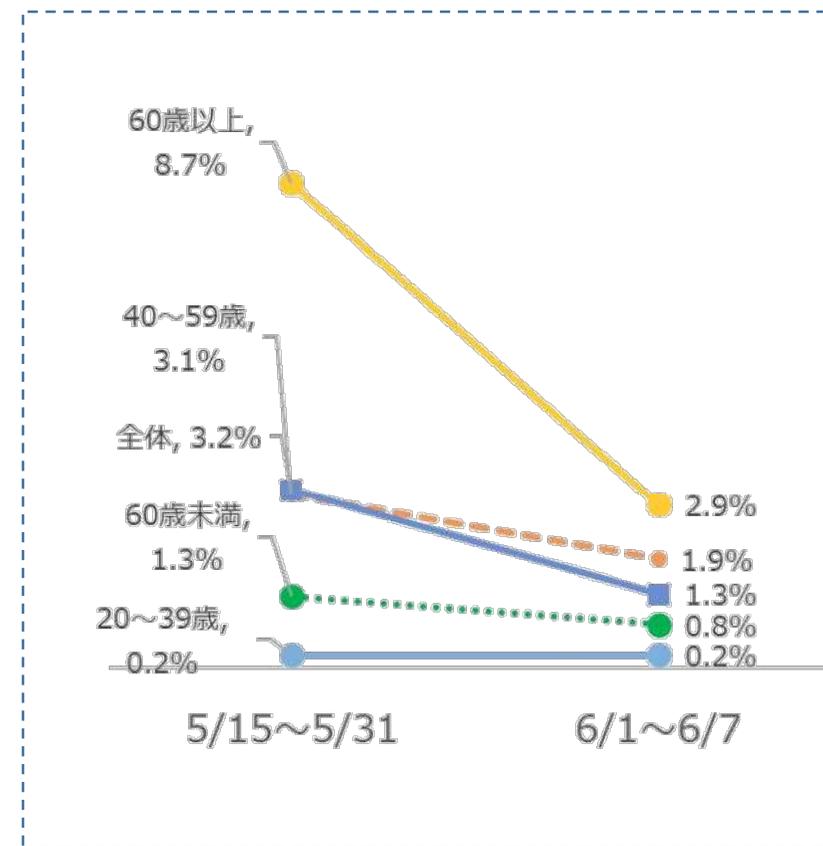
※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6以降）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。

第三波と比べ、各年代の重症化率は高い傾向。

年代別重症率の推移



※陽性判明から重症化まで約1週間程度要することから、今後、重症者数が増加する期間



3 重症・死亡例のまとめ

【第三波】重症・死亡例について推定される感染経路（令和3年6月7日時点）

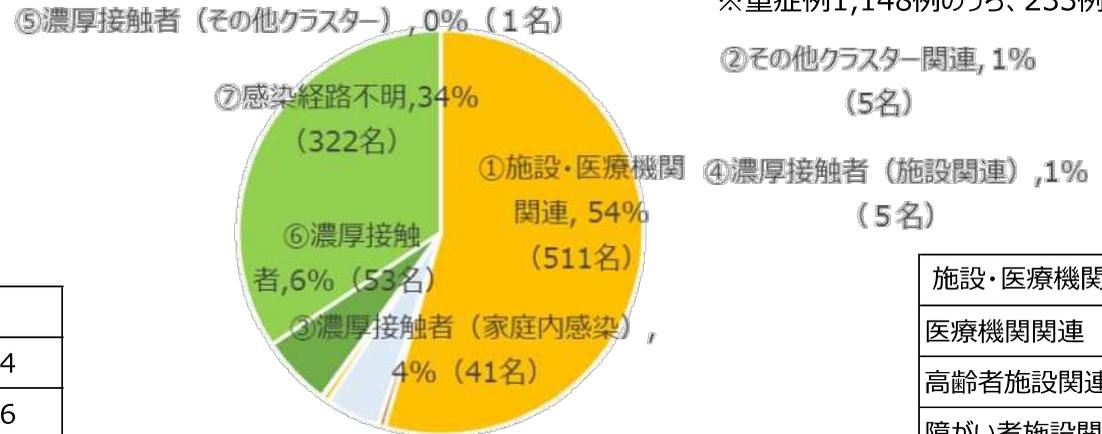
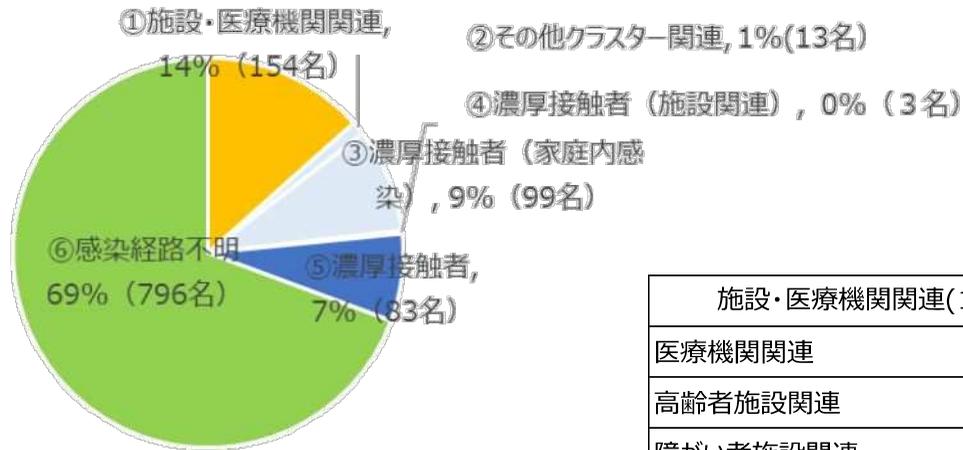
死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

第三波の重症例1,148名について、推定される感染経路の7割は感染経路不明者。

死亡例938名について、推定される感染経路の5割強が施設・医療機関関連で、3割強が感染経路不明者。

重症例（N=1,148）について推定される感染経路

死亡例（N=938）について推定される感染経路



※重症例1,148例のうち、233例は死亡のため重複あり

医療機関関連	94
高齢者施設関連	56
障がい者施設関連	4

医療機関関連	272
高齢者施設関連	238
障がい者施設関連	1

年代	重症例総数	感染経路内訳						陽性者総数	重症化率
		施設・医療機関関連	その他クラスター関連	濃厚接触者（家庭内感染）	濃厚接触者（施設関連）	濃厚接触者	感染経路不明		
未就学児	1			1				689	0.15%
20代	2	1					1	7,079	0.03%
30代	14		1	1			12	4,654	0.30%
40代	42	2		1		3	36	4,851	0.87%
50代	142	7	3	6		11	115	4,994	2.84%
60代	246	20		24		17	185	3,393	7.25%
70代	451	57	7	49	3	32	303	3,658	12.33%
80代	224	48	2	16		18	140	2,797	8.01%
90代	26	19		1		2	4	899	2.89%
計	1,148	154	13	99	3	83	796	33,014	-

年代	死亡例総数	感染経路内訳							陽性者総数	死亡率
		施設・医療機関関連	その他クラスター関連	濃厚接触者（家庭内感染）	濃厚接触者（施設関連）	濃厚接触者（その他クラスター）	濃厚接触者	感染経路不明		
30代	1							1	4,654	0.02%
40代	3							1	4,851	0.06%
50代	14	5						2	4,994	0.28%
60代	55	16	1	3	1			3	3,393	1.62%
70代	239	106	2	14				10	3,658	6.53%
80代	414	225	2	19	2	1		23	2,797	14.80%
90代	202	150		5	2			13	899	22.47%
100代	10	9						1	36	27.78%
計	938	511	5	41	5	1	53	322	25,282	-

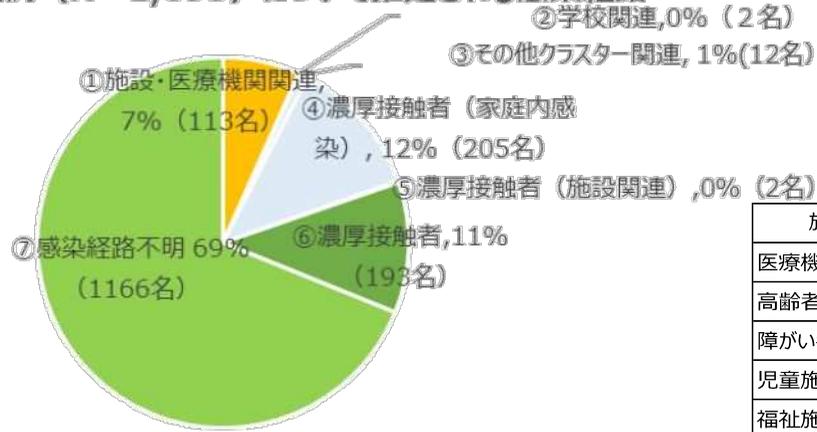
【第四波】重症・死亡例について推定される感染経路（令和3年6月7日時点）

死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

第四波の重症例1,693名について、推定される感染経路の7割は感染経路不明者で第三波と同じ傾向。施設・医療機関関連の割合は第三波に比べ、減少。

死亡例1,265名について、推定される感染経路の3割強が施設・医療機関関連で、第三波の5割強より減少。感染経路不明者は5割であり、第三波の3割より増加。

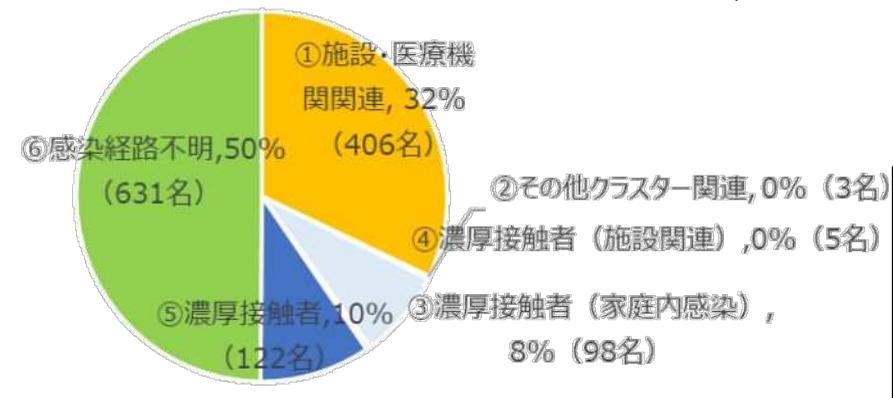
重症例（N=1,693）について推定される感染経路



施設・医療機関関連(113名)の内訳	
医療機関関連	70
高齢者施設関連	35
障がい者施設関連	5
児童施設関連	2
福祉施設関連	1

死亡例（N=1,265）について推定される感染経路

※重症例1,693例のうち、313例は死亡のため重複あり



施設・医療機関関連（406名）の内訳	
医療機関関連	187
高齢者施設関連	211
障がい者施設関連	5
児童施設関連	1
福祉施設関連	2

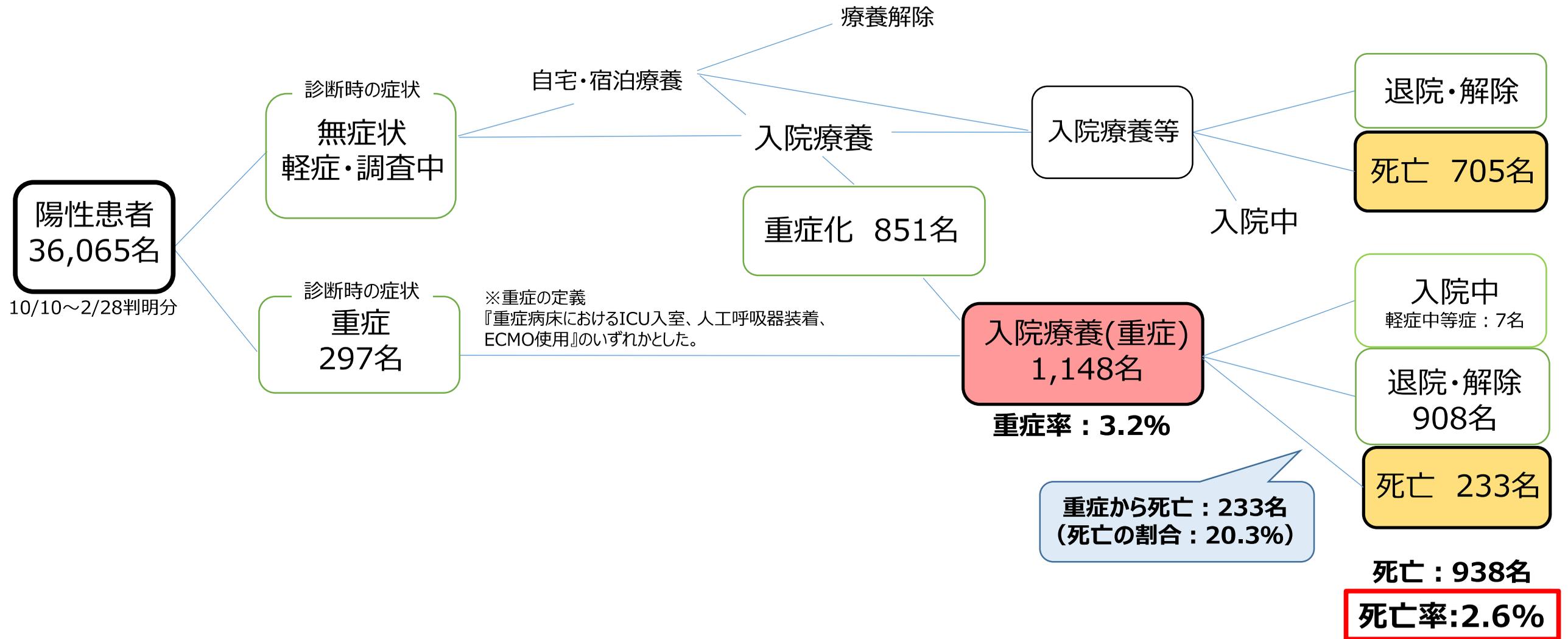
年代	重症例総数	感染経路内訳							陽性者総数	重症化率
		施設・医療機関関連	学校関連	その他クラスター関連	濃厚接触者（家庭内感染）	濃厚接触者（施設関連）	濃厚接触者	感染経路不明		
10代	1	1						4,518	0.02%	
20代	20	1			2		3	11,757	0.17%	
30代	39				5		5	7,436	0.52%	
40代	142	1		4	6		14	7,962	1.78%	
50代	337	13	1	4	39		37	7,407	4.55%	
60代	402	23	1	2	48		48	4,464	9.01%	
70代	550	38		2	80	1	65	4,257	12.92%	
80代	187	32			24	1	19	2,937	6.37%	
90代	15	4			1		2	903	1.66%	
計	1,693	113	2	12	205	2	193	51,641	-	

年代	死亡例総数	感染経路内訳							陽性者総数	死亡率
		施設・医療機関関連	その他クラスター関連	濃厚接触者（家庭内感染）	濃厚接触者（施設関連）	濃厚接触者	感染経路不明			
30代	6				1		1	4	7,436	0.08%
40代	17	1			1		1	14	7,962	0.21%
50代	56	4			3		3	46	7,407	0.76%
60代	111	27			12		4	68	4,464	2.49%
70代	361	77	1		37	1	37	208	4,257	8.48%
80代	487	179	2		35	4	52	215	2,937	16.58%
90代	218	114			9		22	73	903	24.14%
100代	9	4					2	3	44	20.45%
計	1265	406	3		98	5	122	631	35,410	-

(参考) 【第三波】重症及び死亡事例のまとめ (令和3年6月7日時点)

※死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

重症及び死亡例の経過

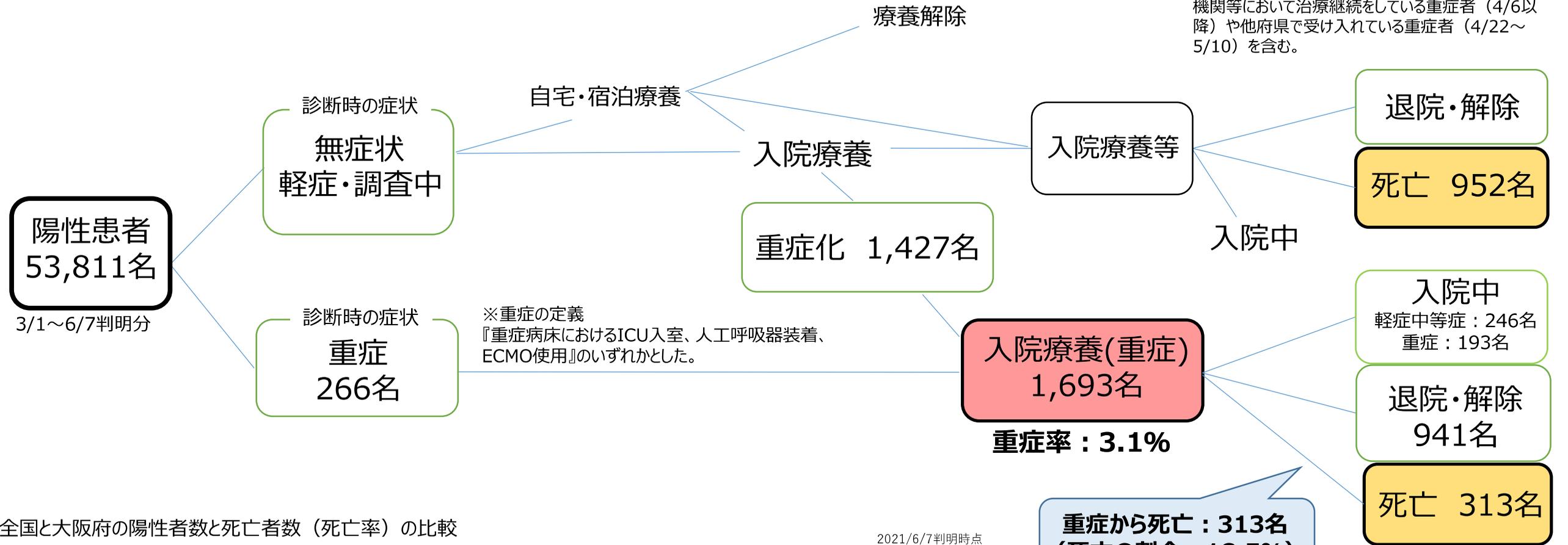


【第四波】重症及び死亡事例のまとめ（令和3年6月7日時点）

重症及び死亡例の経過

※死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6以降）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。



全国と大阪府の陽性者数と死亡者数（死亡率）の比較

2021/6/7判明時点

	累計陽性者数	2020/6/13				死亡者数 (死亡率)	2020/6/13			
		まで	6/14~10/9	10/10~2/28	3/1~6/7		まで	6/14~10/9	10/10~2/28	3/1~6/7
大阪府	100,933	1,786	9,271	36,065	53,811	2,432 (2.4%)	87 (4.9%)	142 (1.5%)	938 (2.6%)	1,265 (2.4%)
全国	759,398	17,179	70,012	343,342	328,865	13,570 (1.8%)	925 (5.4%)	698 (1.0%)	6,262 (1.8%)	5,685 (1.7%)

※チャーター機帰国者、クルーズ船乗客、空港検疫は含まれていない

※全国は厚生労働省公表資料（6/7の国内の発生状況）より集計。

※死亡率は6月7日時点までの死亡者数に基づく。今後、死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

重症者のまとめ（令和3年6月7日時点）

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6以降）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。

第三波と比べ、重症者数に占める50代以下の割合が31.8%（第三波 17.5%）と大きい。

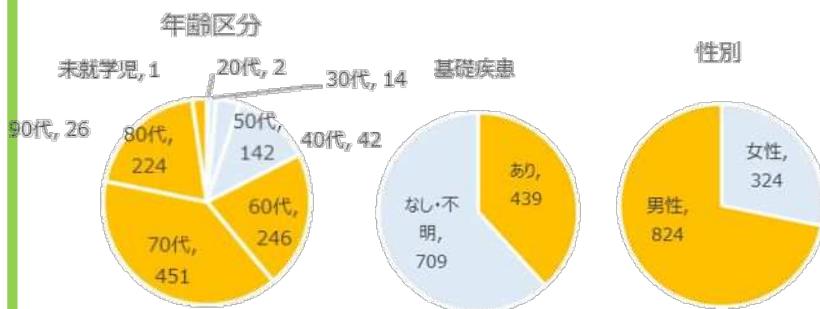
第三波（10/10～2/28）

新規陽性者数	36,065
(再掲)40代以上(割合)	20,628(57.2%)
(再掲)60代以上(割合)	10,783(29.9%)
重症者数（※）	1,148
死亡	233
転退院・解除	908
帰入院中（軽症）	7
帰入院中（重症）	0

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が4例あり

■重症者の割合

- ①40代以上の陽性者に占める重症者の割合：5.5% (1,131/20,628)
- ②60代以上の陽性者に占める重症者の割合：8.8%(947/10,783)
- ③全陽性者数に占める重症者の割合：3.2%(1,148/36,065)



平均年齢：66.1歳、60代以上の割合：82.5%

第四波（3/1以降）

新規陽性者数	53,811
(再掲)40代以上(割合)	28,009(52.1%)
(再掲)60代以上(割合)	12,625(23.5%)
重症者数（※）	1,693
死亡	313
転退院・解除	941
帰入院中（軽症）	246
帰入院中（重症）	193

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が23例あり

■重症者の割合

- ①40代以上の陽性者に占める重症者の割合：5.8%(1,633/28,009)
- ②60代以上の陽性者に占める重症者の割合：9.1%(1,154/12,625)
- ③全陽性者数に占める重症者の割合：3.1%(1,693/53,811)



平均年齢：60.9歳、60代以上の割合：68.2%

死亡例のまとめ（令和3年6月7日時点）

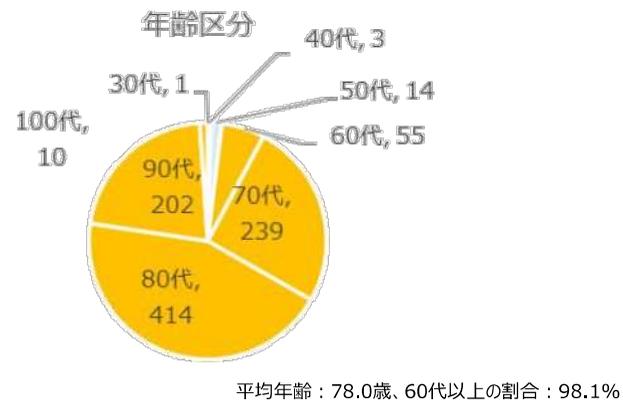
第三波と比べ、死亡者数に占める50代以下の割合が6.2%（第三波 1.9%）と大きい。

第三波（10/10～2/28）

新規陽性者数	36,065
(再掲)40代以上(割合)	20,628(57.2%)
(再掲)60代以上(割合)	10,783(29.9%)
死亡者数	938

■死亡例の割合

- ①40代以上の陽性者に占める死亡例の割合：4.5% (937/20,628)
- ②60代以上の陽性者に占める死亡例の割合：8.5%(920/10,783)
- ③全陽性者数に占める死亡例の割合：2.6%(938/36,065)

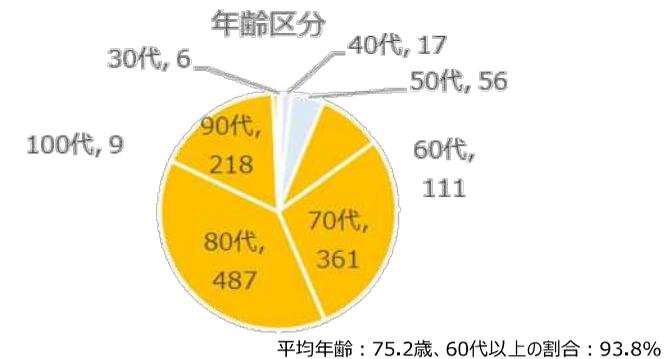


第四波（3/1以降）

新規陽性者数	53,811
(再掲)40代以上(割合)	28,009(52.1%)
(再掲)60代以上(割合)	12,625(23.5%)
死亡者数	1,265

■死亡例の割合

- ①40代以上の陽性者に占める死亡例の割合：4.5%(1,259/28,009)
- ②60代以上の陽性者に占める死亡例の割合：9.4%(1,186/12,625)
- ③全陽性者数に占める死亡例の割合：2.4%(1,265/53,811)



基礎疾患



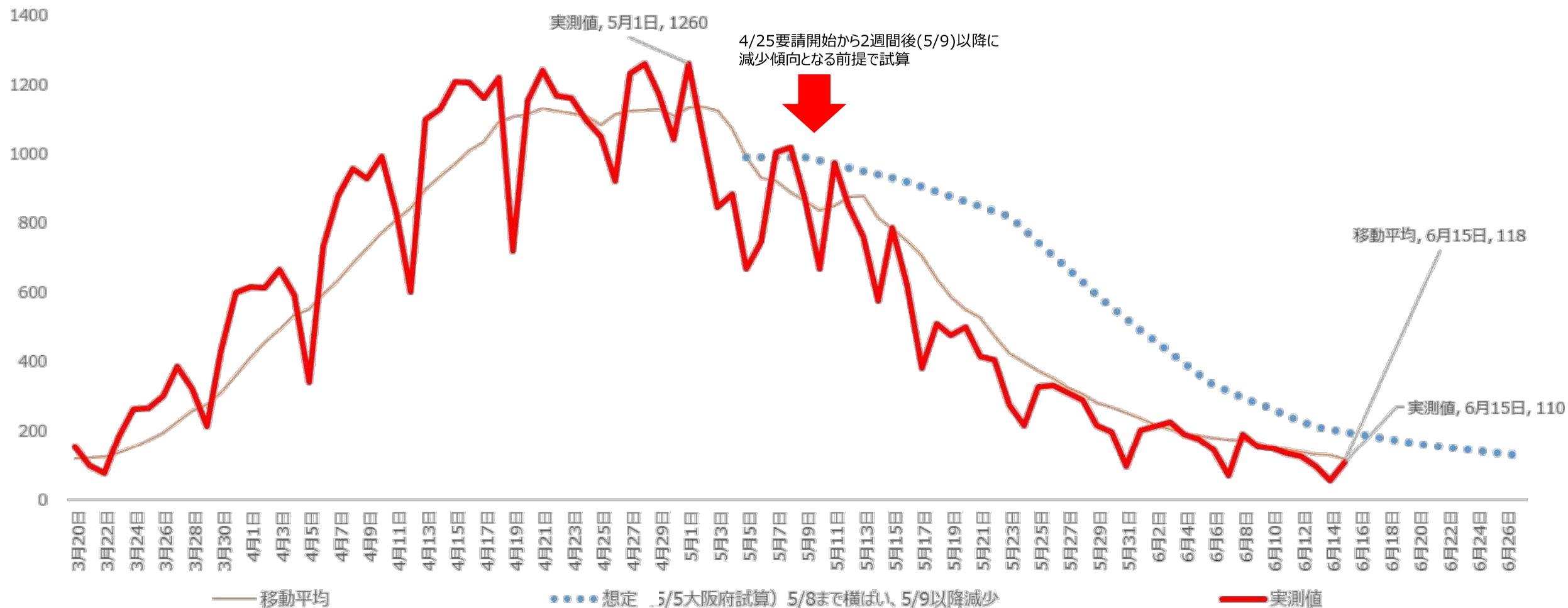
※死亡率は6月7日時点までの死亡者数に基づく。
今後、死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

新規陽性者数の推移と患者発生シミュレーション

資料 1 - 3

■ 第48回対策本部会議資料（資料1-4）のシミュレーション（想定③のみ）に実測値をあてはめ。
 想定：5/6から5/8までは990名/日（5/5時点の新規陽性者数の7日間平均値）の横ばいとなり、5/9（4/25緊急事態措置開始後2週間）以降、第三波（1月中旬以降）と同じ前週比で減少する場合。

患者発生シミュレーション



療養者数のシミュレーション

入院患者数（重症）シミュレーション

■ 以下の想定でシミュレーションを実施。

5/6から5/8までは990名/日の横ばいとなり、5/9以降第三波（1月中旬以降）と同じ前週比で減少する場合。

【陽性者数の設定の考え方】

■ 新規陽性者中の60代以上の陽性者の割合を18%（※1）と設定。

■ 新規陽性者中の40代・50代の新規陽性者数を28%（※1）と設定。

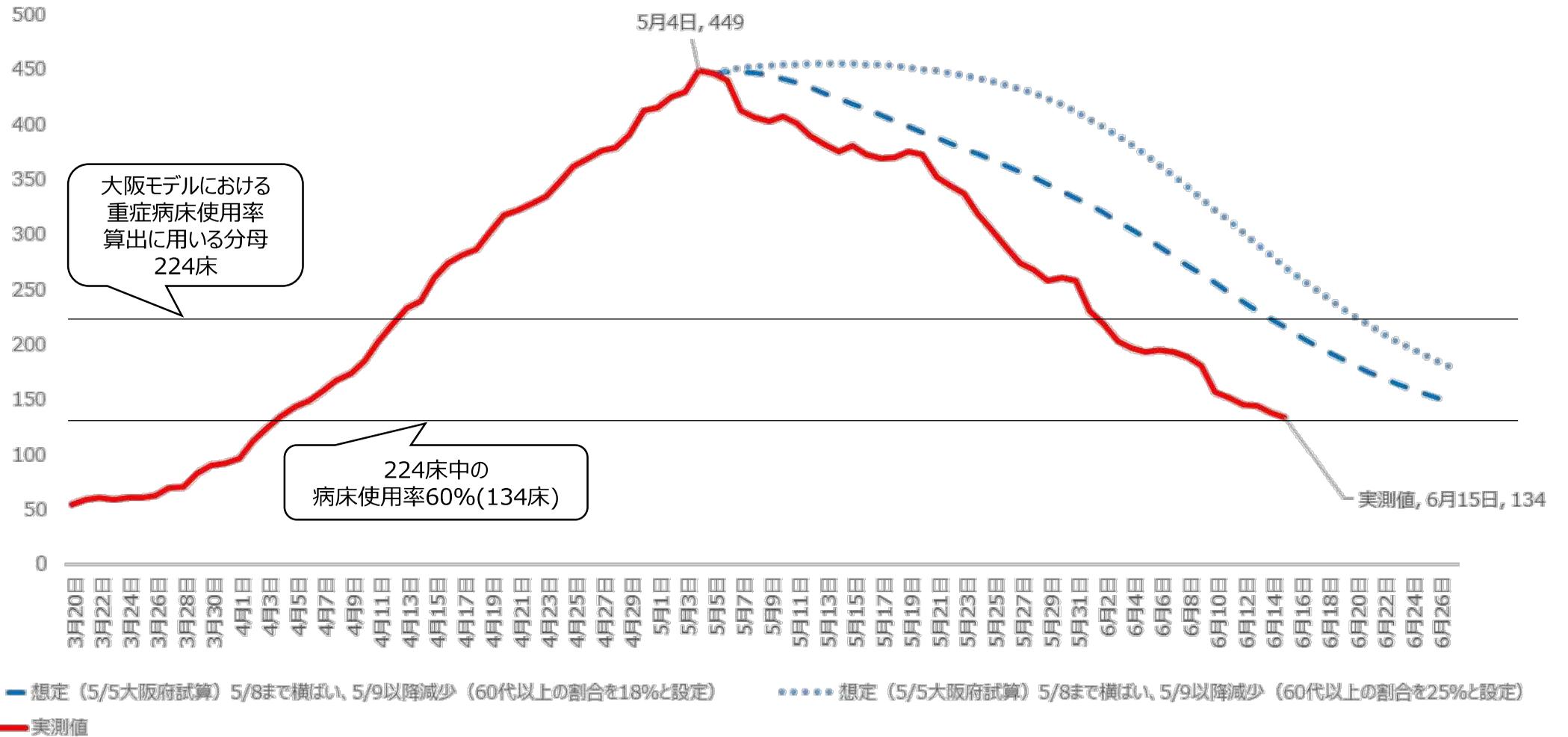
※1：4月7日時点の新規陽性者中の割合（7日間）

【重症率の設定の考え方】

■ 60代以上の新規陽性者の重症率は9.0%（※2）と設定。

■ 40代・50代の新規陽性者の重症率は2.1%（※2）と設定。

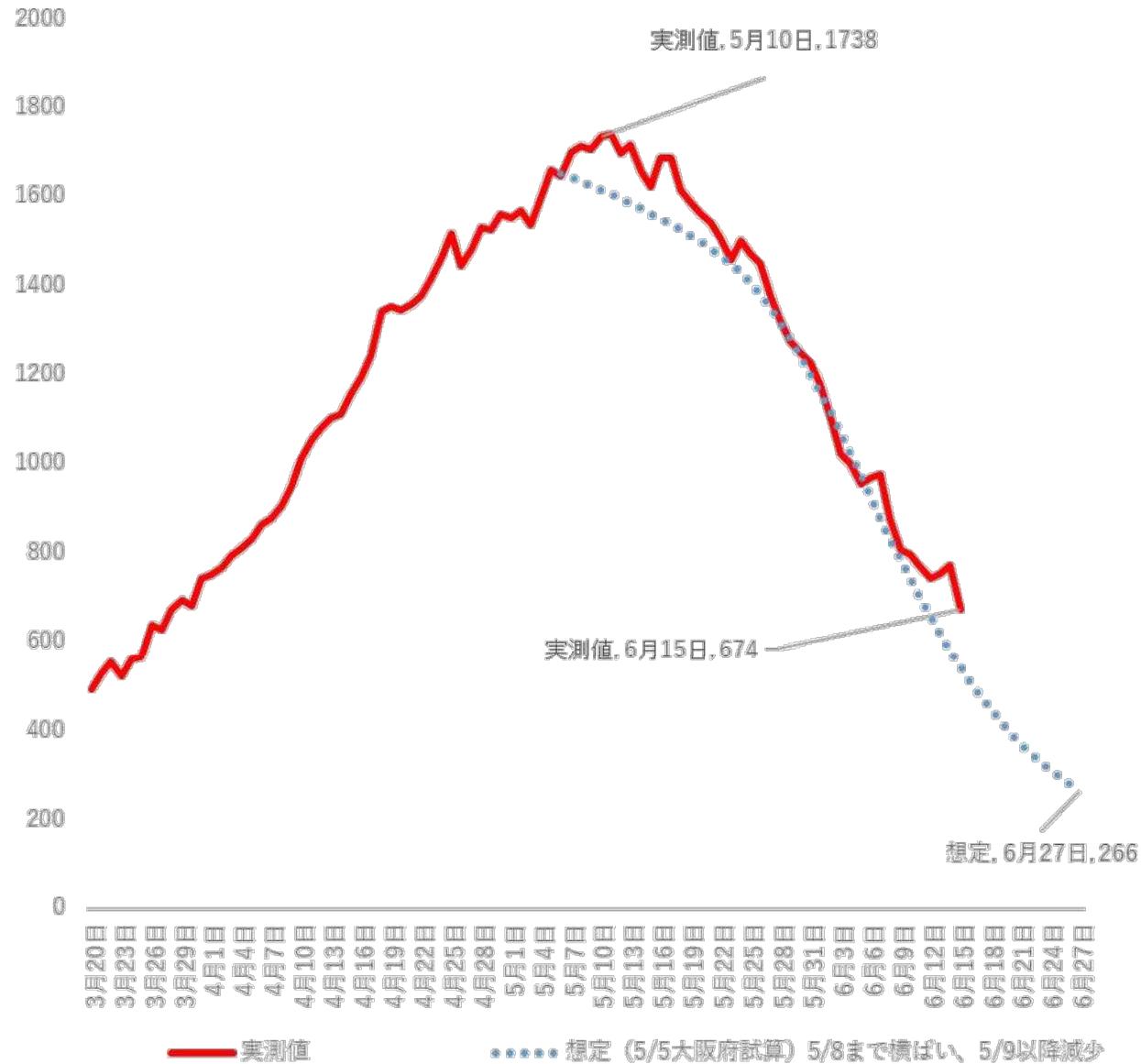
※2：第四波(3/1～4/5)における重症率



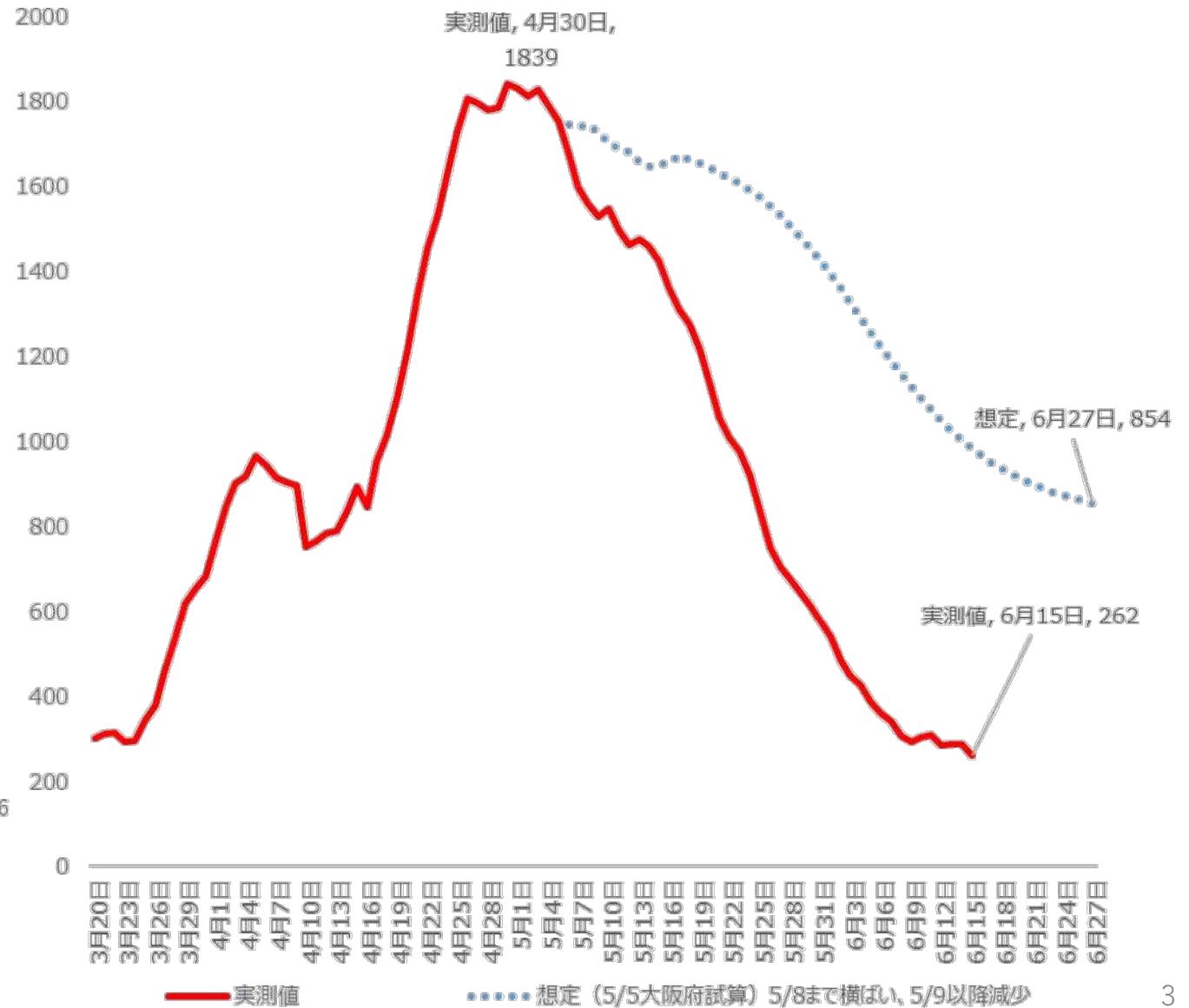
※陽性者数や重症率の設定の考え方は4月5日時点の数値に基づいてシミュレーションを実施しているが、60代以上の割合は直近の数値（5/5時点の新規陽性者中の割合(7日間)25%）に基づきシミュレーションを追加実施。今後、重症率や新規陽性者中の60代以上の割合が増加（第三波では最大で35%程度）すると、重症者数は想定するシミュレーションの値よりも増加する可能性あり。

療養者数のシミュレーション

入院患者数（軽症中等症）シミュレーション



宿泊療養者数シミュレーション



新規陽性者の発生動向

(1) 大阪府の発生動向

- 緊急事態宣言発令以降、新規陽性者数は減少が続いているが、直近3週間は、**減少幅がやや鈍化**の傾向。依然、**1日あたり100名を上回る新規陽性者**が確認。
直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数は、9.35人とステージⅢの基準（15人）を下回っている。
- **緊急事態措置適用の4月25日以降、人流が大きく減少したが、ゴールデンウィーク後から昼間の人流が増加。**
- **デルタ株のスクリーニング検査実施率は約4割となり、スクリーニング検査における直近の週の陽性率は6.2%と増加傾向。**
今後、変異株による感染状況や医療提供体制に与える影響が懸念。

(2) 市内・市外居住者の発生動向（週・人口10万人あたり）

- 週・人口10万人あたりの新規陽性者数は、**市外居住者はステージⅢ（15人）の基準を下回り、市内居住者もステージⅢの基準に近づいている。**
- 保健所管内別陽性者数は、各管内ともほぼステージⅢの基準を下回っている。

(3) 夜の街関連やクラスターの発生動向

- **新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者数は減少が続いており、第三波緊急事態措置期間中の水準にまで低下。滞在エリアでは市内外ともに減少。**
- クラスターとしては、6月に入り、大学・学校関連、企業事業所関連、飲食・イベント等関連の割合（施設数ベース）が増加。

医療提供体制の状況

- 重症者数は5月4日449名をピークに減少しているが、**確保病床（224床）における重症病床使用率は59.4%（大阪モデル）と高い水準。**
（3月中旬の重症者数は50名強）
軽症中等症病床使用率は約3割弱に改善。宿泊療養施設使用率は1割弱に低下。

感染状況と医療提供体制の状況について

今後の対応方針について

- 第四波における感染の急拡大と重症者数の急増は、3月1日からの緊急事態宣言解除によるリバウンドに加え、変異株や感染機会の増大による人流の活発化等が影響したと考えられる。
 - ・変異株による影響：
2月中旬にはスクリーニング検査に占める陽性率が4%強であったところ、3月上旬には従来株からアルファ株へ本格的に置き変わり始め、5月上旬にはほぼ置き変わり。
 - ・感染機会の増大による人流の活発化：2月より人流は増加の一途。3月～4月にかけて卒業式、謝恩会、入学式や花見、人事異動等。
- 現在、従来株に比べ、感染性が高い、あるいはワクチンと抗体医薬の効果を弱める可能性があると考えられるデルタ株のスクリーニング検査での陽性率が確実に上昇しており、大阪府における**新たな変異株の市中感染が懸念**。
また、緊急事態措置下においてもゴールデンウィーク後から人流が増加傾向に転じており、今後、夏休みやお盆など感染機会の増大につながる恒例行事等が増加。
状況として、2月中旬から3月の状況と極めて類似している。
- 現在、緊急事態措置の効果により、新規陽性者数は大きく減少しているものの、**依然、1日あたり100名を超える陽性者が確認**。
また、医療提供体制のひっ迫は改善傾向にあるものの、**重症者数は134名（6/15時点）、病床使用率は6割程度と極めて高い状況**。
上記の状況を踏まえると、今後の波に備え、第三波の緊急事態措置解除（3/1）の新規陽性者数50名強、重症者数50名強（3月中旬）まで感染状況等を改善させることが必要。
⇒今後の波に備え、できる限り新規陽性者数を減少させ、重症者数を最大限に減らすことが必要。
そのため、飲食の場面における感染リスクの最大限の低減や、人と人との接触機会を減らすための人流対策など、効果的な取組みを継続・徹底することが求められる。
- また、併せて、ワクチン接種の円滑化・加速化や、検査体制の強化や積極的疫学調査による感染拡大を抑制する取組み、病床確保など入院医療体制の強化及び宿泊・自宅療養における対応の充実など今後の医療提供整備を図る。

新型コロナウイルスの懸念される変異株 (VOC)

資料 1 - 5

6月9日開催アドバイザーボード資料

PANGO系統 (WHOラベル)	最初の 検出	主な 変異	感染性 (従来株比)	重篤度 (従来株比)	再感染やワクチン 効果 (従来株比)
B.1.1.7系統の変異株 (アルファ株)	2020年9月 英国	N501Y	1.32倍と推定※ (5~7割程度 高い可能性)	1.4倍 (40-64歳 1.66倍) と推定※ (入院・死亡リスクが高い 可能性)	効果に影響がある 証拠なし
B.1.351 系統の変異株 (ベータ株)	2020年5月 南アフリカ	N501Y E484K	5割程度高い 可能性	入院時死亡リスク が高い可能性	効果を弱める 可能性
P.1系統の変異株 (ガンマ株)	2020年11月 ブラジル	N501Y E484K	1.4-2.2倍高い 可能性	重篤度に影響がある 証拠なし	効果を弱める可能性 従来株感染者の再感染 事例の報告あり
P.3系統の変異株 (シータ株)	2021年1月 フィリピン	N501Y E484K	高い可能性	重篤度に影響がある 証拠なし	効果を弱める可能性
B.1.617系統の 変異株 (デルタ株等)	2020年10月 インド	L452R (E484Q)	高い可能性	重篤度に影響 がある証拠なし	ワクチンと抗体医薬の 効果を弱める可能性

※感染性・重篤度は、国立感染症研究所等による日本国内症例の疫学的分析結果に基づくもの。ただし、重篤度について、本結果のみから変異株の重症度について結論づけることは困難。
 ※PANGO系統(PANGO Lingage)は、新型コロナウイルスに関して用いられる国際的な系統分類命名法であり、変異株の呼称として広く用いられている。括弧内の変異株名は、WHOラベルである。

(出典)国立感染症研究所、WHO

新型コロナウイルスの注目すべき変異株（VOI）

PANGO系統 (WHOラベル)	最初の 検出	主な 変異	概要
R.1系統の変異株 (E484Kがある変異株)	-	E484K	<ul style="list-style-type: none"> 国内で海外から移入したとみられるが起源不明 感染性に影響を与える可能性がある変異は認められない 現在日本で使用されているワクチンの効果を完全に無効化するものとは考えにくい 引き続き、ゲノムサーベイランスを通じて実態を把握
B.1.427/B.1.429 系統の変異株 (イプシロン株)	2020年5月 米国	L452R	<ul style="list-style-type: none"> 2割程度の感染性の増加と治療薬（抗体医薬）の効果への影響が示唆されている 引き続き、ゲノムサーベイランスを通じて実態を把握

(参考) 感染症発生動向調査 (IDWR) (国立感染症研究所 6/4公表)

- ◆国内におけるSARS-CoV-2のゲノム解析 累積:45,945 (5/30時点) (+4,274) 括弧内は5/23時点比
- ◆国立感染症研究所等における全ゲノム解析により確認されたVOC, VOI (系統のみを特定できたものも含む) (5/31時点) 括弧内は5/24時点比
 - B.1.1.7系統の変異株 (アルファ株) :国内14,052例 (+2,817例)、検疫290例 (-1例)
 - B.1.351系統の変異株 (ベータ株) :国内28例 (+2例)、検疫69例 (-1例)
 - P.1系統の変異株 (ガンマ株) :国内87例 (+0例)、検疫20例 (+0例)
 - P.3系統の変異株 (シータ株) :国内0例、検疫7例 (+0例)
 - B.1.617系統の変異株(デルタ株等) :国内88例 (+43例)、検疫192例 (+3例)
 - R.1系統の変異株(E484Kがある変異株) :国内6,416例 (+652例)、検疫4例 (-1例)
 - B.1.427/B.1.429系統の変異株 (イプシロン株) :国内2例 (+0例)、検疫25例 (+0例)

※件数は暫定値であり、その時点において最新のpango lineageを基に計上しているものであるため、再集計した際に数値が変動する可能性がある。

※PANGO系統(pango lineage)は、新型コロナウイルスに関して用いられる国際的な系統分類命名法であり、変異株の呼称として広く用いられている。括弧内の変異株名は、WHOラベルである。

(出典) 国立感染症研究所、WHO

宿泊療養施設については、第4波の新型コロナウイルス感染者数の急増により15施設(3986室)を確保し、運営してきたところであるが、療養者が減少してきたことから、この度、改定された宿泊療養施設確保計画により7施設を待機施設※とし、残る8施設(1878室)の運用としている。

※ 待機施設: 安い単価で借り上げ契約を継続し、感染急拡大時に備え、すぐ対応できるよう準備している施設

[1] 宿泊療養施設確保計画における感染収束時の施設数

- 宿泊療養者確保計画(6/9 新型コロナウイルス対策協議会にて改定)
→ 感染収束時の基準新設

運用フェーズ	施設室数	次フェーズ 移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況から総合的に判断)	
		感染拡大時	感染収束時
フェーズ1	800室	およそ240人以上 → フェーズ1移行準備	-
フェーズ2	1,600室	およそ800人以上 → フェーズ2移行準備	およそ240人未満 → フェーズ1移行準備
フェーズ3	2,400室	およそ1,200人以上 → フェーズ3移行準備	およそ800人未満 → フェーズ2移行準備
フェーズ4	4,000室	-	およそ1,200人未満 → フェーズ3移行準備

6/9時点 入所者数303人
フェーズ2移行準備
(→1600室)

※ 確保計画を適用し、待機とした施設に事前通知を行ったうえで、6/11から新規入所者を止め、全員が退所した段階で『待機』へ

[2] 『運用施設』及び『待機施設』の考え方

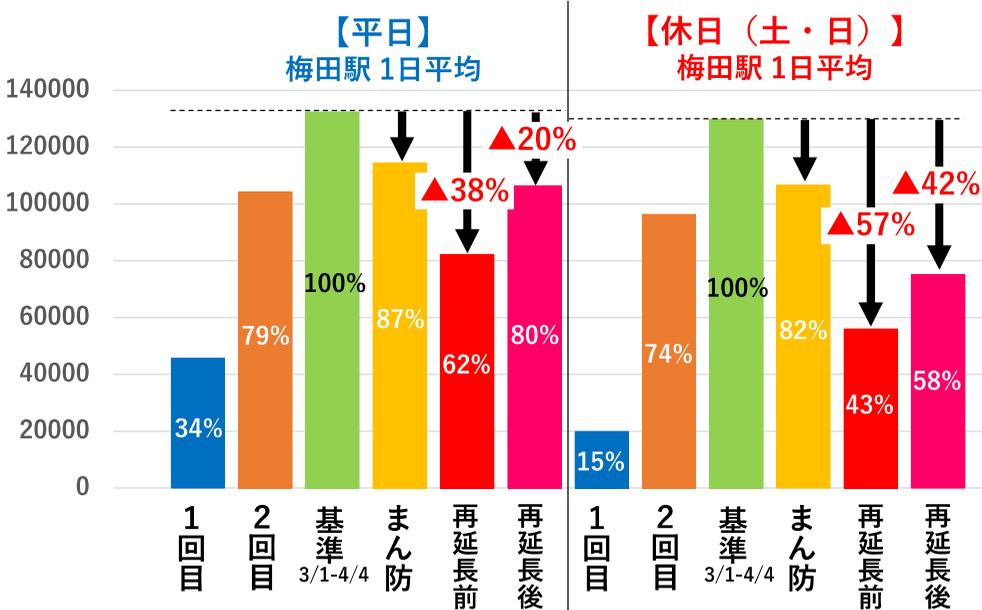
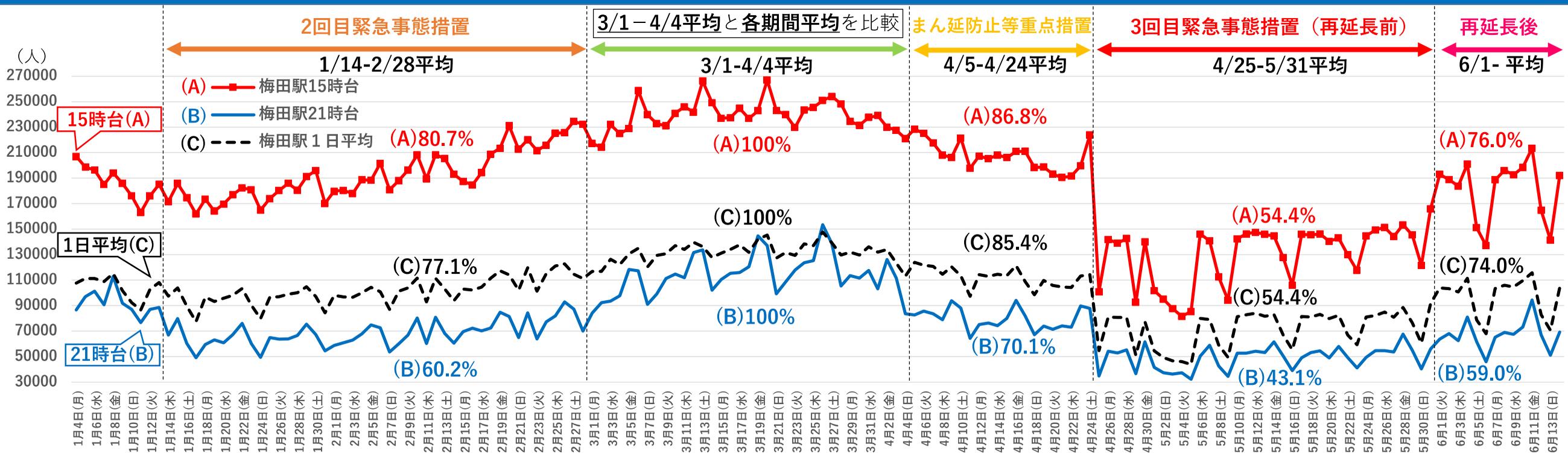
- 施設は1棟借していることから、施設単位で運用・待機を決定
- 男女別で施設運営を行っていることから、運用施設は偶数施設で運用
- 直近の入所者数から宿泊療養施設確保計画に基づき、フェーズ2の1600室を切らない範囲で施設を選定
- 経済性等を考慮し運用施設を決定

8施設 1878室 (男性用施設 909室、女性用施設 969室) で運用



【時間帯別】滞在人口の推移（梅田駅15時台・21時台）

資料1-7

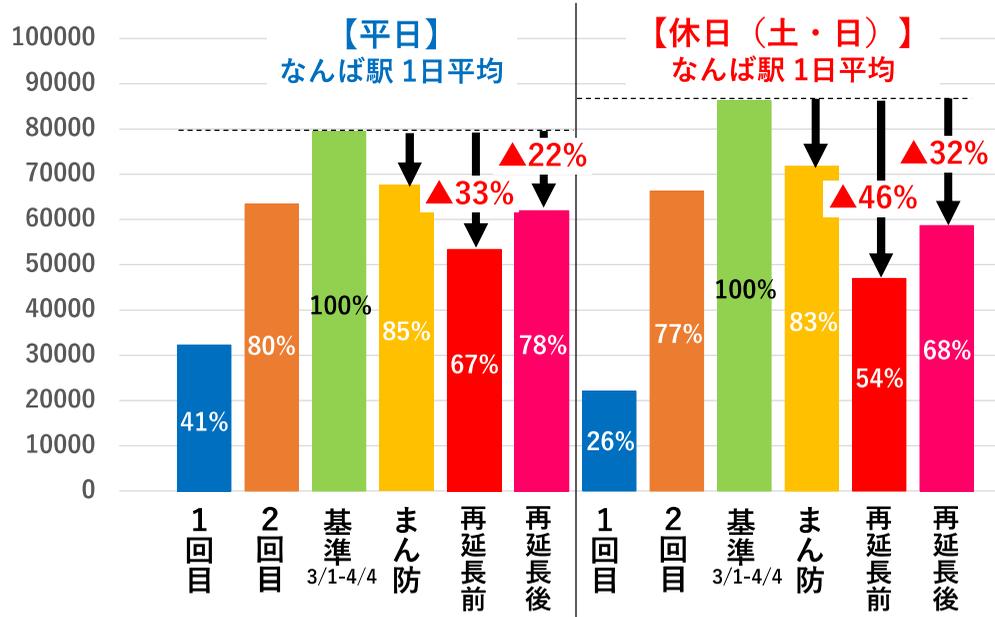
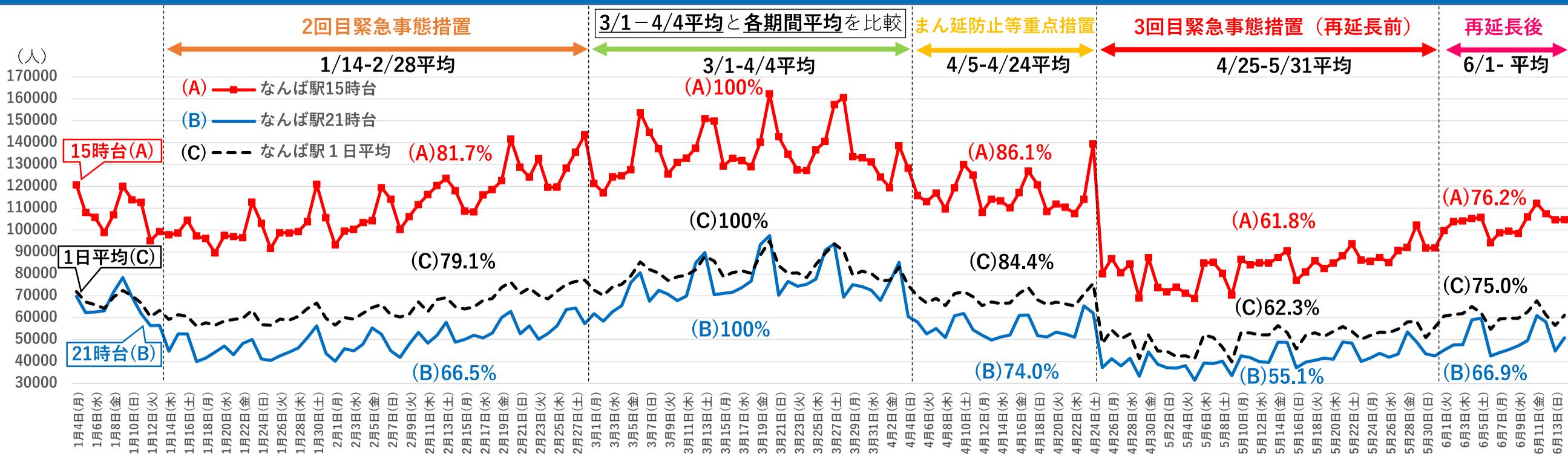


下表：3/1-4/4平均を基準（100%）とし、各措置期間の平日と休日の割合をそれぞれ算出

比較期間		1回目緊急事態措置 (4/7-5/21平均)			2回目緊急事態措置 (1/14-2/28平均)			まん延防止等重点措置 (4/5-4/24平均)			3回目緊急事態措置					
		20時まで 5/16以降22時まで			20時まで			20時まで (命令・過料有)			再延長前 (4/25-5/31平均)			再延長後 (6/1-6/14平均)		
主な措置状況	百貨店（生活必需以外） テーマパーク等への要請	休業要請			時短協力依頼			時短協力依頼			休業要請			土日休業要請		
		平日	休日	全日	平日	休日	全日	平日	休日	全日	平日	休日	全日	平日	休日	全日
15時台		32.8	14.1	26.0	81.0	79.3	80.7	87.6	85.1	86.8	61.9	43.1	54.4	82.7	60.1	76.0
21時台		25.7	12.9	21.2	61.9	57.1	60.2	70.2	69.5	70.1	47.9	36.2	43.1	62.3	50.4	59.0
1日平均		34.4	15.3	27.6	78.8	74.2	77.1	86.5	82.1	85.4	62.1	43.2	54.4	80.3	57.8	74.0

【出典：株式会社Agoop】 ※駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント
 (例)エリアに1人の人が、1時間滞在していた場合は1人。30分滞在していた場合は0.5人として計算。

【時間帯別】滞在人口の推移（なんば駅15時台・21時台）



下表：3/1-4/4平均を基準（100%）とし、各措置期間の平日と休日の割合をそれぞれ算出

比較期間		1回目緊急事態措置 (4/7-5/21平均)			2回目緊急事態措置 (1/14-2/28平均)			まん延防止等重点措置 (4/5-4/24平均)			3回目緊急事態措置					
		再延長前 (4/25-5/31平均)			再延長後 (6/1-6/14平均)											
主な措置状況	飲食店等時短要請	20時まで 5/16以降22時まで			20時まで			20時まで (命令・過料有)			20時まで。酒類提供の場合は休業(命令・過料有)			同左		
	百貨店(生活必需以外) テーマパーク等への要請	休業要請			時短協力依頼			時短協力依頼			休業要請			土日休業要請		
比較日時	平日	休日	全日	平日	休日	全日	平日	休日	全日	平日	休日	全日	平日	休日	全日	
15時台	39.0	23.7	33.4	81.3	80.5	81.7	86.7	86.3	86.1	66.2	53.8	61.8	79.4	69.2	76.2	
21時台	33.8	23.8	30.3	66.6	65.5	66.5	74.1	74.3	74.0	57.8	50.4	55.1	67.6	65.3	66.9	
1日平均	40.6	25.5	35.2	79.8	76.8	79.1	85.1	83.3	84.4	67.1	54.4	62.3	78.0	68.0	75.0	

【出典：株式会社Agoop】 ※駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント (例)エリアに1人の人が、1時間滞在していた場合は1人。30分滞在していた場合は0.5人として計算。

緊急事態措置期間

(4月25日～6月20日) ※6月14日時点

大阪府内の飲食店約10万店舗を外観等
(20時～21時30分)で確認

①
○まん延防止等重点措置
期間中(4/5～24)の
協力要請の文書通知を
行った店舗
109店舗 (大阪市内)

○4/25以降、外観等によ
り現地確認を行った結果、
営業中と思われる店舗
174店舗 (大阪市外)

○通報のあった店舗等
約1,000店舗

②
未協力確認
済店舗
(架電による
確認)

③
未協力店舗への
実地調査
(府による指導
・助言)

④
協力要請の
文書通知

法45条第2項に基づく要請の手続き

⑤
個別店舗へ
の要請
(事前通知)
81店舗

実地調査

⑥
個別店舗
への要請
(通知)
77店舗

地方裁判所への通知手続き中
11店舗

法45条第3項に基づく命令の手続き

⑦
営業時間
短縮命令
(事前通知)
40店舗

実地調査

⑧
弁明の機
会の付与
(2W)
40店舗

⑨
営業時間
短縮命令
(通知)
16店舗

⑩
店舗への現地
確認(命令違
反の確認)
11店舗

⑪
地方裁判
所へ通知
(過料)

※__は、緊急事態宣言再延長以前(4/25～5/31)に
命令を発出した店舗

概要

感染症に強い強靱な社会・経済の形成を図っていくため、飲食店における感染防止対策のさらなる促進や府民が安心して利用できる環境整備につながる、新たな認証制度を創設。

対象

飲食店（但し、テイクアウト等を除く）

認証基準

国基準を基本に、府独自基準を設定。

（例）・アクリル板等の設置（座席間隔の確保）

- ・手指消毒の徹底
- ・食事中以外のマスク着用の推奨
- ・換気の徹底、CO2センサーの設置
- ・症状のある従業員に対する「飲食店スマホ検査センター」の積極的な利用の推奨
- ・コロナ対策リーダーの設置 等



受付開始

6月16日（水）

※府HPで、「要綱」「認証基準」「コロナ対策リーダー研修教材」及び、「WEB説明会の動画」等を掲載中

HP 大阪府 感染防止認証ゴールドステッカー



問合せ

感染防止認証ゴールドステッカーコールセンター（開設中）

電話番号：06-7178-1371

開設時間：平日9時30分～17時30分

※ただし、19（土）、20（日）は開設

ステッカー発行手続き

申請フロー

発行手続き 事業者からの申請と現地確認による審査の上、ゴールドステッカーを交付。



一部先行発行について

目的

府民の皆様に安心してご利用いただける店舗であることを速やかに周知していく。

対象

「見回り隊」による現地調査（4月5日～5月31日）において、「対策を全て実施していた」もしくは「対策未実施項目が1項目のみ」の店舗

先行発行手続き

店舗が申請手続きを行うまでの間、大阪府よりゴールドステッカー（期限付き）を発行。速やかに（遅くとも2か月以内）本申請を完了。2か月以内に本申請がない場合は、ステッカーを取り消し。



- ◆ 飲食店における感染を防止し、府民が安心して利用できる環境整備のため、少しでも症状のある従業員等が迅速に検査を受けることができるよう、飲食店「スマホ検査センター」を設置。

対象者

府内の飲食店営業許可を受けている店舗（対象：約10万施設）の従業員等で**少しでも症状がある方**

運用開始

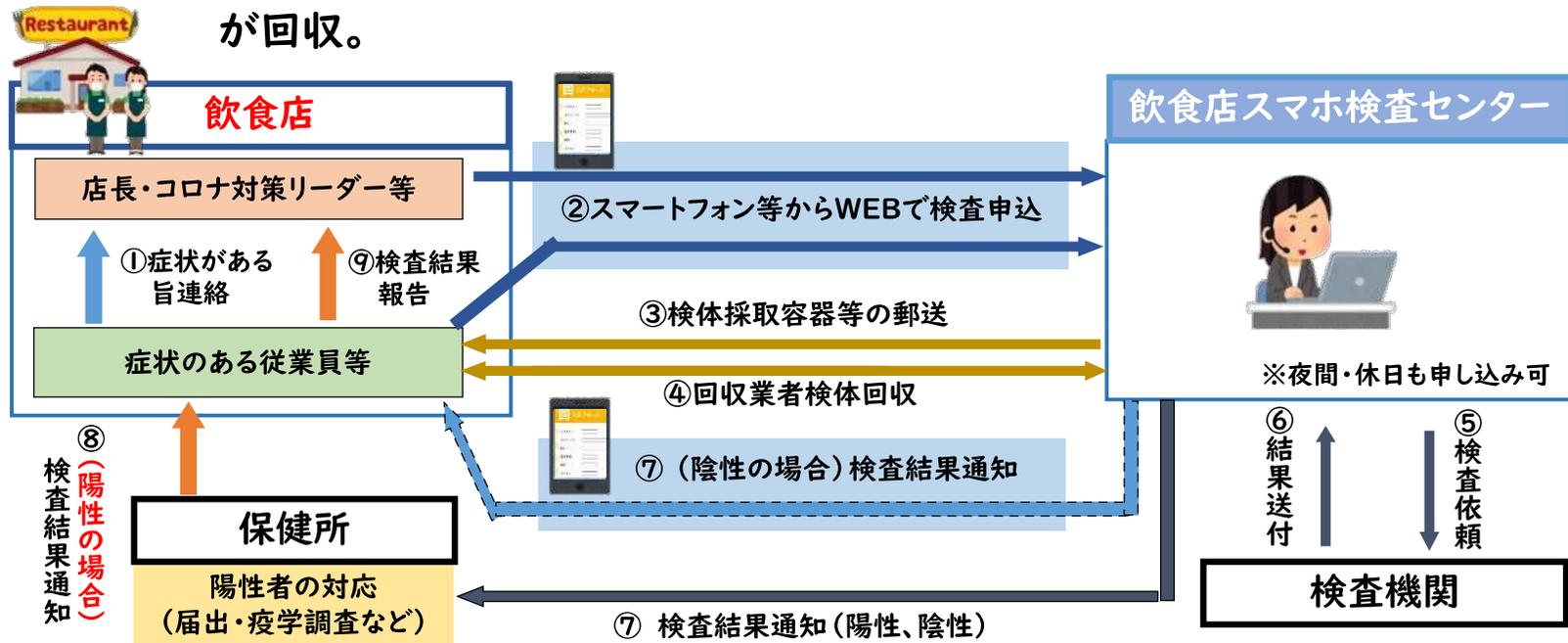
6月16日（水）午前9時よりWeb受付開始（申込は24時間対応）

内容

○有症状者への**行政検査**

○飲食店や受検者本人の**費用負担なし**

○症状のある従業員等は、検体採取容器を郵送で受け取り、検体採取、業者が回収。



【まん延防止等重点措置の実施の考え方】（6/10 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針より抜粋）
 都道府県の特定の区域において感染が拡大し、当該都道府県全域に感染が拡大するおそれがあり、それに伴い医療提供体制・公衆衛生体制に支障が生ずるおそれがあると認められる事態が発生していること（特に、分科会提言におけるステージⅢ相当の対策が必要な地域の状況になっている等）を踏まえ、政府対策本部長が基本的対処方針分科会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。 <以下略>

【現在の状況】

- ◆ 4月25日以降、緊急事態措置を実施したことにより、新規報告数は大きく減少し、ステージⅢの目安を下回るとともに、確保病床占有率及び重症病床占有率も、ステージⅣの目安を下回っている。
- ◆ しかし、確保病床占有率及び重症病床占有率は、いまだステージⅢの目安を超えており、再び感染が拡大すれば、医療提供体制のひっ迫は避けられない。
- ◆ このため、感染拡大を抑えるため、引き続き、徹底した感染防止対策が必要。

指標（抜粋）		ステージⅣ 目安	ステージⅢ 目安	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	ステージⅣ 目安の状況	ステージⅢ 目安の状況
医療提供 体制等の負荷	確保病床の占有率	50%以上	20%以上	34.1%	32.9%	33.2%	33.8%	29.9%	○	●
	入院率	25%以下	40%以下	15.8%	15.8%	16.2%	17.2%	19.9%	●	●
	重症病床の占有率	50%以上	20%以上	26.6%	25.8%	25.7%	25.2%	24.8%	○	●
	人口10万人あたり療養者数	30人以上	20人以上	66.41	63.99	62.84	60.27	46.13	●	●
感染の状況	陽性率 1週間平均	10%以上	5%以上	1.3%	1.2%	1.2%	1.2%	1.0%	○	○
	週・人口10万人あたり新規報告数	25人以上	15人以上	11.53	10.98	10.43	10.26	9.35	○	○
	感染経路不明割合 1週間平均	50%以上		58.0%	59.2%	60.9%	60.3%	62.6%	●	

大阪府が緊急事態措置区域から除外された場合には、大阪府域に係る「まん延防止等重点措置」の公示を行うよう、国に対し、新型インフルエンザ等対策特別措置法第31条の4第6項に基づき、要請する

専門家のご意見（専門家会議・朝野座長）

【現在の感染状況】

- ・ 新規検査陽性者数は順調に減少してきている。
- ・ 人口 10 万人当たりの新規検査陽性者数は、大阪市内外ともにステージII相当に減少してきている。
- ・ 新規陽性者数の推移は、20 代、30 代が他の世代に比べて多く、大阪市内の 20 代、30 代の陽性者数は、いまだにステージIVおよびIIIである。
- ・ 地域としては市内>市外で推移しているため、大阪府としては、府全体ではなく、府内の最も多いところ、多い世代を対策の判断の基準にすべきであると考える。
- ・ 重症患者数は 134 人で、重症病床運用率は約 40%であり、ステージIII相当である（確保病床 224 床に対しては約 60%とステージIV）。

【第3波との比較】

- ・ 第3波の緊急事態宣言解除時（2月28日）に比較して5月20日時点での推計では、人口10万人当たりの新規陽性者数および重症患者病床数とも約1.5～2倍多い状況である。
- ・ 第3波の緊急事態宣言解除時には、大阪市内の飲食店の時短営業要請など段階的な緩和措置を実施していたにも関わらず、新規陽性者数は数日で増加に転じ、重症者数も減少の後、約20日後に増加に転じていた。
- ・ 3月末には検査陽性者数が急増し、大阪府内全域の飲食店の時短要請や不要不急の外出の自粛要請を伴うまん延防止等重点措置の要請を決定し、4月5日に発令されたときにはステージIVになり、変異株への置き換わりと、陽性者数の急激な増加を伴う第4波につながった。
- ・ したがって、現在は2回目の緊急事態宣言解除時点よりは多い新規陽性患者数と重症病床数であるため、第4波と同様の増加が起これば、医療のひっ迫は同等かそれ以上に厳しいものとなることが予想される。

【第4波の振り返り】

- ・ 発症日ベースで確認すると、4月5日からのまん延防止等重点措置は陽性者数の増加を抑制し、4月25日からの第3回目の緊急事態宣言は陽性者の減少をもたらしたと考えられる。
- ・ 問題は、重点措置や緊急事態宣言の発令の時期であり、急激な増加の局面では、自治体が要請し、国が発令するという手順で生まれるタイムラグ（時差）は、流行の波の高さにとって決定的な影響を及ぼす。
- ・ 陽性者数が増加に転じた時点で、少なくともまん延防止等重点措置と同等の対策を自治体独自で素早く実施することが求められる。

【昨年との比較】

- ・ 第1波と第4波の比較で、流行の波のパターンは概ね同時期に起こっていることから、次の波は昨年の第2波と同じ6月末から陽性者数が増加に転じ、7月から8月にかけてピークをむかえることが予想される。

【考察】

以上のことから、現状は、第3波の緊急事態宣言解除時期と比較しても陽性者数、重症者数、病床使用数とも多く、リバウンドを起こせば、第4波以上の医療のひっ迫が起こりうる。もちろん、それに対しては、災害級非常時対応として重症病床500床をはじめとして病床確保を進めていただいているが、感染の規模は予測不能であり、新たな変異株が主流になった場合、現在の確保計画では不十分である可能性もありうる。したがって、ワクチンの普及はもちろん重要だが、現時点ではワクチンによる集団免疫の効果もほとんどないため、効果的な人流抑制を継続することが必要と考える。

大阪府からの国への要請である「大阪府が緊急事態措置区域から除外された場合には、大阪府域に係るまん延防止等重点措置の公示を行うよう、国に対し、新型インフルエンザ等対策特別措置法第31条の4第6項に基づき、要請する」ことは、緊急事態宣言から重点措置へ連続的に移行し、先に述べたまん延防止等重点措置の発令の遅れ（時差）が解消される方策と考えられ、適切であると考える。

そのうえで、第4波の経験と解析を踏まえて、まん延防止等重点措置を行う場合の具体的な措置内容の実効性を高めることが鍵となる。